

建築設備設計基準ソフトウェア
STABRO 負荷計算 令和 6 年版

操作マニュアル

2025 年 6 月

株式会社イズミコンサルティング

目次

はじめに	4
本書および本ソフトについて	4
使用データについて	4
確認する	5
画面構成	5
基本操作	6
メニュー	6
[ファイル]メニュー	6
[ホーム]メニュー	7
[サポート]メニュー	8
クリックアクセスツールバー	8
作業ページバー	9
物件データを開く	9
物件データを保存する	10
使いかた	11
[設計条件]作業ページ	11
[建物概要]、[設計地区]、[建物方位]、[計算オプション]	11
[地区データ]作業ページ	14
[設計用屋外条件]タブ	14
[ガラス面標準日射熱取得 IG]タブ	17
[太陽高度、太陽方位]タブ	18
[見掛けの太陽高度と方位角]タブ	20
[実効温度差 ETD]タブ	22
[暖房設計用地中温度]タブ	23
[屋内データ]作業ページ	25
[設計用屋内条件]タブ	25
[照明器具の消費電力]タブ	26
[人体発熱量]タブ	28
[事務機器の消費電力]タブ	29
[非空調隣室温度]タブ	30
[窓ガラス・構造体]作業ページ	32
[ひさし・ルーバー(縦)]タブ	32
[窓ガラス]タブ	36
[外壁、屋根、ピロティ床、内壁、天井・床、地中壁、土間床]タブ	40
[ガラス種類の登録]ウインドウ	47
[構造体材料の登録]ウインドウ	48
[室登録]作業ページ	50
[ページ表示]モード	50
[シート表示]モード	70
ソート機能	71
[系統登録]作業ページ	73
[系統ツリー]、[系統詳細]	73
[負荷確認]作業ページ	77

[最大負荷一覧表]、[負荷詳細表]	77
帳票出力	79
[帳票出力] ウィンドウ	79
CSV ファイル出力	86
[CSV ファイルの保存] ダイアログ	86
CSV ファイルの構成、及び詳細	86
物件データのインポート	91
[物件データのインポート] ウィンドウ	91
入力分担したデータのインポート	92
旧バージョン(令和 3 年版 Ver.6.0)のプログラムで作成したデータのインポート	93
その他の画面	97
[オプション] ウィンドウ	97
[バージョン情報] ウィンドウ	101
オンラインサポート	102
最新版のチェック	103

はじめに

本書および本ソフトについて

本書は、STABRO 負荷計算（以下、「本ソフト」といいます。）の操作方法について説明したものです。

本ソフトは『建築設備設計基準 令和 6 年版』(一般社団法人 公共建築協会 編集・発行)記述内容の使用について一般社団法人 公共建築協会の許諾を得て行っております。

出力様式は『建築設備設計計算書作成の手引 令和 6 年版』(一般社団法人 公共建築協会 編集・発行)に準拠しており、その他、入力データチェックのため当社独自の様式を加えてあります。

さらに、帳票を Microsoft Excel ファイル形式で出力することが可能ですので、結果の確認やデータ保管およびさまざまな活用が期待できます。

本ソフトは、床暖房負荷および木造建築物の負荷計算には対応しておりません。

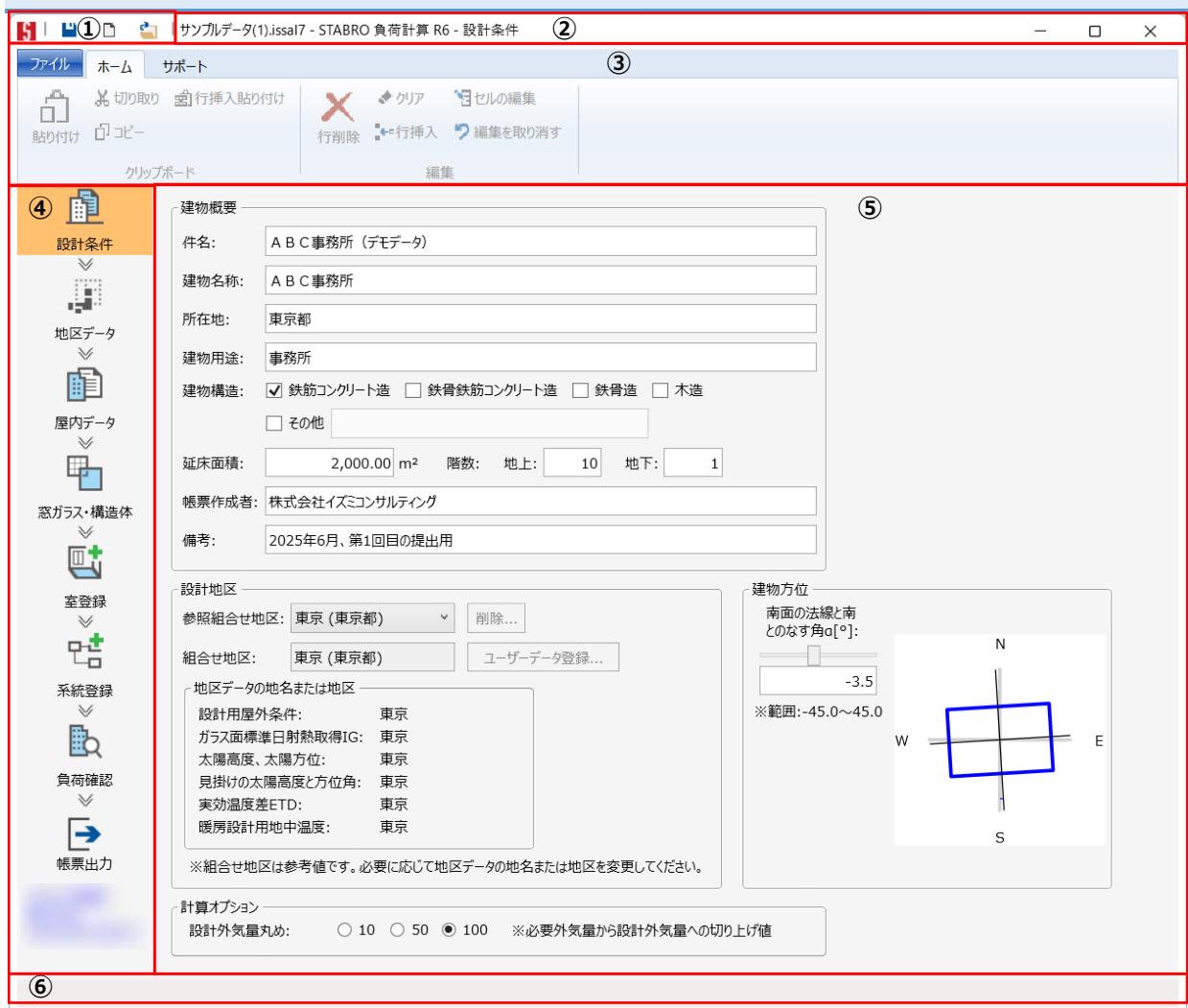
使用データについて

本ソフトは『建築設備設計基準 令和 6 年版』(一般社団法人 公共建築協会 編集・発行)に記載されている地区データ、材料データ等を使用していますが、不足や掲載されていない部分につきましては、以下の文献のデータを使用しています。

- ・ 社団法人空気調和・衛生工学会発行 『空気調和衛生工学便覧 第 14 版』
- ・ 独立行政法人 建築研究所発行
『平成 25 年省エネルギー基準（非住宅建築物）一次エネルギー消費量算定用 WEB プログラムの解説』
- ・ 国立研究開発法人 建築研究所発行
『平成 28 年エネルギー消費性能計算プログラム（非住宅版）解説』

確認する

画面構成



STABRO 負荷計算 R6 の画面構成です。

① クイックアクセスツールバー

メニューの中で主に使用するコマンドをワンクリックで実行できるボタンです。

② タイトルバー

作業中の物件データ名、本プログラムの名称、作業ページ名を表示します。

(物件データ名 - 本プログラムの名称 - 現在の作業ページ名)

物件データが読み取り専用の場合、ファイル名の後に"[読み取り専用]"を表示します。

③リボンメニュー

プログラムで使用する機能や状態変更等のコマンドを選択します。

④作業ページバー

データ入力を行う作業ページを表示するボタンです。

ライセンス期間（残日数、期限日）を表示します。残り 30 日以下になると赤字で表示します。

⑤作業ページ領域

作業ページを表示する領域です。

⑥ステータスバー

時間がかかる処理の状況等を表示する領域です。

基本操作

以下の方法で、本ソフトを起動します。

スタートメニューの下記のアイコンをクリックします。

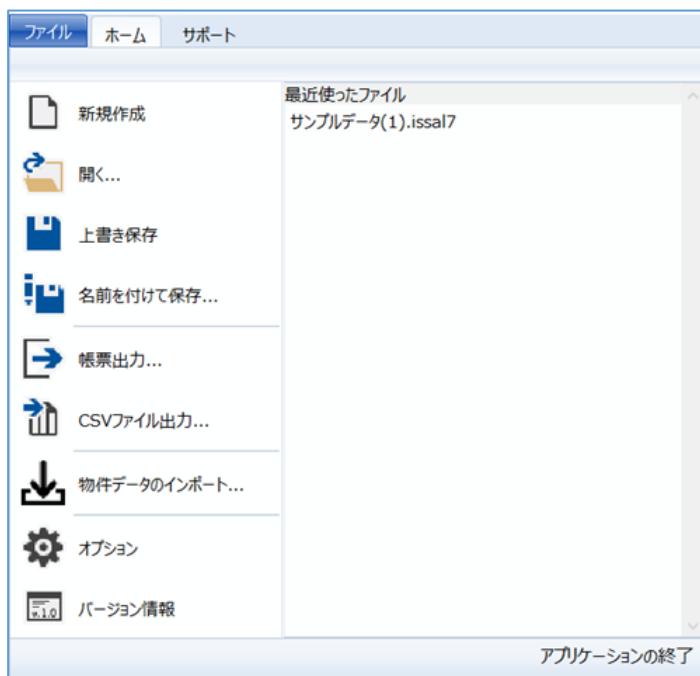


デスクトップのショートカットをダブルクリックします。



メニュー

[ファイル]メニュー



項目	説明
新規作成(N)	新規に物件データを作成します。
開く(O)...	既存の物件データを開きます。 (「物件データを開く」を参照)

項目	説明
上書き保存(S)	処理中の物件データを上書き保存します。 保存していないファイルの場合、または読み取り専用のファイルの場合「名前を付けて保存」画面を表示します。(「物件データを保存する」を参照)
名前を付けて保存(A)...	処理中の物件データに別のファイル名を付けて保存します。(「物件データを保存する」を参照)
帳票出力(P)...	帳票を Excel ファイルに出力します。 ([帳票出力] ウィンドウを参照)
CSV ファイル出力(C)...	処理中の物件データを CSV ファイル形式で出力します。 (CSV ファイル出力を参照)
物件データのインポート(I)...	入力を分担した物件データや旧バージョン(令和 3 年版 Ver.6.0)のプログラムで作成した物件データを読み込みます。 (物件データのインポートを参照)
オプション(T)	[オプション] ウィンドウを表示します。
バージョン情報(V)	[バージョン情報] ウィンドウを表示します。
アプリケーションの終了(X)	プログラムを終了します。

物件データを開くか保存したことがある場合、[最近使ったファイル] 下に最近使ったファイルの一覧を最大 5 つまで表示します。

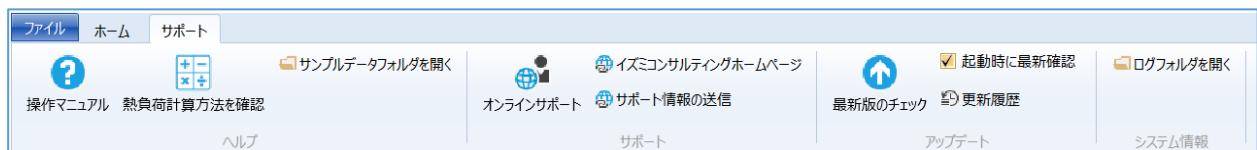
最近使ったファイルの一覧は、[オプション] ウィンドウで削除できます。

[ホーム]メニュー



項目	説明
貼り付け(P)	選択した範囲にコピーしたデータを上書きで貼り付けます。
切り取り(T)	選択した範囲をクリップボードにコピーしてからクリアします。
行挿入貼り付け(S)	選択した範囲の先頭に選択行数分の空白行を挿入し、行コピーした行数分のデータを貼り付けます。
コピー(C)	選択した範囲をクリップボードにコピーします。
行削除(D)	選択した範囲の行を削除します。
クリア(L)	選択した範囲をクリアします。
セルの編集(E)	選択したセルを編集状態にします。
行挿入(I)	選択した範囲の先頭に選択行数分の空白行を挿入します。
編集を取り消す(U)	ページ遷移時の状態に全て戻します。

[サポート]メニュー



項目	説明
操作マニュアル(M)	操作マニュアルを開きます。
熱負荷計算方法を確認(N)	熱負荷計算法ドキュメントを開きます。 熱負荷計算法ドキュメントとは、本ソフト内で使用している計算式をまとめたドキュメントです。計算根拠の確認や計算にご活用ください。
サンプルデータフォルダを開く(F)	サンプルデータフォルダを開きます。 サンプルデータフォルダとは、入力サンプルとして弊社が提供する STABRO 負荷計算データの格納場所です。入力の参考にご活用ください。
オンラインサポート(O)	オンラインサポートサービスを開きます。
イズミコンサルティングのホームページ(W)	弊社のホームページを開きます。
サポート情報の送信(S)	サポートに必要なアプリケーション情報をイズミコンサルティングに送ります。
最新版のチェック(U)	プログラムが最新か、更新版があるかどうかチェックします。
起動時に最新確認(C)	起動時に最新版プログラムを確認します。 チェックを外した場合、次回起動時より最新版の確認は行いません。
更新履歴(H)	プログラムの更新履歴を表示します。
ログフォルダを開く(L)	ログファイルを格納しているフォルダを開きます。 弊社のサポートを受ける際に必要となります。

クリックアクセスツールバー



メニューの中で主に使用するコマンドをワンクリックで実行できるボタンです。

常にすべてが使用可能なわけではなく、状況に応じて使用可否が変化するボタンがあります。その変化は対応するメニューと連動しています。

アイコン	名前	対応するメニュー
	上書き保存	[ファイル(F)]-[上書き保存(S)]
	新規作成	[ファイル(F)]-[新規作成(N)]
	開く	[ファイル(F)]-[開く(O)...]

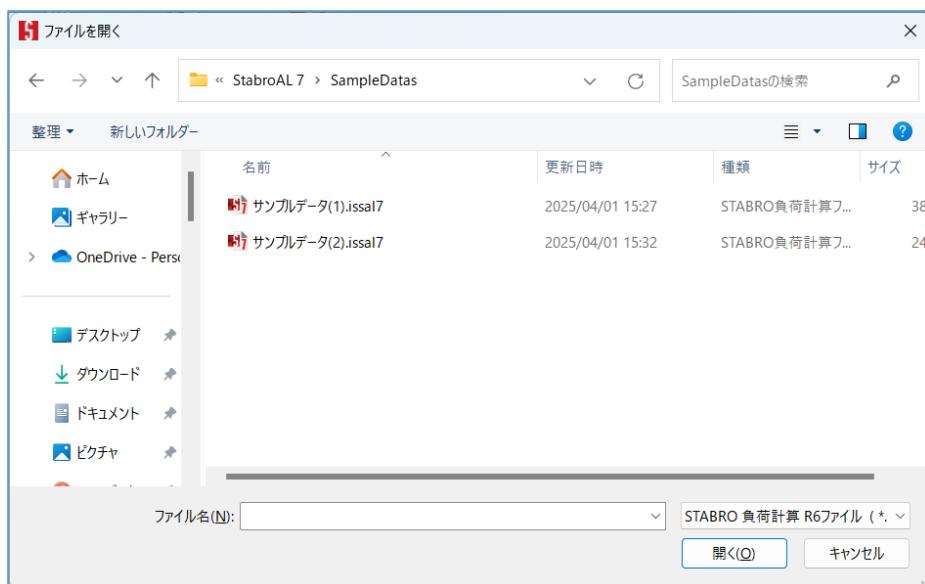
作業ページバー

データ入力を行う作業ページを表示するボタンです。

入力状況にかかわらず、いつでも該当する作業ページを表示することができます。

アイコン	名前	説明
	設計条件	[設計条件]作業ページを表示します。
	地区データ	[地区データ]作業ページを表示します。
	屋内データ	[屋内データ]作業ページを表示します。
	窓ガラス・構造体	[窓ガラス・構造体]作業ページを表示します。
	室登録	[室登録]作業ページを表示します。
	系統登録	[系統登録]作業ページを表示します。
	負荷確認	[負荷確認]作業ページを表示します。
	帳票出力	[帳票出力]ウィンドウを表示します。

物件データを開く



ファイルの種類の初期値は「STABRO 負荷計算 R6 ファイル (*.issal7)」です。拡張子が「.issal7」のファイルを表示します。フォルダの初期値は"ドキュメント"です。

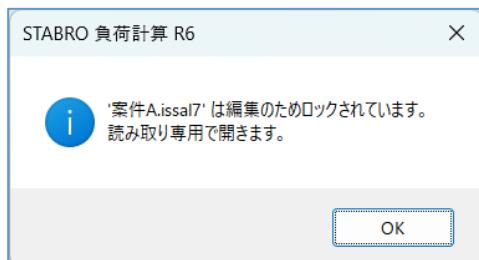
開きたいファイルを指定して[開く(O)]ボタンをクリックしてください。

このダイアログボックスは、メインウインドウで以下の操作をすると表示します。

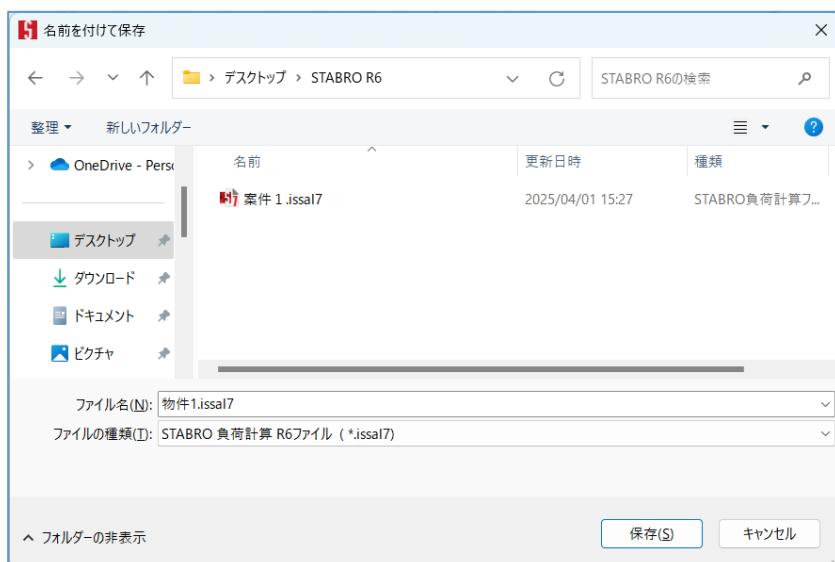
- [ファイル(F)]-[開く(O)...]メニューを選択、または、クリックアクセスツールバーの[開く...]ボタンをクリック

※最初に表示するフォルダを変更する場合、[オプション]ウィンドウ-[全般]タブの[カレントフォルダ]で行います。

既に他のユーザーが編集中の物件データを開いた場合、以下のメッセージが表示され、読み取り専用として開きます。



物件データを保存する



必要に応じてファイル名を変更し、[保存(S)]ボタンをクリックすると保存できます。

ファイル名に拡張子を指定しない場合や「.issal7」以外を指定した場合、自動的に「.issal7」が拡張子となります。

このダイアログボックスは、メインウインドウで以下の操作をすると表示します。

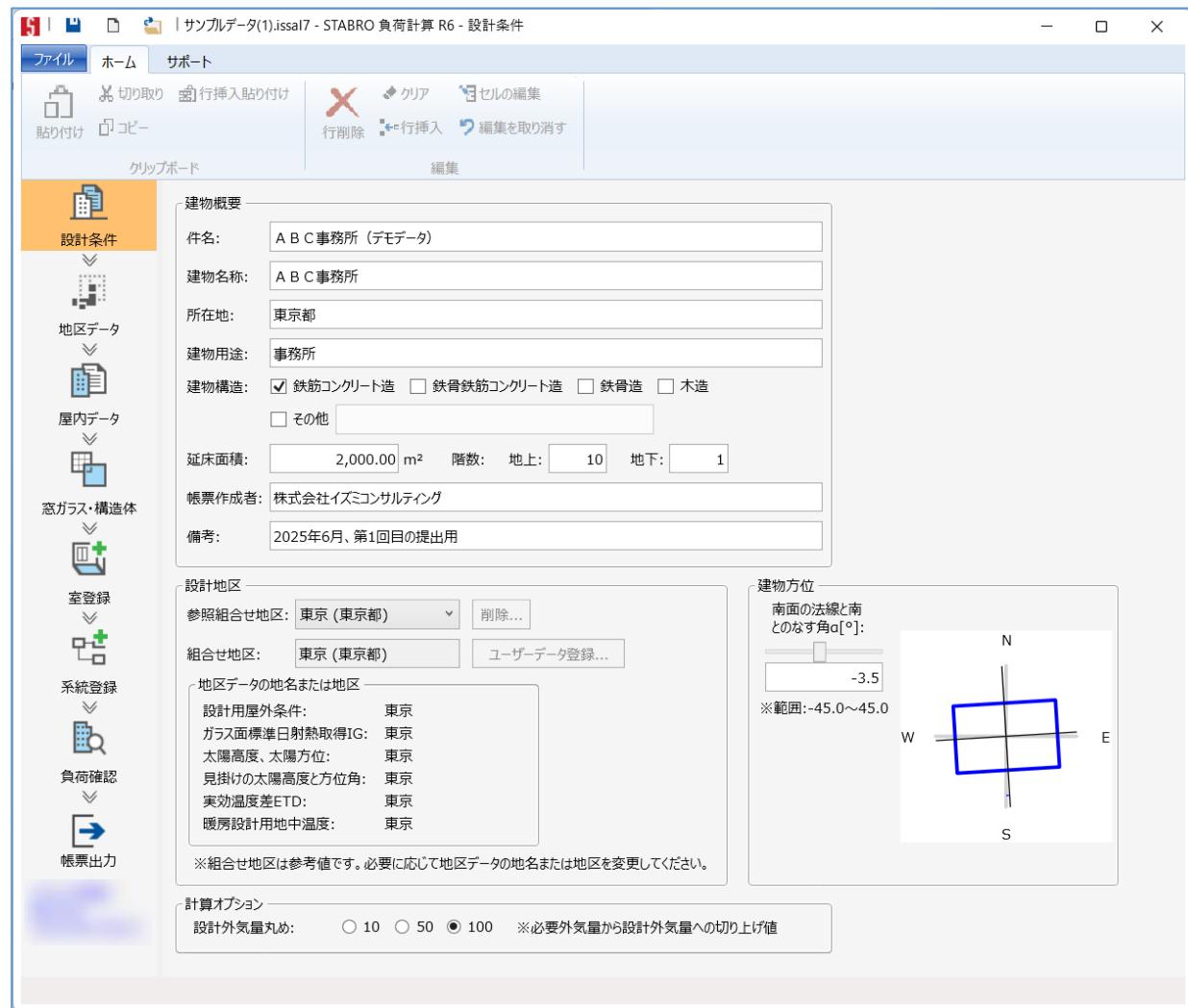
- [ファイル(F)]-[名前を付けて保存(A)...]メニューを選択
- 現在編集中の物件データが未保存の状態で「新規作成」、「開く」、「物件データのインポート」、「最近使ったファイル」、「アプリケーションの終了」を押下した際の保存確認メッセージで「はい」を選択
- 読み取り専用のファイルを開いている状態で「上書き保存」を押下した際の確認メッセージで「OK」を押下



使いかた

[設計条件]作業ページ

[建物概要]、[設計地区]、[建物方位]、[計算オプション]



建物概要や設計地区、建物方位、計算オプションを入力します。

[建物概要]

項目	説明
[件名]	保存ファイル名の初期値、帳票の各ページヘッダーに影響します。 全角 127(半角 255)文字まで入力可能です。
[建物名称]	帳票の「建物方位・太陽位置図」に出力します。 全角 127(半角 255)文字まで入力可能です。
[所在地]	帳票の「建物方位・太陽位置図」に出力します。 全角 127(半角 255)文字まで入力可能です。
[建物用途]	帳票の「建物方位・太陽位置図」に出力します。 全角 127(半角 255)文字まで入力可能です。

項目	説明
[建物構造]	<p>帳票の「建物方位・太陽位置図」に出力します。</p> <p>複数のチェックが可能です。</p> <p>複数チェックがある場合は「、」で区切って帳票に出力します。</p> <p>「その他」にチェックした場合、テキストボックスが入力可能となります。</p> <p>全角 127(半角 255)文字まで入力可能です。</p> <p>※選択項目に「木造」がありますが、木造建築物の負荷計算には対応しておりません。</p>
[延床面積]	<p>帳票の「建物方位・太陽位置図」に出力します。</p> <p>0~999,999,999.99 の範囲が入力可能です。</p>
[階数] - [地上]	<p>帳票の「建物方位・太陽位置図」に出力します。</p> <p>0~999 の範囲が入力可能です。</p>
[階数] - [地下]	<p>帳票の「建物方位・太陽位置図」に出力します。</p> <p>0~99 の範囲が入力可能です。</p>
[帳票作成者]	<p>帳票の「表紙」に出力します。</p> <p>全角 127(半角 255)文字まで入力可能です。</p>
[備考]	<p>帳票には出力しませんが、物件の補足情報など自由に入力できます。</p> <p>全角 127(半角 255)文字まで入力可能です。</p>

[設計地区]

項目	説明
[参照組合せ地区]	<p>「設計用屋外条件」、「ガラス面標準日射熱取得 IG」、「太陽高度、太陽方位」、「見掛けの太陽高度と方位角」、「実効温度差 ETD」、「暖房設計用地中温度」の 6 つのデータ項目の地名や地区を一度に設定するための弊社独自の項目です。</p> <p>参照組合せ地区の初期供給データは、「設計用屋外条件」から引用した 80 地区です。</p> <p>「ガラス面標準日射熱取得 IG」、「太陽高度、太陽方位」、「見掛けの太陽高度と方位角」、「実行温度差 ETD」、「暖房設計用地中温度」の各地区データの組合せは、気象庁 HP に掲載の緯度が最も近いものを根拠としています。</p> <p>あくまで参考値ですので、必要に応じて各地区データの地名または地区を変更してご利用ください。ユーザー独自の参照組合せ地区は、ユーザーデータとして追加することも可能です。</p>
[削除...]	<p>選択している「参照組合せ地区」を削除します。</p> <p>ただし、初期供給の「参照組合せ地区」の場合、ボタンが有効になりません。</p>
[組合せ地区]	<p>現在の組合せ地区を表示します。</p> <p>[地区データ]作業ページで「設計用屋外条件」、「ガラス面標準日射熱取得 IG」、「太陽高度、太陽方位」、「見掛けの太陽高度と方位角」、「実効温度差 ETD」、「暖房設計用地中温度」の各地名や地区を変更すると組合せ地区が編集可能となり、ユーザーデータとして登録することができます。</p> <p>帳票にこの地区名は出力しません。</p>

項目	説明
[ユーザーデータ登録...]	<p>現在の地区の組合せをユーザーデータとして登録します。</p> <p>[地区データ]作業ページで各地名や地区を変更するとユーザー独自の地区組合せとなり、登録しておくことにより他の物件で選択できるようになります。</p> <p>※注意事項※</p> <p>令和3年版以前で作成したユーザーデータを令和6年版で使用する場合は、『<u>STABRO負荷計算 令和6年版 利用開始方法と変更・追加点</u>』の「ユーザーデータの移行方法」の手順に従って再登録してください。</p>
[地区データの地名または地区]	現在の[地区データ]作業ページの各地名や地区を表示します。

[建物方位]

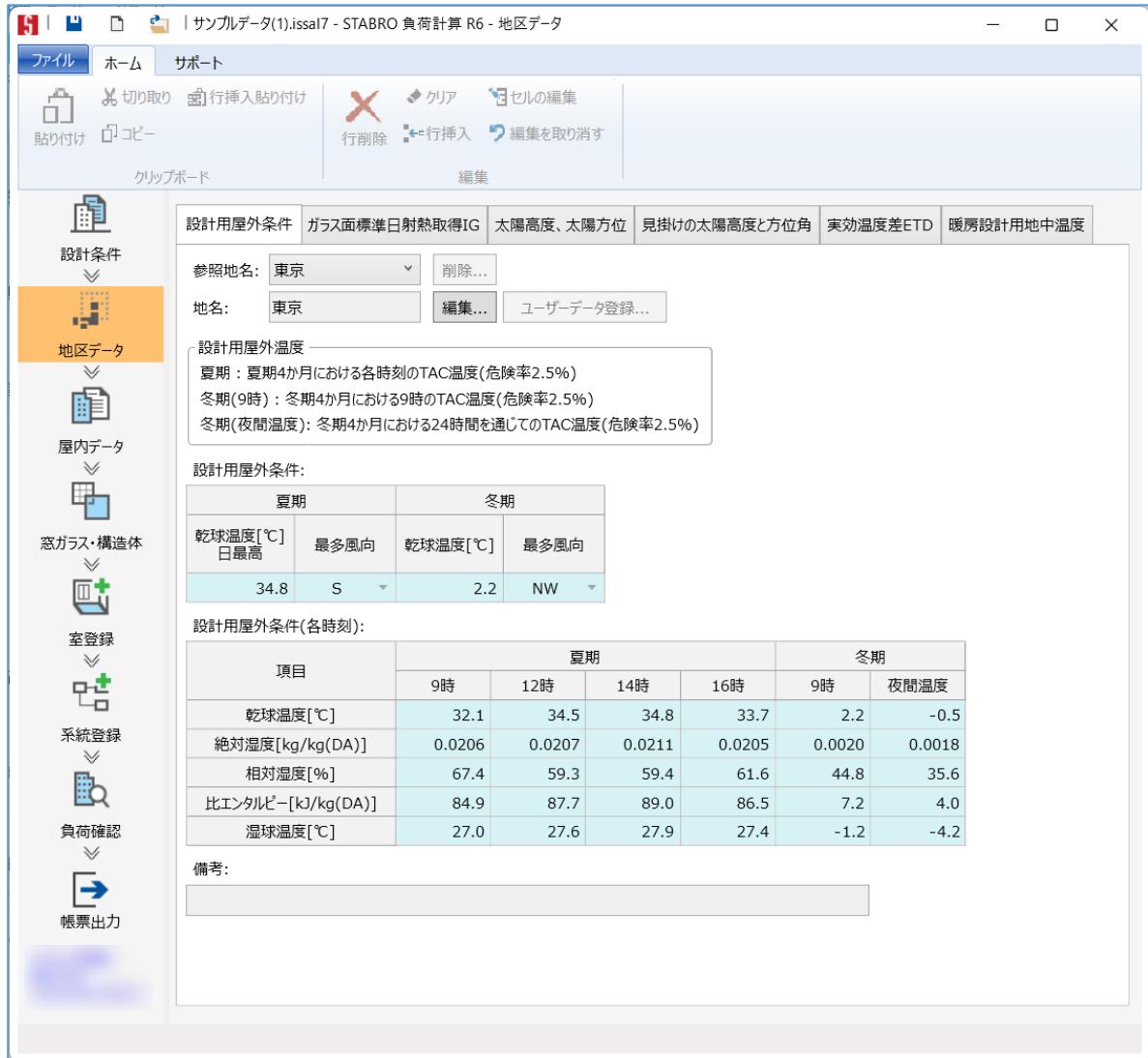
項目	説明
[南面の法線と南とのなす角a[°]]	<p>建物の南面の法線と南とのなす角aを入力します。</p> <p>入力した角度は計算では使用しませんが、帳票の「建物方位・太陽位置図」に図を出力します。</p> <p>-45.0～45.0 の範囲が入力可能です。</p> <p>スライダーにより±1 の増減が可能です。</p>

[計算オプション]

項目	説明
[設計外気量丸め]	<p>[室登録]作業ページで「必要外気量」から「設計外気量」へ値を切り上げる際の、単位を選択します。</p> <p>初期値は「100」です。</p>

[地区データ]作業ページ

[設計用屋外条件]タブ



「設計用屋外条件」、「設計用屋外条件(各時刻)」データを確認または設定します。

[参照地名]

地名リストの中から 1 つを選択します。選択すると「地名」、「設計用屋外条件」、「設計用屋外条件(各時刻)」、「備考」がその地名の内容となります。初期供給データは 80 地名ですが、ユーザーが追加することも可能です。

[削除...]

選択している「地名」を削除します。ただし、初期供給の「地名」の場合、ボタンが有効になりません。

[地名]

現在の地名を表示します。[編集...]ボタンが押下済みの場合、入力可能です。

[編集...]

現在の「地名」、「設計用屋外条件」、「設計用屋外条件(各時刻)」、「備考」が入力可能となります。「地名」が入力不可の場合、押下可能です。

[ユーザーデータ登録...]

現在の「地名」、「設計用屋外条件」、「設計用屋外条件(各時刻)」、「備考」の内容をユーザーデータとして登録します。ただし、地名が初期供給データに存在した場合、登録できません。登録すると他の物件で選択できるようになります。
[編集...]ボタンが押下済みの場合、押下可能です。

[設計用屋外温度]

夏期：夏期 4か月における各時刻の TAC 温度（危険率 2.5%）

冬期(9 時)：冬期 4か月における 9 時の TAC 温度（危険率 2.5%）

冬期(夜間温度)：冬期 4か月における 24 時間を通じての TAC 温度（危険率 2.5%）※1

※1

夜間温度を使用する条件については、[室登録]作業ページ-[計算条件(冬期)]タブの 24 時間空調を参照。

※注意事項※

令和 3 年版以前で作成したユーザーデータを令和 6 年版で使用する場合は、『STABRO 負荷計算 令和 6 年版 利用開始方法と変更・追加点』の「ユーザーデータの移行方法」の手順に従って再登録してください。

[設計用屋外条件]

項目	説明
夏期 乾球温度 [°C] 日最高	日最高乾球温度です。 計算には使用しませんが、帳票の「温湿度条件・ETD・地中温度」に出力します。 [編集...]ボタンが押下済みの場合、-99.9～99.9 の範囲が入力可能です。
夏期 最多風向	夏期の最多風向です。「窓サッシのすきま風量」を計算する時に必要となります。 [編集...]ボタンが押下済みの場合、N～NNW の 16 方位から 1 つ選択可能です。
冬期 乾球温度 [°C]	冬期 9 時の乾球温度です。 [編集...]ボタンが押下済みの場合、-99.9～99.9 の範囲が入力可能です。 値変更時、[設計用屋外条件(各時刻)]冬期 9 時 乾球温度 [°C] に同じ値が設定されます。
冬期 最多風向	冬期の最多風向です。「窓サッシのすきま風量」を計算する時に必要となります。 [編集...]ボタンが押下済みの場合、N～NNW の 16 方位から 1 つ選択可能です。

[設計用屋外条件(各時刻)]

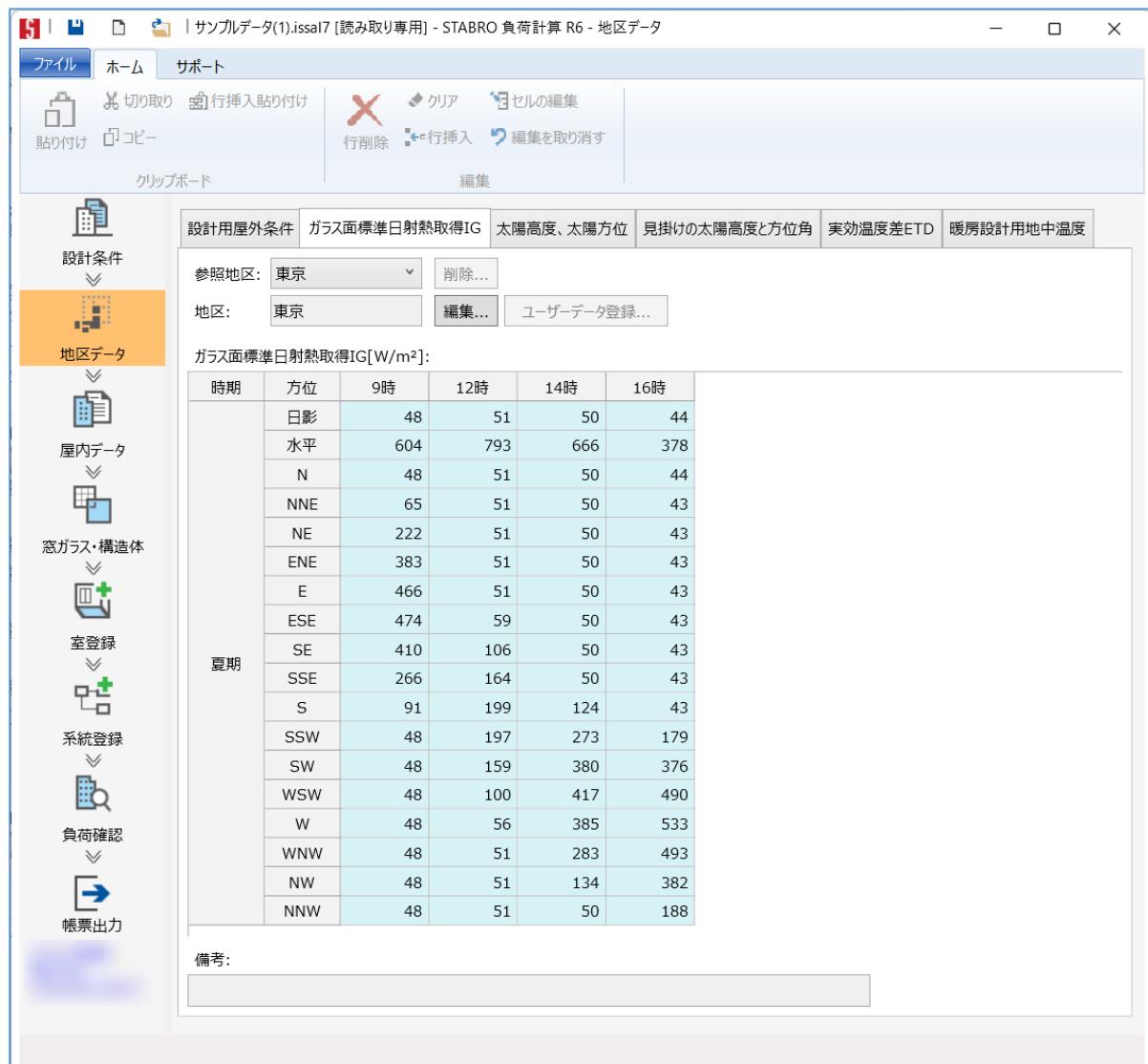
項目	説明
夏期 乾球温度 [°C]	夏期 時刻別の乾球温度です。 [編集...]ボタンが押下済みの場合、-99.9～99.9 の範囲が入力可能です。
夏期 絶対湿度 [kg/kg(DA)]	夏期 時刻別の絶対湿度です。 [編集...]ボタンが押下済みの場合、0～0.0300 の範囲が入力可能です。
夏期 相対湿度 [%]	夏期 時刻別の相対湿度です。 [編集...]ボタンが押下済みの場合、0.0～100.0 の範囲が入力可能です。

項目	説明
夏期 比エンタルピー [kJ/kg(DA)]	夏期 時刻別の比エンタルピーです。 [編集...]ボタンが押下済みの場合、-99.9～999.9 の範囲が入力可能です。
夏期 湿球温度 [°C]	夏期 時刻別の湿球温度です。 [編集...]ボタンが押下済みの場合、-99.9～99.9 の範囲が入力可能です。 ※湿球温度は計算に使用しません
冬期 乾球温度 [°C]	冬期 9時/夜間温度の乾球温度です。 9時の値は設計用屋外条件の「冬期 乾球温度[°C]」と同じ値です。 [編集...]ボタンが押下済みの場合、-99.9～99.9 の範囲が入力可能です。 9時の値変更時、[設計用屋外条件]冬期 乾球温度 [°C]に同じ値が設定されます。
冬期 絶対湿度 [kg/kg(DA)]	冬期 9時/夜間温度の絶対湿度です。 [編集...]ボタンが押下済みの場合、0～0.0300 の範囲が入力可能です。
冬期 相対湿度 [%]	冬期 9時/夜間温度の相対湿度です。 0.0～100.0 の範囲が入力可能です。
冬期 比エンタルピー [kJ/kg(DA)]	冬期 9時/夜間温度の比エンタルピーです。 -99.9～999.9 の範囲が入力可能です。
冬期 湿球温度 [°C]	冬期 9時/夜間温度(日最低)の湿球温度です。 [編集...]ボタンが押下済みの場合、-99.9～99.9 の範囲が入力可能です。 ※湿球温度は計算に使用しません

[備考]

帳票には出力しませんが、データの補足情報など自由に入力できます。[編集...]ボタンが押下済みの場合、全角127(半角 255)文字まで入力可能です。

[ガラス面標準日射熱取得 IG]タブ



「ガラス面標準日射熱取得 IG」データを確認または設定します。

[参照地区]

地区リストの中から 1 つを選択します。選択すると「地区」、「ガラス面標準日射熱取得 IG」、「備考」がその地区の内容となります。初期供給データは 10 地区ですが、ユーザーが追加することも可能です。

[削除...]

選択している「地区」を削除します。ただし、初期供給の「地区」の場合、ボタンが有効になりません。

[地区]

現在の地区を表示します。[編集...]ボタンが押下済みの場合、入力可能です。

[編集...]

現在の「地区」、「ガラス面標準日射熱取得 IG」、「備考」が入力可能となります。「地区」が入力不可の場合、押下可能です。

[ユーザーデータ登録...]

現在の「地区」、「ガラス面標準日射熱取得 IG」、「備考」の内容をユーザーデータとして登録します。ただし、地区が初

期供給データに存在した場合、登録できません。登録すると他の物件で選択できるようになります。[編集...]ボタンが押下済みの場合、押下可能です。

※注意事項※

令和3年版以前で作成したユーザーデータを令和6年版で使用する場合は、『STABRO 負荷計算 令和6年版 利用開始方法と変更・追加点』の「ユーザーデータの移行方法」の手順に従って再登録してください。

[ガラス面標準日射熱取得 IG [W/(m²·K)]]

ガラス面標準日射熱取得 IG は、ガラス面日射負荷計算で使用します。夏期データのみで冬期データはありません。[編集...]ボタンが押下済みの場合、0~99,999 の範囲が入力可能です。

[備考]

帳票には出力しませんが、データの補足情報など自由に入力してください。[編集...]ボタンが押下済みの場合、全角127(半角255)文字まで入力可能です。

[太陽高度、太陽方位]タブ



「太陽高度、太陽方位」データを確認または設定します。

[参照地区]

地区リストの中から 1 つを選択します。選択すると「地区」、「太陽高度、太陽方位」、「備考」がその地区の内容となります。初期供給データは 10 地区ですが、ユーザーが追加することも可能です。

[削除...]

選択している「地区」を削除します。ただし、初期供給の「地区」の場合、ボタンが有効になりません。

[地区]

現在の地区を表示します。[編集...]ボタンが押下済みの場合、入力可能です。

[編集...]

現在の「地区」、「太陽高度、太陽方位」、「備考」が編集可能となります。「地区」が入力不可の場合、押下可能です。

[ユーザーデータ登録...]

現在の「地区」、「太陽高度、太陽方位」、「備考」の内容をユーザーデータとして登録します。ただし、地区が初期供給データに存在した場合、登録できません。登録すると他の物件で選択できるようになります。[編集...]ボタンが押下済みの場合、押下可能です。

※注意事項※

令和3年版以前で作成したユーザーデータを令和6年版で使用する場合は、『STABRO 負荷計算 令和6年版 利用開始方法と変更・追加点』の「ユーザーデータの移行方法」の手順に従って再登録してください。

[太陽高度、太陽方位 [°]]

太陽高度、太陽方位は、計算には使用しませんが、帳票の「建物方位・太陽位置図」に出力します。[編集...]ボタンが押下済みの場合、-999.9～999.9の範囲が入力可能です。

[備考]

帳票には出力しませんが、データの補足情報など自由に入力してください。[編集...]ボタンが押下済みの場合、全角127(半角255)文字まで入力可能です。

[見掛けの太陽高度と方位角]タブ

サンプルデータ(1).issal7 - STABRO 負荷計算 R6 - 地区データ

ファイル ホーム サポート

クリップボード

地区データ

設計用屋外条件 ガラス面標準日射熱取得IG 太陽高度、太陽方位 見掛けの太陽高度と方位角 実効温度差ETD 暖房設計用地中温度

参考地区: 東京 削除...

地区: 東京 編集... ユーザーデータ登録...

見掛けの太陽高度の正接(tanφ)及び壁面に対する太陽方位角の正接(tany):

時期	方位	種類	9時	12時	14時	16時
夏期	N	tanφ				77.92
		tany				-124.17
	NNE	tanφ	7.78			
		tany	6.60			
	NE	tanφ	2.25			
		tany	1.66			
	ENE	tanφ	1.45			
		tany	0.74			
E	tanφ	1.20				
	tany	0.25				
ESE	tanφ	1.18	14.82			
	tany	-0.15	4.57			
SE	tanφ	1.36	5.54			
	tany	-0.60	1.44			
SSE	tanφ	1.96	3.76			
	tany	-1.36	0.64			
S	tanφ	4.85	3.22	4.01		
	tany	-4.05	0.18	2.51		

備考:

「見掛けの太陽高度の正接(tanφ)及び壁面に対する太陽方位角の正接(tany)」データを確認または設定します。

[参照地区]

10 地区の中から 1 つを選択します。選択すると「地区」、「見掛けの太陽高度の正接(tanφ)及び壁面に対する太陽方位角の正接(tany)」、「備考」がその地区の内容となります。初期供給データは 10 地区ですが、ユーザーが追加することも可能です。

[削除...]

選択している「地区」を削除します。ただし、初期供給の「地区」の場合、ボタンが有効になりません。

[地区]

現在の地区を表示します。[編集...]ボタンが押下済みの場合、入力可能です。

[編集...]

現在の「地区」、「見掛けの太陽高度の正接(tanφ)及び壁面に対する太陽方位角の正接(tany)」、「備考」が編集可能となります。「地区」が入力不可の場合、押下可能です。

[ユーザーデータ登録...]

現在の「地区」、「見掛けの太陽高度の正接(tanφ)及び壁面に対する太陽方位角の正接(tanγ)」、「備考」の内容をユーザーデータとして登録します。ただし、地区が初期供給データに存在した場合、登録できません。登録すると他の物件で選択できるようになります。[編集...]ボタンが押下済みの場合、押下可能です。

※注意事項※

令和3年版以前で作成したユーザーデータを令和6年版で使用する場合は、『STABRO 負荷計算 令和6年版 利用開始方法と変更・追加点』の「ユーザーデータの移行方法」の手順に従って再登録してください。

[見掛けの太陽高度の正接(tanφ)及び壁面に対する太陽方位角の正接(tanγ)]

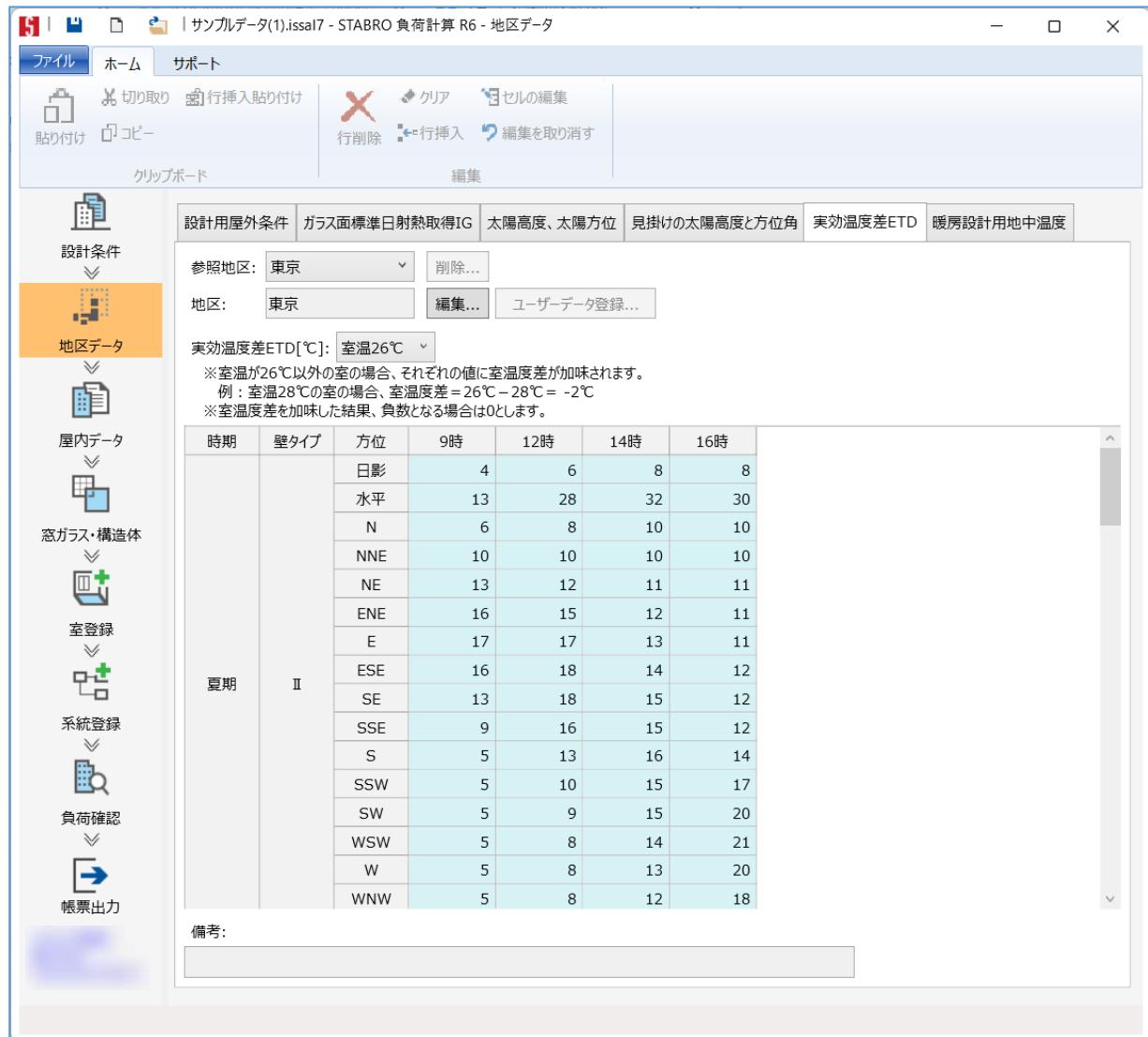
見掛けの太陽高度の正接(tanφ)及び壁面に対する太陽方位角の正接(tanγ)は、ガラス面日射面積率(SG)計算で使用します。夏期データのみで冬期データはありません。[編集...]ボタンが押下済みの場合、-999.99～999.99 の範囲が入力可能です。

入力値が空白と0(ゼロ)では結果が全く異なります。空白は太陽光が当たらない計算となり、0は窓面または壁面に対して垂直または水平に太陽光が当たる計算となります。

[備考]

帳票には出力しませんが、データの補足情報など自由に入力してください。[編集...]ボタンが押下済みの場合、全角127(半角255)文字まで入力可能です。

[実効温度差 ETD]タブ



「実効温度差 ETD」データを確認または設定します。

[参照地区]

10 地区の中から 1 つを選択します。選択すると「地区」、「実効温度差 ETD」、「備考」がその地区の内容となります。初期供給データは 10 地区ですが、ユーザーが追加することも可能です。

[削除...]

選択している「地区」を削除します。ただし、初期供給の「地区」の場合、ボタンが有効になりません。

[地区]

現在の地区を表示します。[編集...]ボタンが押下済みの場合、入力可能です。

[編集...]

現在の「地区」、「実効温度差 ETD」、「備考」が編集可能となります。「地区」が入力不可の場合、押下可能です。

[ユーザーデータ登録...]

現在の「地区」、「実効温度差 ETD」、「備考」の内容をユーザーデータとして登録します。ただし、地区が初期供給データに存在した場合、登録できません。登録すると他の物件で選択できるようになります。[編集...]ボタンが押下済みの場合、押下可能です。

選択中の[実効温度差 ETD[°C]]で登録されます。

※注意事項※

令和3年版以前で作成したユーザーデータを令和6年版で使用する場合は、『STABRO 負荷計算 令和6年版 利用開始方法と変更・追加点』の「ユーザーデータの移行方法」の手順に従って再登録してください。

[実効温度差 ETD [°C]]

「室温 26°C」「室温 28°C」から選択します。

実効温度差 ETD は、外壁、屋根、ピロティ床の通過熱負荷計算(夏期)で使用します。夏期データのみで冬期データはありません。[編集...]ボタンが押下済みの場合、0~99 の範囲が入力可能です。

室温がリストで選択した温度以外の室の場合、それぞれの値に室温度差が加味されます。

例：リストで「室温 26°C」を選択かつ室温 28°Cの室の場合、室温度差 = 26°C - 28°C = -2°C

例：リストで「室温 28°C」を選択かつ室温 26°Cの室の場合、室温度差 = 28°C - 26°C = 2°C

室温度差を加味した結果、負数となる場合は 0 とします。

[備考]

帳票には出力しませんが、データの補足情報など自由に入力してください。[編集...]ボタンが押下済みの場合、全角127(半角255)文字まで入力可能です。

[暖房設計用地中温度]タブ



「暖房設計用地中温度」データを確認または設定します。

[参照地名]

80 地名の中から 1 つを選択します。選択すると「地名」、「暖房設計用地中温度」、「備考」がその地名の内容となります。初期供給データは 80 地名ですが、ユーザーが追加することも可能です。

[削除...]

選択している「地名」を削除します。ただし、初期供給の「地名」の場合、ボタンが有効になりません。

[地名]

現在の地名を表示します。[編集...]ボタンが押下済みの場合、入力可能です。

[編集...]

現在の「地名」、「暖房設計用地中温度」、「備考」が編集可能となります。「地名」が入力不可の場合、押下可能です。

[ユーザーデータ登録...]

現在の「地名」、「暖房設計用地中温度」、「備考」の内容をユーザーデータとして登録します。ただし、地名が初期供給データに存在した場合、登録できません。登録すると他の物件で選択できるようになります。[編集...]ボタンが押下済みの場合、押下可能です。

※注意事項※

令和3年版以前で作成したユーザーデータを令和6年版で使用する場合は、『STABRO 負荷計算 令和6年版 利用開始方法と変更・追加点』の「ユーザーデータの移行方法」の手順に従って再登録してください。

[暖房設計用地中温度 [°C]]

暖房設計用地中温度は、「地中壁」、「土間床」の通過熱負荷計算(冬期)で使用します。冬期データのみで夏期データはありません。[編集...]ボタンが押下済みの場合、-99.9～99.9の範囲が入力可能です。

[備考]

帳票には出力しませんが、データの補足情報など自由に入力してください。[編集...]ボタンが押下済みの場合、全角127(半角255)文字まで入力可能です。

[屋内データ]作業ページ

[設計用屋内条件]タブ

The screenshot shows the 'Design Indoor Conditions' tab selected in a grid-based data entry interface. The grid has columns for Room Name, Summer Period (Dry Bulb Temperature, Relative Humidity, Absolute Humidity), and Winter Period (Dry Bulb Temperature, Relative Humidity, Specific Heat Ratio). The first four rows contain data for General Office Rooms (1-4) and Computer Room (3). Rows 5 through 20 are empty. A sidebar on the left lists various categories like 'Design Conditions', 'Region Data', 'Indoor Data' (which is highlighted in orange), 'Window Glass / Structure', 'Room Registration', 'System Registration', 'Load Confirmation', and 'Printout'. A 'User Data Registration...' button is at the bottom.

「設計用屋内条件」データを確認または追加します。

このデータは、[室登録]作業ページ-[室内条件]タブの「設計用屋内条件」で選択します。

最大行数は、マスターデータより表示している行 + 50 行となります。

項目	説明
室名	行データを識別する名前を入力します。文字を入力すると他の列が入力できるようになります。マスターデータより表示している行の場合、変更不可です。 全角 127(半角 255)文字まで入力可能です。
夏期 乾球温度 [°C]	室内の夏期設計用乾球温度です。 -99.9~99.9 の範囲が入力可能です。
夏期 相対湿度 [%]	室内の夏期設計用相対湿度です。 0~100 の範囲が入力可能です。
夏期 絶対湿度 [kg/kg(DA)]	室内の夏期設計用絶対湿度です。 0~0.0300 の範囲が入力可能です。
夏期 比エンタルピー [kJ/kg(DA)]	室内の夏期設計用比エンタルピーです。 -99.9~999.9 の範囲が入力可能です。

項目	説明
冬期 乾球温度 [°C]	室内の冬期設計用乾球温度です。 -99.9~99.9 の範囲が入力可能です。
冬期 相対湿度 [%]	室内の冬期設計用相対湿度です。 0~100 の範囲が入力可能です。
冬期 絶対湿度 [kg/kg(DA)]	室内の冬期設計用絶対湿度です。 0~0.0300 の範囲が入力可能です。
冬期 比エンタルピー [kJ/kg(DA)]	室内の冬期設計用比エンタルピーです。 -99.9~999.9 の範囲が入力可能です。
備考	データの補足情報など自由に入力してください。 全角 127(半角 255)文字まで入力可能です。

[ユーザーデータ登録...]

編集したデータ状態をユーザーデータとして登録することができます。登録すると次回の新規物件の初期値となります。

[照明器具の消費電力]タブ

	室名	設計照度 [lx]	蛍光灯 下面開放形 消費電力 [W/m ²]	蛍光灯 ルーバー有 消費電力 [W/m ²]	蛍光灯 アクリルカバー有 消費電力 [W/m ²]	LED 下面開放形 消費電力 [W/m ²]	LED ルーバー有 消費電力 [W/m ²]	備考
1	事務室、上級室、設計室、製図室	750	16.0	18.0	25.0	9.0	11.0	
2	電子計算機室、会議室、講堂、厨房、監視室、制御室	500	11.0	12.0	17.0	6.0	8.0	
3	受付、食堂	300	7.0	7.0	10.0	3.0	5.0	
4	電気室、機械室、書庫、湯沸室、便所、洗面所、更衣室	200	5.0	5.0	7.0	2.0	3.0	
5	階段室	150	4.0	4.0	5.0	2.0	3.0	
6	玄関ホール、廊下、倉庫	100	3.0	3.0	4.0	1.0	2.0	
7	車庫	75	2.0	2.0	3.0	1.0	2.0	
8								
9								
10								
11								
12								
13								
14								
15								
16								
17								
18								
19								
20								
...								
ユーザーデータ登録...								

「照明器具の消費電力」データを確認または追加します。

このデータは、[室登録]作業ページ-[室内条件]タブの「照明負荷」で選択します。

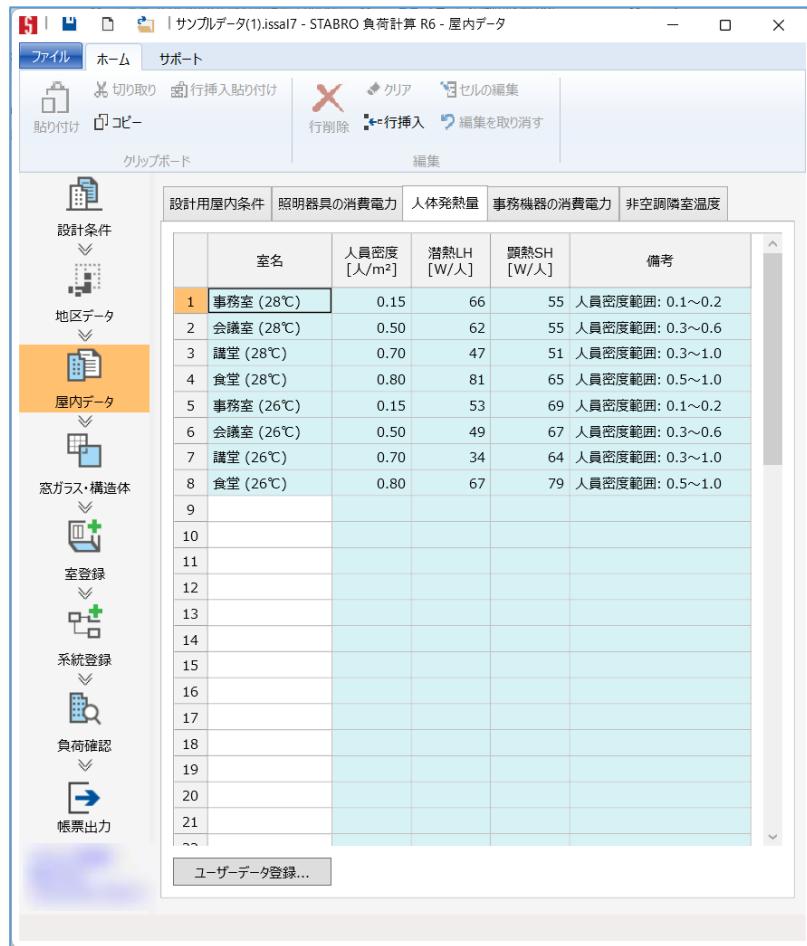
最大行数は、マスターデータより表示している行+50 行となります。

項目	説明
室名	行データを識別する名前を入力します。文字を入力すると他の列が入力できるようになります。マスターデータより表示している行の場合、変更不可です。 全角 127(半角 255)文字まで入力可能です。
設計照度 [lx]	照度による補正を行う場合の元になる値です。 0~999,999 の範囲が入力可能です。
蛍光灯下面開放形消費電力 [W/m ²]	下面開放形照明器具の消費電力です。 0~999.9 の範囲が入力可能です。
蛍光灯ルーバー有消費電力 [W/m ²]	ルーバーが有る照明器具の消費電力です。 0~999.9 の範囲が入力可能です。
蛍光灯アクリルカバー有消費電力 [W/m ²]	アクリルカバーが有る照明器具の消費電力です。 0~999.9 の範囲が入力可能です。
LED 下面開放形消費電力 [W/m ²]	下面開放形 LED 照明器具の消費電力です。 0~999.9 の範囲が入力可能です。
LED ルーバー有消費電力 [W/m ²]	ルーバーが有る LED 明器具の消費電力です。 0~999.9 の範囲が入力可能です。
備考	データの補足情報など自由に入力してください。 全角 127(半角 255)文字まで入力可能です。

[ユーザーデータ登録...]

編集したデータ状態をユーザーデータとして登録することができます。登録すると次回の新規物件の初期値となります。

[人体発熱量]タブ



「人体発熱量」データを確認または追加します。

このデータは、[室登録]作業ページ-[室内条件]タブの「人体負荷」で選択します。

最大行数は、マスターデータより表示している行 + 50 行となります。

項目	説明
室名	行データを識別する名前を入力します。文字を入力すると他の列が入力できるようになります。 マスターデータより表示している行の場合、変更不可です。 全角 127(半角 255)文字まで入力可能です。
人員密度 [人/m ²]	1m ² 当たりの人員です。 0~9.99 の範囲が入力可能です。
潜熱 LH [W/人]	1 人当たりの潜熱量です。 0~999 の範囲が入力可能です。
頸熱 SH [W/人]	1 人当たりの頸熱量です。 0~999 の範囲が入力可能です。
備考	データの補足情報など自由に入力してください。 全角 127(半角 255)文字まで入力可能です。

[ユーザーデータ登録...]

編集したデータ状態をユーザーデータとして登録することができます。登録すると次回の新規物件の初期値となります。

[事務機器の消費電力]タブ

室名	消費電力 [W/m ²]	備考
1 会議室、上級室等	13	
2 会議室、上級室等 (最小消費電力)	10	
3 会議室、上級室等 (最大消費電力)	15	
4 一般事務室	23	
5 一般事務室 (最小消費電力)	15	
6 一般事務室 (最大消費電力)	30	
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		
17		
18		
19		
20		
21		

「事務機器の消費電力」データを確認または追加します。

このデータは、[室登録]作業ページ-[室内条件]タブの「その他の内部発熱負荷」-「事務機器」で選択します。

最大行数は、マスターデータより表示している行 + 50 行となります。

項目	説明
室名	行データを識別する名前を入力します。文字を入力すると他の列が入力できるようになります。 マスターデータより表示している行の場合、変更不可です。 全角 127(半角 255)文字まで入力可能です。
消費電力 [W/m ²]	1m ² 当たりの消費電力を設定します。 0~999 の範囲が入力可能です。
備考	データの補足情報など自由に入力してください。 全角 127(半角 255)文字まで入力可能です。

[ユーザーデータ登録...]

データを追加した場合にユーザーデータとして登録することができます。登録すると次回の新規物件の初期値となります。

[非空調隣室温度]タブ

The screenshot shows the STABRO software interface with the 'Non-air-conditioned Adjacent Room Temperature' tab selected. The main area displays a table with 17 rows of data. The columns represent the room name, summer indoor-outdoor temperature difference formula, summer reference indoor-outdoor temperature difference, winter indoor-outdoor temperature difference formula, winter reference indoor-outdoor temperature difference, and a notes column. The first row, labeled 'General', is highlighted.

非空調室名	夏期		冬期		備考
	内外温度差式	参考内外温度差 $\Delta t [^{\circ}\text{C}]$ ($to=35, ti=26$ の時)	内外温度差式	参考内外温度差 $\Delta t [^{\circ}\text{C}]$ ($to=2, ti=22$ の時)	
1 一般	0.3 * (to - ti)	2.7	0.3 * (ti - to)	6.0	
2 事務室/廊下/非空調	0.4 * (to - ti)	3.6	0.4 * (ti - to)	8.0	
3 事務室/廊下/廊下一部還気方式	0.3 * (to - ti)	2.7	0.3 * (ti - to)	6.0	
4 事務室/廊下/廊下還気方式	0.1 * (to - ti)	0.9	0.1 * (ti - to)	2.0	
5 事務室/便所・倉庫ほか/空調の余剰排気利用に応じて	0.4 * (to - ti)	3.6	0.4 * (ti - to)	8.0	
6 事務室/便所・倉庫ほか/外気による換気	0.8 * (to - ti)	7.2	0.8 * (ti - to)	16.0	
7 廉房等の熱源がある室	to - ti + 2	11.0		0.0	
8 屋外	to - ti	9.0	ti - to	20.0	
9 サウナ室	90 - ti	64.0	ti - 90	-68.0	
10 電気室	40 - ti	14.0	ti - 40	-18.0	
11 ポイラー室	40 - ti	14.0	ti - 40	-18.0	
12 冷蔵室	5 - ti	-21.0	ti - 5	17.0	
13 冷凍室	(-20) - ti	-46.0	ti - (-20)	42.0	
14					
15					
16					
17					

※内外温度差式の使用可能変数は、to = 設計用屋外温度[°C], ti = 設計用屋内温度[°C]の2つです。
※内外温度差式が空白の場合は、内外温度差ゼロ(熱負荷なし)として計算します。
※非空調隣室温度を直接指定する場合の例: 夏期の式 = "32 - ti", 冬期の式 = "ti - 32" (非空調隣室温度が32°Cの場合)

ユーザーデータ登録...

「非空調隣室温度」データを確認または追加します。

このデータは、[室登録]作業ページ-[構造体]タブの「非空調隣室」で選択します。

最大行数は、マスターデータより表示している行+50行となります。

項目	説明
非空調室名	行データを識別する名前を入力します。文字を入力すると夏期、冬期それぞれの内外温度差式が入力できるようになります。マスターデータより表示している行の場合、変更不可です。 全角127(半角255)文字まで入力可能です。
夏期 内外温度差式	夏期の空調室と非空調室の温度差を式で設定します。式に誤りがある場合、文字色が「エラー文字」の設定色で表示されます。 全角127(半角255)文字まで入力可能です。
夏期 参考内外温度差 $\Delta t [^{\circ}\text{C}]$ ($to=35, ti=26$ の時)	夏期内外温度差式の変数 to に 35°C、変数 ti に 26°Cとした時の内外温度差を参考値として表示します。「夏期 内外温度差式」に誤りがある場合、「式の誤り」を表示します。
冬期 内外温度差式	冬期の空調室と非空調室の温度差を式で設定します。式に誤りがある場合、文字色が「エラー文字」の設定色で表示されます。 全角127(半角255)文字まで入力可能です。

項目	説明
冬期 参考内外温度差 $\Delta t [^{\circ}\text{C}]$ ($to=2$ 、 $ti=22$ の時)	冬期内外温度差式の変数 to に 2°C 、変数 ti に 22°C とした時の内外温度差を参考値として表示します。「冬期 内外温度差式」に誤りがある場合、「式の誤り」を表示します。
備考	データの補足情報など自由に入力してください。 全角 127(半角 255)文字まで入力可能です。

[ユーザーデータ登録...]

編集したデータ状態をユーザーデータとして登録することができます。登録すると次回の新規物件の初期値となります。

内外温度差式の使用可能変数は、 $to = \text{屋外設計温度}[^{\circ}\text{C}]$ 、 $ti = \text{屋内設計温度}[^{\circ}\text{C}]$ の 2 つです。

内外温度差式が空白の場合、内外温度差ゼロ(熱負荷なし)として計算します。

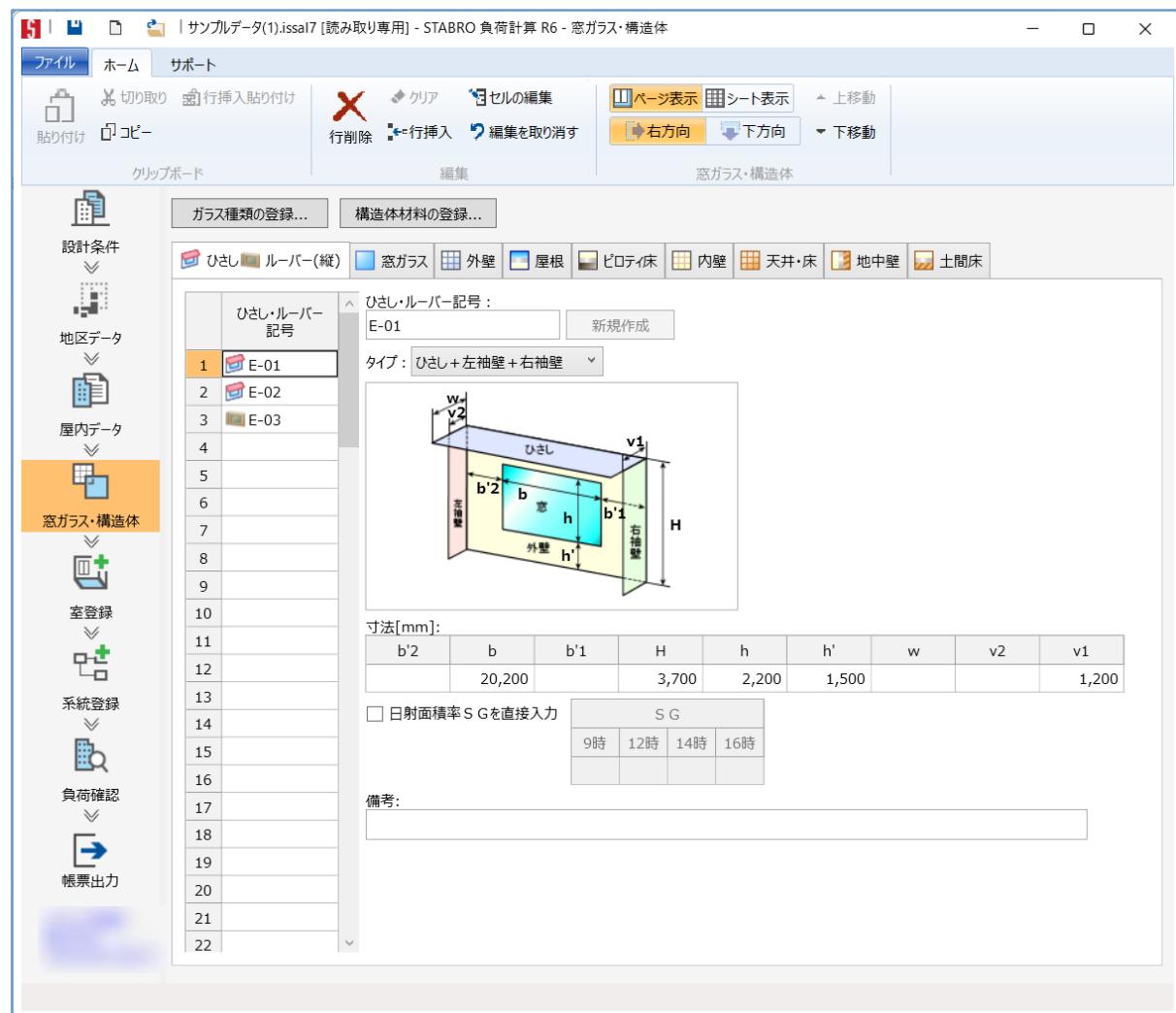
非空調室温度を直接指定する場合の例：夏期の式 = "32 - ti"、冬期の式 = "ti - 32" (非空調室温度が 32°C の場合)

屋外、サウナ室、電気室、ボイラー室、冷蔵室、冷凍室のデータは、弊社が用意した参考値です。必要に応じて変更してください。

[窓ガラス・構造体]作業ページ

[ひさし・ルーバー(縦)]タブ

[ページ表示]モード



建物で計算対象となるすべてのひさし・ルーバー(縦)を登録します。

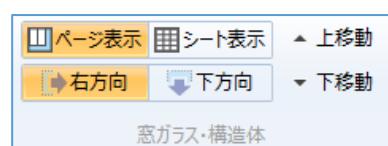
ここで登録したデータは、[室登録]作業ページ-[構造体]タブの「ひさし記号」「ルーバー記号」で選択して使用します。

また、窓ガラス・構造体-[窓ガラス]タブの「既定のひさし」「既定のルーバー」にて、窓ガラスと紐づけて登録しておくこともできます。

最大行数は、100 行となります。

[ひさし・ルーバー(縦)]タブは、2 つの表示モードがあります。「ページ表示」はそのうちの 1 つで左側に「ひさし・ルーバー記号」リスト、右側にひさし・ルーバーの詳細データという画面構成で作業を行います。

状況に応じて自由に表示モードを切り替えることができます。



項目	説明
ページ表示	表示を[ページ表示]モードに切り替えます。([ひさし・ルーバー(縦)]タブで有効)
シート表示	表示を[シート表示]モードに切り替えます。([ひさし・ルーバー(縦)]タブで有効)
右方向	[ひさし・ルーバー(縦)]タブの[ひさし・ルーバー記号]リストにて Enter キー押下時、フォーカスを右方向へ移動するよう設定します。 ([ひさし・ルーバー(縦)]タブにて[シート表示]モードで[ひさし・ルーバー記号]リストにフォーカスが存在する場合、有効)
下方向	[ひさし・ルーバー(縦)]タブの[ひさし・ルーバー記号]リストにて Enter キー押下時、フォーカスを下方向へ移動するよう設定します。 ([ひさし・ルーバー(縦)]タブにて[シート表示]モードで[ひさし・ルーバー記号]リストにフォーカスが存在する場合、有効)
上移動	選択行を上へ移動します。 ([ページ表示]モードで[ひさし・ルーバー記号]リストにフォーカスが存在し先頭行以外を選択している場合、有効)
下移動	選択行を下へ移動します。 ([ページ表示]モードで[ひさし・ルーバー記号]リストにフォーカスが存在し最終行以外を選択している場合、有効)

[ひさし・ルーバー記号]リスト

ひさし・ルーバーを管理するリストです。ひさし・ルーバー単位のコピー、貼り付け、削除などの編集が行えます。文字編集は次の「ひさし・ルーバー記号」と同じ結果になります。

全角 127(半角 255)文字まで入力可能です。

[ひさし・ルーバー記号]

ひさし・ルーバーを識別する記号を入力します。文字を入力すると新規作成した事になり、詳細の入力ができるようになります。全角 127(半角 255)文字まで入力可能です。

[新規作成]

ひさし・ルーバー記号を自動的に確定し新規作成します。記号の形式は[オプション]ウィンドウ-[構造体記号形式]タブの設定が基本となります。異なる形式の記号を入力している場合、その形式に従った記号を作成します。

[タイプ]

ひさし・ルーバーのタイプをリストから選択します。

選択したタイプのひさし・ルーバーの画像を表示します。

ひさしのタイプ選択は、入力が必要となる寸法を絞り込むために行います。

※[室登録]作業ページ-[構造体]タブの「ひさし記号」で既に選択済みのひさしタイプをルーバーに変更した場合、[室登録]作業ページ-[構造体]タブの「ひさし記号」は空欄となりますので、見直しを行ってください。タイプをルーバーからひさしに変更した場合も同様に[室登録]作業ページ-[構造体]タブ「ひさし記号」「ルーバー記号」の見直しを行ってください。

[寸法[mm]]

ひさしの寸法を mm 単位で入力します。寸法記号の位置は寸法図を参照してください。

0~9,999,999 の範囲が入力可能です。

空欄の場合、0とみなされます。

[日射面積率 SG を直接入力]

日射面積率 SG を直接入力する必要がある場合に使用します。チェックすると「寸法[mm]」が入力できなくなり、「日射面積率 SG」が直接入力できるようになります。

[日射面積率 SG]

日射面積率 SG を時刻別に入力します。

0.00~1.00 の範囲が入力可能です。

[備考]

データの補足情報など自由に入力してください。

全角 127(半角 255)文字まで入力可能です。

[シート表示]モード

ひさし・ルーバー 記号	直接 入力	タイプ	ひさし寸法[mm]					
			b'2	b	b'1	H	h	h'
1 E-01	<input type="checkbox"/>	ひさし+左袖壁+右袖壁	20,200	3,700	2,200	1,500		
2 E-02	<input type="checkbox"/>	ひさし+左袖壁+右袖壁	5,000	3,700	2,200	1,500		
3 E-03	<input type="checkbox"/>	ルーバー(縦)						
4	<input type="checkbox"/>							
5	<input type="checkbox"/>							
6	<input type="checkbox"/>							
7	<input type="checkbox"/>							

建物で計算対象となるすべてのひさし・ルーバー(縦)を登録します。

このデータは、[室登録]作業ページ-[構造体]タブの「ひさし記号」「ルーバー記号」で選択します。

最大行数は、100 行となります。

[ひさし・ルーバー(縦)]タブは、2つの表示モードがあります。「シート表示」はそのうちの 1 つでひさし・ルーバーの詳細データを表示した 1 つのシートで作業を行います。

状況に応じて自由に表示モードを切り替えることができます。

「ひさし・ルーバー記号」は固定列でスクロールしません。

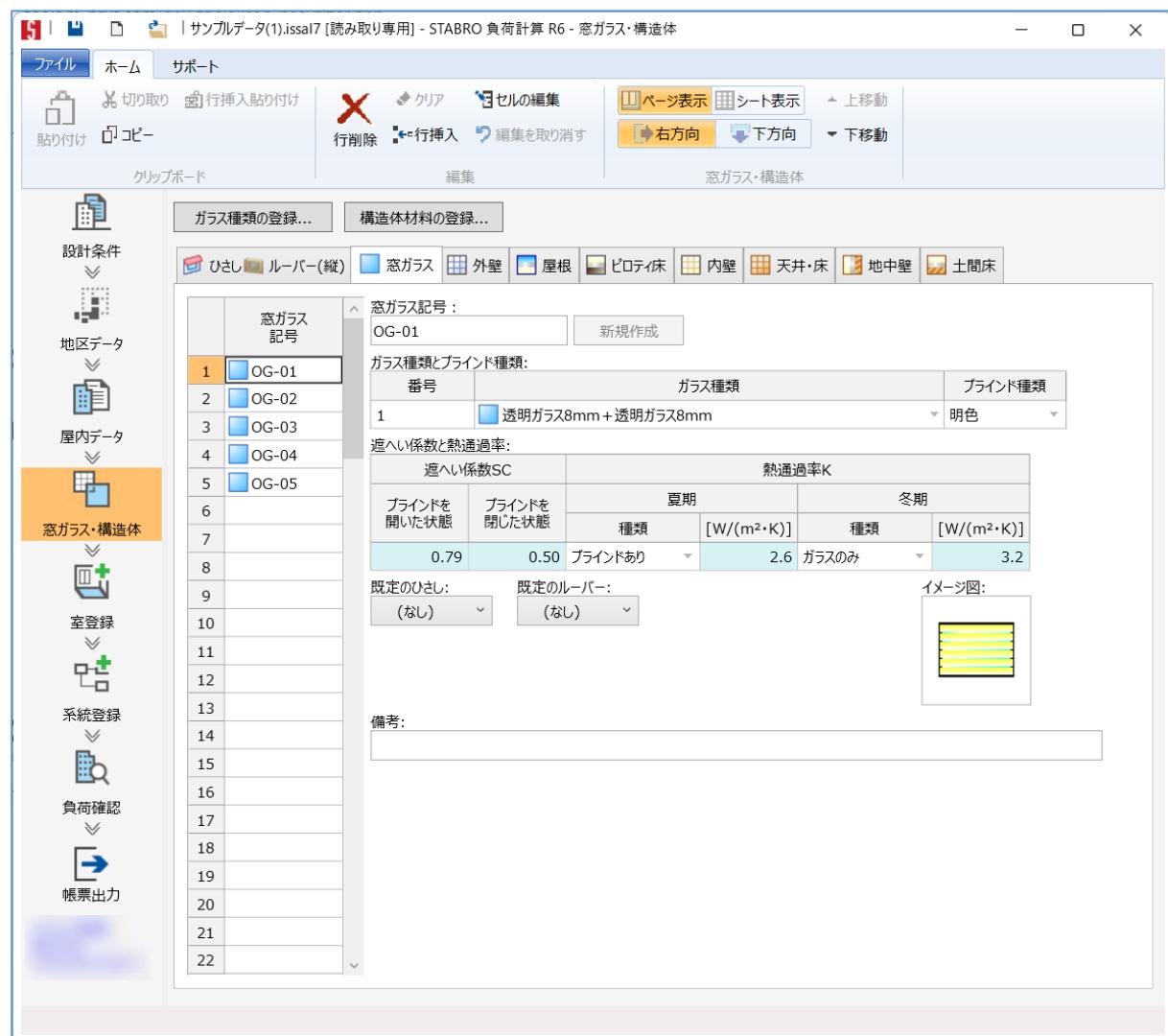


項目	説明
ページ表示	表示を[ページ表示]モードに切り替えます。([ひさし・ルーバー(縦)]タブで有効)
シート表示	表示を[シート表示]モードに切り替えます。([ひさし・ルーバー(縦)]タブで有効)
右方向	[ひさし・ルーバー(縦)]タブの[ひさし・ルーバーシート]にて Enter キー押下時、フォーカスを右方向へ移動するよう設定します。 ([ひさし・ルーバー(縦)]タブにて[シート表示]モードで[ひさし・ルーバーシート]にフォーカスが存在する場合、有効)
下方向	[ひさし・ルーバー(縦)]タブの[ひさし・ルーバーシート]にて Enter キー押下時、フォーカスを下方向へ移動するよう設定します。 ([ひさし・ルーバー(縦)]タブにて[シート表示]モードで[ひさし・ルーバーシート]にフォーカスが存在する場合、有効)
上移動	選択行を上へ移動します。 ([ページ表示]モードで[ひさし・ルーバーシート]にフォーカスが存在し先頭行以外を選択している場合、有効)
下移動	選択行を下へ移動します。 ([ページ表示]モードで[ひさし・ルーバーシート]にフォーカスが存在し最終行以外を選択している場合、有効)

[ひさし・ルーバーシート]

ひさし・ルーバーの詳細データのシートです。ひさし単位のコピー、貼り付け、削除やセル単位の編集が行えます。

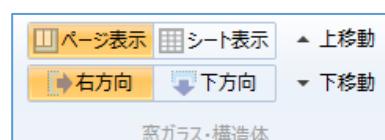
[窓ガラス]タブ



建物で計算対象となるすべての窓ガラスを登録します。

このデータは、[室登録]作業ページ-[構造体]タブの「記号」で選択します。

最大行数は、100 行となります。



項目	説明
上移動	選択行を上へ移動します。 ([窓ガラス記号リスト]にフォーカスが存在し先頭行以外を選択している場合、有効)
下移動	選択行を下へ移動します。 ([窓ガラス記号リスト]にフォーカスが存在し最終行以外を選択している場合、有効)

[ガラス種類の登録...]

[ガラス種類の登録]ウィンドウを表示します。

[窓ガラス記号リスト]

窓ガラスを管理するリストです。窓ガラス単位のコピー、貼り付け、削除などの編集が行えます。文字編集は次の「窓ガラス記号」と同じ結果になります。

全角 127(半角 255)文字まで入力可能です。

[窓ガラス記号]

窓ガラスを識別する記号を入力します。文字を入力すると新規作成した事になり、詳細の入力ができるようになります。

全角 127(半角 255)文字まで入力可能です。

[新規作成]

窓ガラス記号を自動的に確定し新規作成します。記号の形式は[オプション]ウィンドウ-[構造体記号形式]タブの設定が基本となります。異なる形式の記号を入力している場合、その形式に従った記号を作成します。

[ガラス種類とブラインド種類]

項目	説明
番号	ガラス種類の番号です。該当するガラス種類の番号を入力すると、ガラス種類名が確定します。 0 が直接入力、1~28 が初期供給データ、101 以降がユーザーデータです。
ガラス種類	ガラス種類の名称です。ダブルクリック、Enter キー押下、[▼]ボタン押下で[ガラス種類の登録]ウィンドウを表示し選択します。選択するとガラス種類、遮へい係数 SC、熱通過率 K が確定します。(直接入力を除く) 全角 127(半角 255)文字まで入力可能です。
ブラインド種類	なし、明色、中間色の 3 つから選択します。ブラインド種類は遮へい係数 SC と熱通過率 K に影響します。

[遮へい係数と熱通過率]

項目	説明
遮へい係数 SC ブラインドなしまたは ブラインドを開いた状態	ブラインドなし、または、ブラインドを開いた状態の窓ガラスの遮へい係数 SC です。 「ガラス種類」が直接入力の場合、0~9.99 の範囲が入力可能です。
遮へい係数 SC ブラインドを閉じた状態	ブラインドを閉じた状態の窓ガラスの遮へい係数 SC です。「ブラインド種類」が「明色」または「中間色」の場合に有効となります。 「ガラス種類」が直接入力の場合、0~9.99 の範囲が入力可能です。
熱通過率 K 夏期 種類	窓ガラスの熱通過率 K の種類を設定します。「ガラスのみ」は、「ガラス種類」の「熱通過率 K (ガラス)」列の値、「ブラインドあり」は「熱通過率 K (ガラス+ブラインド)」列の値を設定します。 「ガラス種類」が直接入力以外で「ブラインド種類」が「明色」または「中間色」の場合、選択可能です。 夏期の初期値は「ブラインドあり」です。
熱通過率 K 夏期 [W/(m ² ·K)]	窓ガラスの夏期の熱通過率 K です。 「ガラス種類」が直接入力の場合、0~999.9 の範囲が入力可能です。

項目	説明
熱通過率 K 冬期 種類	窓ガラスの熱通過率 K の種類を設定します。「ガラスのみ」は、「ガラス種類」の「熱通過率 K (ガラス)」列の値、「ブラインドあり」は「熱通過率 K (ガラス+ブラインド)」列の値を設定します。 「ガラス種類」が直接入力以外で「ブラインド種類」が「明色」または「中間色」の場合、選択可能です。 冬期の初期値は「ガラスのみ」です。
熱通過率 K 冬期 [W/(m ² ·K)]	窓ガラスの冬期の熱通過率 K です。 「ガラス種類」が直接入力の場合、0~999.9 の範囲が入力可能です。

[既定のひさし][既定のルーバー]

基本的に窓ガラスとひさし・ルーバーは、[室登録]作業ページの[構造体]タブで別々に設定しますが、窓ガラスとひさし・ルーバーがセットの場合、あらかじめここで設定しておくと[室登録]作業ページの[構造体]タブで窓ガラスを入力した際、ひさし・ルーバーも確定され入力が省力化できます。

[イメージ図]

窓ガラスのブラインド状態をイメージ図として表示します。

[備考]

データの補足情報など自由に入力してください。

全角 127(半角 255)文字まで入力可能です。

[ガラス種類の選択]ウインドウ

ガラス種類をダブルクリックまたは▼をクリックして開きます。



[標準]タブ



一般社団法人 公共建築協会 編集・発行の『建築設備設計基準 令和6年版』(p.383 表2-14) のデータを選択可能です。

ガラス種類リストから1つを選択します。選択すると番号、ガラス種類、遮へい係数SC、熱通過率Kが確定します。「(直接入力)」を選択した場合、遮へい係数SC、熱通過率Kが直接入力可能となります。

[検索ウインドウ]

入力した文字列で[標準]タブ、[省エネ基準(H25)]タブ、[省エネ基準(H28)]タブガラス種類を検索し、該当するガラス種類のみを表示します。

[OK]

選択したガラス種類を確定し、ウインドウを閉じます。

[キャンセル]

何もせずにウインドウを閉じます。

[省エネ基準(H25)]タブ

ガラス種類							ガラス区分	SC (P)	SC (P)	SC (P)	K (ガラス)	K (ガラス)	備考
[1001] 透明 3mm	単層	1.00	0.49	0.49	6.0	4.2	省エネ基準						
[1002] 透明 5mm	単層	0.96	0.48	0.48	5.9	4.2	省エネ基準						
[1003] 透明 6mm	単層	0.95	0.48	0.48	5.9	4.2	省エネ基準						
[1004] 透明 8mm	単層	0.92	0.47	0.47	5.8	4.1	省エネ基準						
[1005] 透明 10mm	単層	0.89	0.46	0.46	5.7	4.1	省エネ基準						
[1006] 透明 12mm	単層	0.86	0.45	0.45	5.7	4.1	省エネ基準						
[1007] 透明 15mm	単層	0.84	0.44	0.44	5.6	4.0	省エネ基準						
[1008] 透明 19mm	単層	0.81	0.43	0.43	5.4	3.9	省エネ基準						
[1011] 繊入り 6.8mm	単層	0.90	0.47	0.47	5.8	4.1	省エネ基準						
[1012] 繊入り 10mm	単層	0.85	0.45	0.45	5.7	4.1	省エネ基準						
[1021] 高透過 3mm	単層	1.04	0.51	0.51	6.0	4.2	省エネ基準						

※ SC (プライド中間色)は省エネ基準では存在しないためプライド明色と同じ値が設定されています。

OK

キャンセル

独立行政法人 建築研究所発行の『平成25年省エネルギー基準（非住宅建築物）一次エネルギー消費量算定用WEBプログラムの解説』のデータを選択可能です。

[省エネ基準(H28)]タブ

ガラス種類							SC (P)	SC (P)	SC (P)	K (ガラス)	K (ガラス)	備考
[3WgG06] 木製・樹脂製	三層ガラス (Low-E 2枚、断熱ガス、日射取)	0.44	0.34	0.34	2.0	1.8						
[3WgG06] 金属木複合製・金属樹脂複合製	三層ガラス (Low-E 2枚、断熱ガス、日射取)	0.49	0.38	0.38	2.3	2.1						
[3WgG06] 金属製	三層ガラス (Low-E 2枚、断熱ガス、日射取)	0.49	0.38	0.38	2.6	2.4						
[3WgG06]	三層ガラス (Low-E 2枚、断熱ガス、日射取)	0.61	0.47	0.47	1.4	1.3						
[3WgG07] 木製・樹脂製	三層ガラス (Low-E 2枚、断熱ガス、日射取)	0.44	0.34	0.34	1.9	1.8						
[3WgG07] 金属木複合製・金属樹脂複合製	三層ガラス (Low-E 2枚、断熱ガス、日射取)	0.49	0.38	0.38	2.2	2.0						
[3WgG07] 金属製	三層ガラス (Low-E 2枚、断熱ガス、日射取)	0.49	0.38	0.38	2.6	2.3						
[3WgG07]	三層ガラス (Low-E 2枚、断熱ガス、日射取)	0.61	0.47	0.47	1.3	1.2						
[3WgG08] 木製・樹脂製	三層ガラス (Low-E 2枚、断熱ガス、日射取)	0.44	0.34	0.34	1.8	1.7						
[3WgG08] 金属木複合製・金属樹脂複合製	三層ガラス (Low-E 2枚、断熱ガス、日射取)	0.49	0.38	0.38	2.1	2.0						

※ SC (プライド中間色)は省エネ基準では存在しないためプライド明色と同じ値が設定されています。

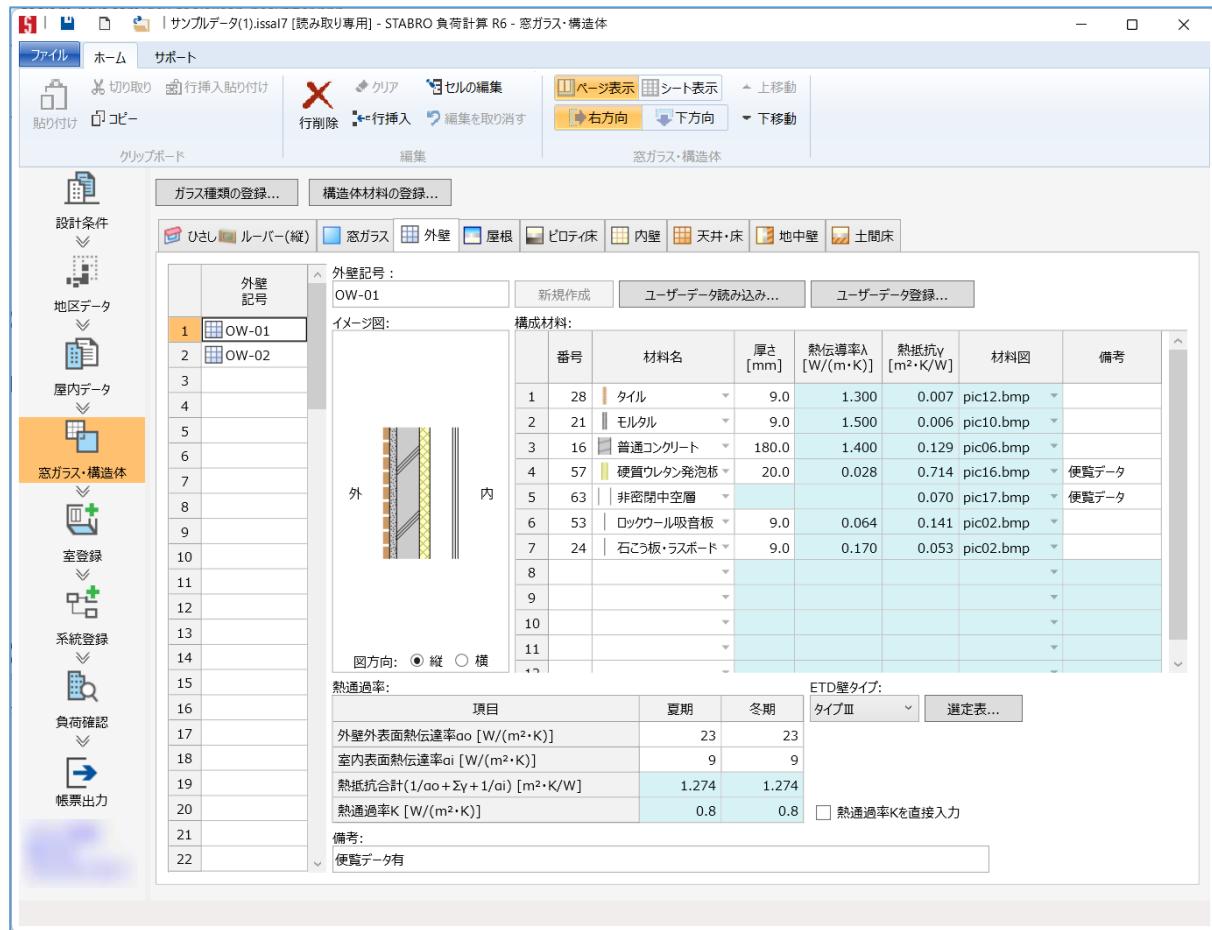
OK

キャンセル

国立研究開発法人 建築研究所発行の『平成28年エネルギー消費性能計算プログラム（非住宅版）解説』のデータを選択可能です。

弊社製品「B-LOOP」との連携を強化しています。

[外壁、屋根、ピロティ床、内壁、天井・床、地中壁、土間床]タブ



建物で計算対象となるすべての構造体(外壁、屋根、ピロティ床、内壁、天井・床、地中壁、土間床)を登録します。このデータは、[室登録]作業ページ-[構造体]タブの「記号」で選択します。

最大行数は、100 行です。

外壁、屋根、ピロティ床、内壁、天井・床、地中壁、土間床それぞれを「構造体」として説明しています。

項目		説明
上移動		選択行を上へ移動します。 ([構造体記号リスト]にフォーカスが存在し先頭行以外を選択している場合、有効)
下移動		選択行を下へ移動します。 ([構造体記号リスト]にフォーカスが存在し最終行以外を選択している場合、有効)

[構造体材料の登録...]

[構造体材料の登録]ウィンドウを表示します。

[構造体記号リスト]

構造体を管理するリストです。構造体単位のコピー、貼り付け、削除などの編集が行えます。文字編集は次の「構造体記号」と同じ結果になります。

全角 127(半角 255)文字まで入力可能です。

[構造体記号]

構造体を識別する記号を入力します。文字を入力すると新規作成した事になり、詳細の入力ができるようになります。
全角 127(半角 255)文字まで入力可能です。

[新規作成]

構造体記号を自動的に確定し新規作成します。記号の形式は[オプション]ウィンドウ-[構造体記号形式]タブの設定が基本となります。異なる形式の記号を入力している場合、その形式に従った記号を作成します。

[ユーザーデータ読み込み...]

[構造体の読み込み]ウィンドウを表示します。ユーザーデータとして登録した構造体の中から選択することができ、記号以外のすべてのデータを読み込んで上書きします。新規作成していない場合、新規作成してからデータを読み込みます。

[ユーザーデータ登録...]

作成した構造体に名前を付けてユーザーデータとして登録します。登録すると次回の新規物件で上記の「読み込み」で読み込むことができます。

[イメージ図]

入力した構成材料から構造体断面のイメージ図を表示します。

[図方向]

上記のイメージ図を縦(垂直)か横(水平)にすることができます。

[構成材料]

項目	説明
番号	構造体材料の番号です。該当する構造体材料の番号を入力すると材料名が確定します。 0が直接入力、1~63が初期供給データ、101以降がユーザーデータです。
材料名	構造体材料の名称です。ダブルクリック、Enterキー押下、[▼]ボタン押下で [構造体材料の選択]ウィンドウを表示し選択します。選択すると材料名、熱伝導率 λ 、熱抵抗 γ 、材料図名が確定します。(直接入力を除く) 全角 127(半角 255)文字まで入力可能です。
厚さ [mm]	構造体材料の厚さです。0.1mm 単位で入力することができます。入力すると熱抵抗 γ を 計算します。ただし、厚さに関わらず熱抵抗が定まっている構造体材料については、厚 さは入力不可となります。 0~9,999.9 の範囲が入力可能です。
熱伝導率 λ [W/(m·K)]	構造体材料の熱伝導率です。構造体材料を選択すると確定しています。 構造体材料が直接入力の場合、0~9,999.999 の範囲が入力可能です。
熱抵抗 γ [m ² ·K/W]	構造体材料の熱抵抗です。構造体材料を選択した後、厚さを入力すると自動計算し ます。ただし、熱抵抗 γ が確定している構造体材料も存在します。 構造体材料が直接入力の場合、0~9,999.999 の範囲が入力可能です。
材料図	構造体材料の画像ファイル名です。 構造体材料が直接入力の場合は[構造体材料図の選択]ウィンドウから選択します。 直接入力することも可能です。

項目	説明
備考	データの補足情報など自由に入力してください。 全角 127(半角 255)文字まで入力可能です。

[熱通過率]

項目	説明
外壁外表面熱伝達率ao [W/(m ² ·K)]	外壁外表面熱伝達率は、屋外に面する構造体の計算で使用します。 夏期、冬期別に設定することができ、0～999 の範囲が入力可能です。
室内表面熱伝達率ai [W/(m ² ·K)]	室内表面熱伝達率は、屋内に面する構造体の計算で使用します。「内壁」、「天井・床」の場合、2つ存在します。「地中壁」、「土間床」の場合、冬期のみの入力となります。 夏期、冬期別に設定することができ、0～999 の範囲が入力可能です。
熱抵抗合計 [m ² ·K/W]	外壁外表面熱伝達率の熱抵抗、室内表面熱伝達率の熱抵抗、構成材料の熱抵抗合計をすべて加算した値です。
熱通過率 K [W/(m ² ·K)]	構造体の熱通過率 K です。「地中壁」、「土間床」の場合、冬期のみの入力となります。 「熱通過率 K を直接入力」をチェックした場合、夏期、冬期別に設定することができ、0～999.9 の範囲が入力可能です。

[ETD 壁タイプ]

構造体種類が外壁、屋根、ピロティ床の場合に設定します。下記の「選定表...」ボタンで表示する[壁タイプ選定表]ウィンドウを表示して設定することもできます。

構造体種類が外壁、屋根、ピロティ床以外の場合、非表示となります。

[選定表...]

「ETD 壁タイプ」選択の参考となる[壁タイプ選定表]ウィンドウを表示します。

構造体種類が外壁、屋根、ピロティ床以外の場合、非表示となります。

[熱通過率 K を直接入力]

構造体の熱通過率 K を直接入力する必要がある場合に使用します。チェックすると「外壁外表面熱伝達率ao」、「室内表面熱伝達率ai」が入力できなくなり、「熱通過率 K」が直接入力できるようになります。

構成材料の厚さ、熱伝導率λ、熱抵抗γの列が非表示になります。

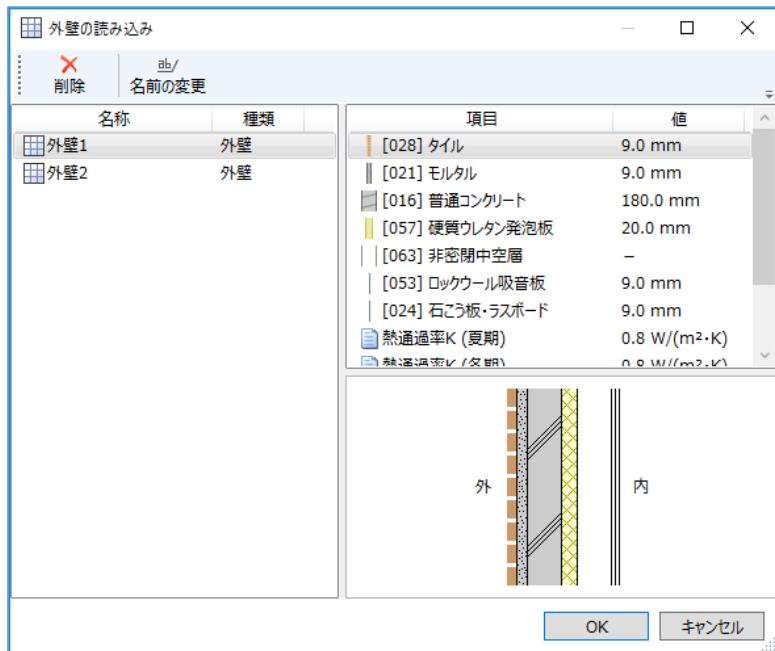
[備考]

データの補足情報など自由に入力してください。

全角 127(半角 255)文字まで入力可能です。

[構造体の読み込み] ウィンドウ

各構造体タブの[ユーザーデータの読み込み...]から開きます。



ユーザーデータとして登録した構造体を読み込むことができます。

左の構造体リストから選択し、[OK]で読み込みます。

[削除]

選択した構造体を削除します。

[名前の変更]

選択した構造体の登録名を編集状態にします。

[OK]

選択した構造体を確定し、ウィンドウを閉じます。

[キャンセル]

何もせずにウィンドウを閉じます。

[構造体材料の選択] ウィンドウ

材料名をダブルクリックまたは▼ボタンをクリックして開きます。



[標準]タブ



一般社団法人 公共建築協会 編集・発行の『建築設備設計基準 令和6年版』(p.362表2-4) のデータ
および社団法人空気調和・衛生工学会発行『空気調和衛生工学便覧 第14版』(基礎編 p.401表17・18)
のデータを選択可能です。備考に「便覧データ」とあるものが後者です。

構造体材料リストから 1 つを選択します。選択すると番号、材料名、熱伝導率λ、熱抵抗γ、材料図名が確定します。
「(直接入力)」を選択した場合、熱伝導率λ、熱抵抗γ、材料図名が直接入力可能となります。

[検索ウィンドウ]

入力した文字列で[標準]タブ、[省エネ基準(非住宅)]タブの材料名を検索し、該当する材料名のみを表示します。

[OK]

選択した構造体材料を確定し、ウィンドウを閉じます。

[キャンセル]

何もせずにウィンドウを閉じます。

[省エネ基準(非住宅)]タブ

標準	省エネ基準(非住宅)
材料名	熱伝導率λ
[1001] 銅	55.000
[1002] アルミニウム	210.000
[1003] 銅	370.000
[1004] ステンレス銅	15.000
[1021] 岩石	3.100
[1022] 土壌	1.000
[1041] コンクリート	1.600
[1042] 軽量コンクリート(軽量1種)	0.800
[1043] 軽量コンクリート(軽量2種)	0.500
[1044] 気泡コンクリート(A L C)	0.190
[1045] コンクリートブロック(重量)	1.100

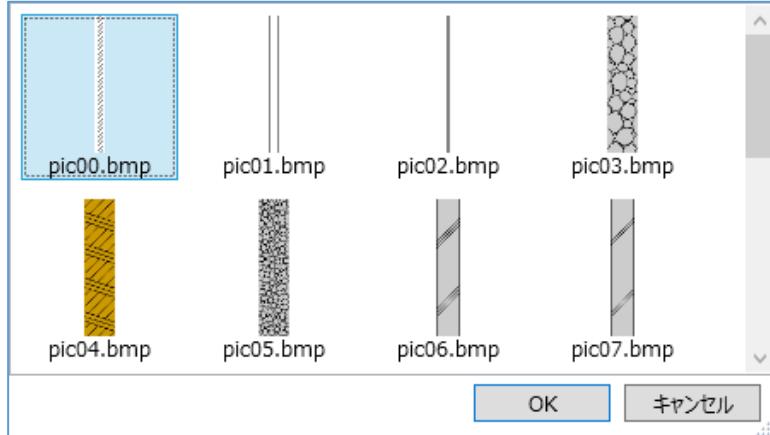
OK キャンセル

国立研究開発法人 建築研究所発行『平成28年エネルギー消費性能計算プログラム（非住宅版）解説』のデータを選択可能です。

[構造体材料図の選択]ウィンドウ

構成材料で直接入力を選択し、材料図をダブルクリックまたは▼ボタンをクリックして開きます。

構成材料:						
番号	材料名	厚さ [mm]	熱伝導率λ [W/(m·K)]	熱抵抗γ [m ² ·K/W]	材料図	備考
1	0					



構造体材料図リストから1つを選択します。材料図が確定します。

[OK]

選択した構造体材料図を確定し、ウィンドウを閉じます。

[キャンセル]

何もせずにウィンドウを閉じます。

※構造体材料図の画像ファイルは[オプションウィンドウ]-[全般]タブの「構造体材料図ファイルフォルダ」に保存されています。そのフォルダに独自の画像ファイルを作成すれば構造体材料図を追加することができます。

[壁タイプ選定表]ウィンドウ

ETD 壁タイプの[選定表…]ボタンをクリックして開きます。

ETD壁タイプ:
タイプIII 選定表...

壁タイプ選定表

断熱種類	材料	イメージ図	厚さL	壁タイプ				
				II	III	IV	V	VI
断熱なし	普通コンクリート 単層壁		—	30~140	140~230	230~	—	—
	気泡コンクリート 単層壁		—	30~130	130~210	210~	—	—
内断熱	普通コンクリート 複層壁		L = 25	d = 0~100	100~190	190~	—	—
			L = 50	d = 0~90	90~180	180~	—	—
			L = 100	d = 0~80	80~170	170~	—	—
	普通コンクリート 複層壁		L = 0	d = 0~100	100~200	200~	—	—
			L = 25	d = 0~90	90~190	190~	—	—
			L = 50	d = 0~80	80~180	180~	—	—
断熱あり	金属板 複層壁		—	30~60	60~90	90~	—	—

OK キャンセル

壁タイプの選定基準となる表です。壁タイプを II ~ VIの中から 1 つを選択することもできます。

選択すると「ETD 壁タイプ」が確定します。

[OK]

選択した壁タイプを確定し、ウィンドウを閉じます。

[キャンセル]

何もせずにウィンドウを閉じます。

[ガラス種類の登録] ウィンドウ

窓ガラス・構造体作業ページ上部の[ガラス種類の登録…]ボタンをクリックして開きます。



「ガラス種類」データを確認または追加します。

このデータは、同作業ページ-[窓ガラス]タブの「ガラス種類とブラインド種類」で選択します。

最大行数は、マスターデータより表示している行 + 100 行となります。

項目	説明
番号	行データを識別する番号を表示します。 1~28 が初期供給データ、101 以降がユーザーデータです。
ガラス種類	行データを識別する名前を入力します。文字を入力するとガラス区分、遮へい係数 SC、熱通過率 K、備考が入力できるようになります。マスターデータより表示している行の場合、変更不可です。 全角 127(半角 255)文字まで入力可能です。
ガラス区分	ガラスの区分を入力します。 全角 127(半角 255)文字まで入力可能です。
遮へい係数 SC ブラインドなし	ブラインドなしの遮へい係数 SC です。 0~9.99 の範囲が入力可能です。
遮へい係数 SC 明色ブラインド	明色ブラインドの遮へい係数 SC です。 0~9.99 の範囲が入力可能です。
遮へい係数 SC 中間色ブラインド	中間色ブラインドの遮へい係数 SC です。 0~9.99 の範囲が入力可能です。
熱通過率 K [W/(m²·K)] ガラス	ガラスのみの熱通過率 K です。 0~999.9 の範囲が入力可能です。
熱通過率 K [W/(m²·K)] ガラス+ブラインド	ガラス+ブラインドの熱通過率 K です。 0~999.9 の範囲が入力可能です。

項目	説明
備考	データの補足情報など自由に入力してください。 全角 127(半角 255)文字まで入力可能です。

[ユーザーデータ登録...]

編集したデータ状態をユーザーデータとして登録することができます。登録すると次回の新規物件の初期値となります。

[OK]

変更したデータを確定し、ウィンドウを閉じます。

「キャンセル」

何もせずにウインドウを閉じます。

[構造体材料の登録] ウィンドウ

窓ガラス・構造体作業ページ上部の「構造体材料の登録…」ボタンをクリックして開きます。



「構造体材料」データを確認または追加します。

このデータは、同作業ページ-[外壁、屋根、ピロティ床、内壁、天井・床、地中壁、土間床]タブの「構成材料」で選択します。

最大行数は、マスターデータより表示している行 + 100 行となります。

項目	説明
番号	行データを識別する番号を表します。 1~63 が初期供給データ、101 以降がユーザーデータです。
材料名	行データを識別する名前を入力します。文字を入力すると熱伝導率λ、熱抵抗γ、材料図、備考が入力できるようになります。マスターデータより表示している行の場合、変更不可です。 全角 127(半角 255)文字まで入力可能です。

項目	説明
熱伝導率λ [W/(m・K)]	構造体材料の熱伝導率です。入力すると「熱抵抗」が入力できなくなります。 0~9,999.999 の範囲が入力可能です。
熱抵抗γ [m ² ・K/W]	構造体材料の熱抵抗です。入力すると「熱伝導率」が入力できなくなります。 0~9,999.999 の範囲が入力可能です。
材料図	構造体材料の画像ファイル名です。[構造体材料図の選択] ウィンドウから選択します。 直接入力することも可能です。 全角 127(半角 255)文字まで入力可能です。
備考	データの補足情報など自由に入力してください。 全角 127(半角 255)文字まで入力可能です。

[ユーザーデータ登録...]

編集したデータ状態をユーザーデータとして登録することができます。登録すると次回の新規物件の初期値となります。

[OK]

変更したデータを確定し、ウィンドウを閉じます。

[キャンセル]

何もせずウィンドウを閉じます。

[室登録]作業ページ

[ページ表示]モード

建物で計算対象となる室の登録を行います。

初期表示行は、100 行です。

最終行の室名を入力すると、下に行が追加され、最大 5000 行登録可能です。

[室登録]作業ページは、2つの表示モードがあります。「ページ表示」はそのうちの1つで左側に「室リスト」、右側に室の詳細データという画面構成で作業を行います。

状況に応じて自由に表示モードを切り替えることができます。



項目	説明
ページ表示	表示を[ページ表示]モードに切り替えます。
シート表示	表示を[シート表示]モードに切り替えます。
右方向	[室リスト]にて Enter キー押下時、フォーカスを右方向へ移動するよう設定します。 ([室リスト]にフォーカスが存在する場合、有効)
下方向	[室リスト]にて Enter キー押下時、フォーカスを下方向へ移動するよう設定します。 ([室リスト]にフォーカスが存在する場合、有効)
上移動	選択行を上へ移動します。「登録」順で表示中の場合のみ移動が可能です。 ([室リスト]または[構造体]にフォーカスが存在し先頭行以外を選択している場合、有効)

項目	説明
下移動	選択行を下へ移動します。「登録」順で表示中の場合のみ移動が可能です。 ([室リスト]または[構造体]にフォーカスが存在し最終行以外を選択している場合、有効)
(室並び替え) 登録順	[室リスト]を「登録」順に表示します。 ※室並び替えの詳細については、「ソート機能」を参照。
(室並び替え) 室番号順	[室リスト]を「室番号」順に表示します。
(室並び替え) 階・室名順	[室リスト]を「階」、「室名」順に表示します。
(室構造体並び替え) 登録順	[構造体]を「登録」順に表示します。 ※室構造体並び替えの詳細については、「ソート機能」を参照。
(室構造体並び替え) 構造体区分・方位順	[構造体]を「構造体区分・方位」順に表示します。

[室リスト]

画面左側の室を管理するリストです。室単位のコピー、貼り付け、削除などの編集が行えます。文字編集は次の「室名称と寸法・室数」の「階」、「室番号」、「室名」と同じ結果になります。

[室名称と寸法・室数]

階	室番号	室名	床面積式 [m ²]	床面積 [m ²]	階高 [m]	天井高 [m]	室容積 [m ³]	室数
1	001	1階事務室	193.9	193.90	3.500	3.000	581.70	1

項目	説明
階	室の階数を入力します。数字以外でも入力可能です。 プログラムが自動的に直前の室の階を初期値として設定します。 全角 127(半角 255)文字まで入力可能です。
室番号	室を識別するための番号です。通常は室名を入力するとプログラムが自動的に直前の室から番号を想定して設定します。先頭室の初期値は"001"です。 全角 127(半角 255)文字まで入力可能です。
室名	室を識別する名前を入力します。文字を入力すると室の新規作成となり、室データを入力することができるようになります。 全角 127(半角 255)文字まで入力可能です。
床面積式 [m ²]	室の床面積を計算式または実値で入力します。 (入力例 1) (8.5 + 6.2) * 2 + 20.2 (入力例 2) 35.6 計算結果の床面積が、9999.99 を超えた場合、無効な文字を入力した場合、エラーとして文字の色が変化します。この場合、式を修正してください。
床面積 [m ²]	「床面積式」で入力した結果の床面積[m ²]を表示します。「床面積式」にエラーがある場合、空白となり、床面積 0m ² として計算します。

項目	説明
階高 [m]	室がある階の高さを入力します。 通常はプログラムが自動的に直前の室の階高を初期値として設定します。 0~99.999 の範囲が入力可能です。
天井高 [m]	室の床から天井までの高さを入力します。 通常はプログラムが自動的に直前の室の天井高を初期値として設定します。 0~99.999 の範囲が入力可能です。
室容積 [m ³]	室の容積を入力します。 通常は「床面積式」と「天井高」を入力すると自動的に計算して設定します。 0~999,999.99 の範囲が入力可能です。
室数	室の倍数を入力します。同じ室がある場合に使用します。 系統集計時に室の各入力値や各計算値にこの値を乗算します。 1~99 の範囲が入力可能です。

[構造体]タブ

室で計算対象となる窓ガラスや構造体の入力を行います。([構造体]タブ参照)

[室内条件]タブ

室の温度や負荷等の入力を行います。([室内条件]タブ参照)

[計算条件(全般)]タブ

計算に必要となる条件の全般的な設定を行います。([計算条件(全般)]タブ参照)

[計算条件(冬期)]タブ

計算に必要となる冬期の条件や補正係数の設定を行います。([計算条件(冬期)]タブ参照)

[系統・備考]タブ

所属する系統と備考の設定を行います。([系統・備考]タブ参照)

[構造体]タブ

構造体												
	室内条件	計算条件(全般)	計算条件(冬期)	系統・備考								
	方位	記号	幅 [m]	高さ(奥行) [m]	面積 [m ²]	差し引く窓面積 [m ²]	合計 [m ²]	ひさし記号	ルーバー記号	非空調隣室	地中深さ	備考
1	S	OG-02	20.200	2.200	44.44		44.44	E-01				
2	S	OW-01	20.200	3.500	70.70	44.44	26.26					
3	N	OG-01	8.000	1.800	14.40		14.40					
4		IW-01	20.200	3.000	60.60	0.00	60.60		一般			
5		GW-01	20.200	9.600	193.92	0.00	193.92				1m	
6	N	IW-01	8.000	3.000	24.00	14.40	9.60		一般			
7												
8												

室で計算対象となる窓ガラスや構造体の入力を行います。

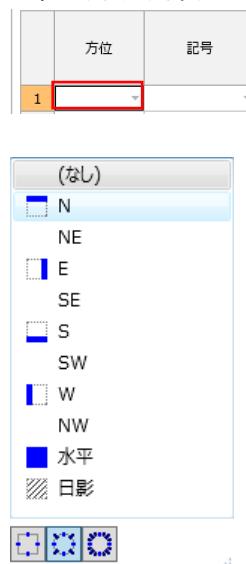
最大行数は、100 行となります。

項目	説明
方位	窓ガラスや構造体の方位です。16 方位の中から 1 つを入力します。ダブルクリック、Enter キー押下、[▼]ボタン押下で[方位の選択]ウィンドウを表示し選択します。 文字を直接入力することも可能ですが、16 方位、"水平"、"日影"以外は設定できません。
記号	[窓ガラス・構造体]作業ページで登録した窓ガラスや構造体の記号を入力します。ダブルクリック、Enter キー押下、[▼]ボタン押下で[構造体記号の選択]ウィンドウを表示し選択します。 文字を直接入力することも可能ですが、[窓ガラス・構造体]作業ページで登録した記号以外は設定できません。 全角 127(半角 255)文字まで入力可能です。
幅 [m]	窓ガラスまたは構造体の幅です。 0~9,999.999 の範囲が入力可能です。
高さ(奥行) [m]	窓ガラスまたは構造体の高さまたは奥行きです。 外壁の場合、階高が初期値となり、内壁、地中壁の場合、天井高が初期値となり、それ以外の構造体の初期値はありません。 0~9,999.999 の範囲が入力可能です。
面積 [m ²]	窓ガラスまたは構造体の面積です。 通常は「幅」と「高さ(奥行)」を入力すると自動的に計算して設定します。 面積を直接入力した場合、「幅」と「高さ(奥行)」は空白となります。 0~9,999.99 の範囲が入力可能です。
差し引く窓面積 [m ²]	構造体面積から差し引く値です。 直接面積を入力することも可能ですが、ダブルクリック、[▼]ボタン押下で該当方位の窓ガラス面積合計を自動的に設定します。その場合、先に該当方位の窓ガラスをすべて入力しておく必要があります。 0~9,999.99 の範囲が入力可能です。
合計 [m ²]	「面積」と「差し引く窓面積」を計算した結果の合計面積です。

項目	説明
ひさし記号	「記号」に窓ガラスを入力した場合に設定可能となり、[窓ガラス・構造体]作業ページで登録した「ひさし・ルーバー記号」のうち、ひさしを入力します。ダブルクリック、Enter キー押下、[▼]ボタン押下で[ひさしの選択]ウィンドウを表示し選択します。 文字を直接入力することも可能ですが、[窓ガラス・構造体]作業ページで登録した記号以外は設定できません。 全角 127(半角 255)文字まで入力可能です。
ルーバー記号	「記号」に窓ガラスを入力した場合に設定可能となり、[窓ガラス・構造体]作業ページで登録した「ひさし・ルーバー記号」のうち、ルーバーを入力します。ダブルクリック、Enter キー押下、[▼]ボタン押下で[ルーバーの選択]ウィンドウを表示し選択します。 文字を直接入力することも可能ですが、[窓ガラス・構造体]作業ページで登録した記号以外は設定できません。 全角 127(半角 255)文字まで入力可能です。
非空調隣室	「記号」に内壁、天井・床を入力した場合に設定可能となり、[屋内データ]作業ページの[非空調隣室温度]タブで設定した中から選択します。
地中深さ	「記号」に地中壁、土間床を入力した場合に設定可能となり、[地区データ]作業ページの[暖房設計用地中温度]タブで設定した中から選択します。
備考	データの補足情報など自由に入力してください。 全角 127(半角 255)文字まで入力可能です。

[方位の選択]ウィンドウ

方位をダブルクリックまたは▼ボタンをクリックして開きます。



方位を選択します。初期表示するリストは 8 方位と"水平"、"日影"です。

項目	説明
	表示リストを 4 方位と"水平"、"日影"にします。
	表示リストを 8 方位と"水平"、"日影"にします。
	表示リストを 16 方位と"水平"、"日影"にします。

[構造体記号の選択]ウィンドウ

記号をダブルクリックまたは▼ボタンをクリックして開きます。

方位	記号
1	

記号	種類
OG-01	窓ガラス
OG-02	窓ガラス
OG-03	窓ガラス
OG-04	窓ガラス
OW-01	外壁
OW-02	外壁
RW-01	屋根
IW-01	内壁
IW-02	内壁
IW-03	内壁
IW-04	内壁
IW-05	内壁

項目	値
[028] タイル	9.0 mm
[021] モルタル	9.0 mm
[016] 普通コンクリート	180.0 mm
[057] 硬質ウレタン発泡板	20.0 mm

窓ガラスまたは構造体の記号を選択します。

項目	説明
左側リスト	[窓ガラス・構造体]作業ページで登録した記号のリストです。該当する記号を選択します。
右上リスト	左側リストで選択した記号の詳細です。
右下図	左側リストで選択した記号のイメージ図です。

[ひさしの選択]ウィンドウ

記号で窓ガラスを選択し、ひさし記号をダブルクリックまたは▼ボタンをクリックして開きます。

方位	記号	幅 [m]	高さ(奥行) [m]	面積 [m ²]	差し引く窓面積 [m ²]	合計 [m ²]	ひさし記号	ルーバー記号
1 S	OG-02	20.200	2.200	44.44	44.44	44.44	E-01	

記号	種類
(なし)	
E-01	ひさし
E-02	ひさし

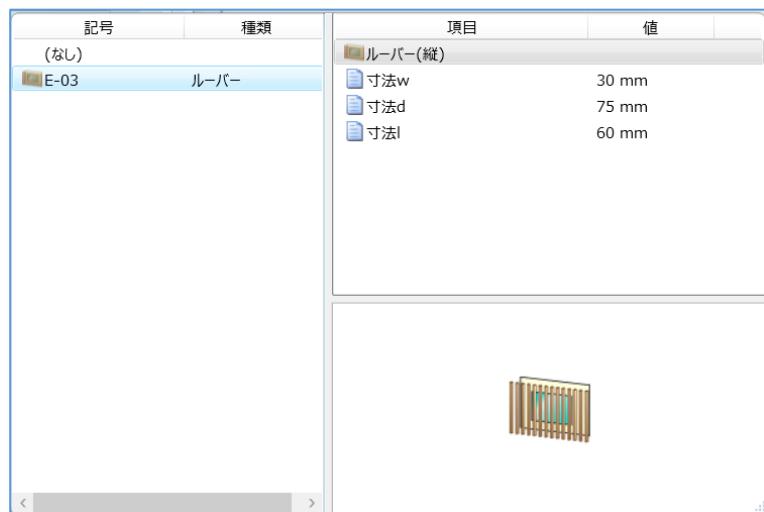
項目	値
ひさし+左袖壁+右袖壁	
寸法b'2	0 mm
寸法b	20,200 mm
寸法b'1	0 mm
寸法H	3,700 mm
寸法h	2,200 mm
寸法h'	1,500 mm
寸法w	0 mm
寸法v2	0 mm
寸法v1	1,200 mm

ひさしの記号を選択します。

[ルーバーの選択]ウィンドウ

記号で窓ガラスを選択し、ルーバー記号をダブルクリックまたは▼ボタンをクリックして開きます。

	方位	記号	幅 [m]	高さ (奥行) [m]	面積 [m ²]	差し引く 窓面積 [m ²]	合計 [m ²]	ひさし 記号	ルーバー 記号
1	S	OG-04	3.000	2.200	6.60	6.60	E-03		



ルーバーの記号を選択します。

項目	説明
左側リスト	[窓ガラス・構造体]作業ページで登録した記号のリストです。該当する記号を選択します。
右上リスト	左側リストで選択した記号の詳細です。
右下図	左側リストで選択した記号のイメージ図です。

[室内条件]タブ

構造体		室内条件	計算条件(全般)	計算条件(冬期)	系統・備考					
設計用 屋内条件	参照室名	夏期			冬期					
		乾球 温度 [°C]	相対 湿度 [%]	絶対湿度 [kg /kg(DA)]	比エンタル ピー [kJ /kg(DA)]	乾球 温度 [°C]	相対 湿度 [%]	絶対湿度 [kg /kg(DA)]	比エンタル ピー [kJ /kg(DA)]	
一般事務室(2)		26.0	50	0.0105	52.9	22.0	40	0.0066	38.9	
照明負荷	消費電力より算出			設計照度より算出				照明負荷		
	参照室名		一台当たりの 消費電力 [W]	台数 [台]	形式	設計照度 [lx]	消費電力 [W/m ²]	補正照度 [lx]	補正 [W/m ²]	[W/室]
事務室、上級室、設計室、製図室				LED照明 下面開放形	750	9.0	750	1.00	9.0 1,745	
人体負荷	参照室名	人員密度 [人/m ²]	人員 [人/室]	潜熱LH [W/人]	顯熱SH [W/人]					
	事務室 (26°C)	0.15	30	53	69					
その他の内部 発熱負荷	事務機器			大形事務機器等		その他				
	参照室名	消費電力 [W/m ²]	負荷率	消費電力 [W/室]	負荷率	潜熱 [W/室]	顯熱 [W/室]			
一般事務室 (最大消費電力)		30	0.60	500	0.60	1,806				
すきま風負荷	窓サッシ									
	計算	風量 [m ³ /h]								
する	夏期=11 冬期=5									
外気負荷	人員による外気量		換気回数による外気量		必要外気量 [m ³ /h]	設計外気量		全熱交換器		
	一人当たり [m ³ (h・人)]	室当たり [m ³ /h]	換気回数 [回/h]	室当たり [m ³ /h]		直接 入力	[m ³ /h]	計算	熱交換効率 [%]	通過率 [%]
20	600	1.0	582	600	しない	600	する	60.0	60.0 100.0	

※通過率：設計外気量のうち全熱交換器を通過する風量の率

室の温度や負荷等の入力を行います。

[設計用屋内条件]

設計用 屋内条件	参照室名	夏期				冬期			
		乾球 温度 [°C]	相対 湿度 [%]	絶対湿度 [kg /kg(DA)]	比エンタル ピー [kJ /kg(DA)]	乾球 温度 [°C]	相対 湿度 [%]	絶対湿度 [kg /kg(DA)]	比エンタル ピー [kJ /kg(DA)]
	一般事務室(1)	28.0	45	0.0107	55.4	19.0	40	0.0054	32.9

プログラムが自動的に直前の室の値を初期値として設定します。

項目	説明
参照室名	[屋内データ]作業ページの[設計用屋内条件]タブで登録したリストの中から選択します。選択すると夏期、冬期それぞれの「乾球温度」、「相対湿度」、「比エンタルピー」、「絶対湿度」が確定します。確定した後、「乾球温度」、「相対湿度」、「比エンタルピー」、「絶対湿度」を変更した場合、「参照室名」は"(直接入力)"となります。
夏期 乾球温度 [°C]	室内の夏期の乾球温度です。 -99.9～99.9 の範囲が入力可能です。
夏期 相対湿度 [%]	室内の夏期の相対湿度です。 0～100 の範囲が入力可能です。
夏期 絶対湿度 [kg/kg(DA)]	室内の夏期の絶対湿度です。 0～0.0300 の範囲が入力可能です。
夏期 比エンタルピー [kJ/kg(DA)]	室内の夏期の比エンタルピーです。 -99.9～999.9 の範囲が入力可能です。
冬期 乾球温度 [°C]	室内の夏期の乾球温度です。 -99.9～99.9 の範囲が入力可能です。

項目	説明
冬期 相対湿度 [%]	室内の夏期の相対湿度です。 0~100 の範囲が入力可能です。
冬期 絶対湿度 [kg/kg(DA)]	室内の夏期の絶対湿度です。 0~0.0300 の範囲が入力可能です。
冬期 比エンタルピー [kJ/kg(DA)]	室内の夏期の比エンタルピーです。 -99.9~999.9 の範囲が入力可能です。

[照明負荷]

照明負荷	参照室名	消費電力より算出		設計照度より算出				照明負荷	
		一台当たりの消費電力 [W]	台数 [台]	形式	設計照度 [lx]	消費電力 [W/m ²]	補正照度 [lx]	補正	[W/m ²]
		事務室、上級室、設計書		LED照明 下面	750	10.0	750	1.00	10.0

プログラムが自動的に直前の室の値を初期値として設定します。

項目	説明
参照室名	[屋内データ]作業ページの[照明器具の消費電力]タブで登録したリストの中から選択します。選択すると「設計照度」、「消費電力」が確定し、「消費電力」が計算されます。確定した後、「照明負荷 [W/m ²]」、「照明負荷 [W/室]」を変更した場合、「参照室名」は"(直接入力)"となります。 "(直接入力)"を選択した場合、「消費電力より算出」欄と「設計照度より算出」欄はすべて入力不可となり、「照明負荷」欄のみ入力可能となります。 "(消費電力より算出入力)"を選択した場合、「設計照度より算出」欄はすべて入力不可となり、「消費電力より算出」欄と「照明負荷」欄のみ入力可能となります。
消費電力より算出 一台当たりの消費電力 [W]	照明器具一台当たりの消費電力です。 0~9,999 の範囲が入力可能です。
消費電力より算出 台数 [台]	照明器具の台数です。 0~9,999 の範囲が入力可能です。
設計照度より算出 形式	"蛍光灯 下面開放形"、"蛍光灯 ルーバー有"、"蛍光灯 アクリルカバー有"、"LED 照明 下面開放形"、"LED 照明 ルーバー有"の中から選択します。選択すると、消費電力が確定します。
設計照度より算出 設計照度 [lx]	照明器具の設計照度です。表示のみで入力はできません。
設計照度より算出 消費電力 [W/m ²]	照明器具の消費電力です。表示のみで入力はできません。
設計照度より算出 補正照度 [lx]	照明器具の補正照度です。照度による補正を行う場合に変更します。 0~999,999 の範囲が入力可能です。
設計照度より算出 補正	照明器具で補正が必要な場合に入力します。 0~99.99 の範囲が入力可能です。
照明負荷 [W/m ²]	照明の m ² 当たりの消費電力です。 0~999.9 の範囲が入力可能です。

項目	説明
照明負荷 [W/室]	照明の室当たりの消費電力です。「照明負荷 [W/m ²]」と室の「床面積」から自動計算し初期値とします。変更すると「照明負荷 [W/m ²]」が空白となります。 0~999,999 の範囲が入力可能です。

[人体負荷]

人体負荷	参照室名	人員密度 [人/m ²]	人員 [人/室]	顎熱SH [W/人]	潜熱LH [W/人]
	事務室 (26°C)	0.15	29	69	53

「人員」以外は、プログラムが自動的に直前の室の値を初期値として設定します。

項目	説明
参照室名	[屋内データ]作業ページの[人体発熱量]タブで登録したリストの中から選択します。選択すると「人員密度」、「潜熱 LH」、「顎熱 SH」が確定します。確定した後、「人員密度」、「人員」、「潜熱 LH」、「顎熱 SH」を変更した場合、「参照室名」は"(直接入力)"となります。
人員密度 [人/m ²]	1m ² 当たりの人員です。 0~9.99 の範囲が入力可能です。
人員 [人/室]	室当たりの人員です。「人員密度」と室の「床面積」から自動計算します。 計算した値は小数点以下で切り上げとなります。 手入力で変更も可能です。変更すると「人員密度」が空白となります。 0~99,999 の範囲が入力可能です。
潜熱 LH [W/人]	1 人当たりの潜熱量です。 0~999 の範囲が入力可能です。
顎熱 SH [W/人]	1 人当たりの顎熱量です。 0~999 の範囲が入力可能です。

[その他の内部発熱負荷]

その他の内部発熱負荷	事務機器			大形事務機器等		その他	
	参照室名	消費電力 [W/m ²]	負荷率	消費電力 [W/室]	負荷率	潜熱 [W/室]	顎熱 [W/室]
	一般事務室 (最大消費電力)	30	0.60	500	0.60		1,806

「参照室名」、「消費電力 [W/m²]」は、プログラムが自動的に直前の室の値を初期値として設定します。

項目	説明
事務機器	[屋内データ]作業ページの[事務機器の消費電力]タブで登録したリストの中から選択します。選択すると「消費電力」が確定します。確定した後、「消費電力」を変更した場合、「参照室名」は"(直接入力)"となります。
参照室名	
事務機器	1m ² 当たりの消費電力です。
消費電力 [W/m ²]	0~999 の範囲が入力可能です。
事務機器	事務機器の負荷率です。
負荷率	0~9.99 の範囲が入力可能です。
大形事務機器等	室当たりの消費電力です。
消費電力 [W/室]	0~999,999 の範囲が入力可能です。

項目	説明
大形事務機器等 負荷率	大形事務機器等の負荷率です。 0~9.99 の範囲が入力可能です。
その他 潜熱 [W/室]	その他の室当たりの潜熱量です。 0~999,999 の範囲が入力可能です。
その他 顕熱 [W/室]	その他の室当たりの顕熱量です。 0~999,999 の範囲が入力可能です。

[すきま風負荷]

すきま風負荷	窓サッシ	
	計算	風量 [m³/h]
	する	夏期=11 冬期=5

「計算」は、プログラムが自動的に直前の室の値を初期値として設定します。

項目	説明
窓サッシ 計算	窓サッシの計算条件です。 "しない"、"する"の 2 つから選択します。
窓サッシ 風量 [m³/h]	窓サッシのすきま風量の合計値を夏期、冬期別に表示します。ダブルクリック、Enter キー押下、[▼]ボタン押下で [窓サッシのすきま風量]ウィンドウを表示します。

[外気負荷]

外気負荷	人員による外気量		換気回数による外気量		必要外気量 [m³/h]	設計外気量		全熱交換器		
	一人当たり [m³/(h・人)]	室当たり [m³/h]	換気回数 [回/h]	室当たり [m³/h]		直接 入力	[m³/h]	計算	熱交換効率[%]	通過率 [%]
	20	580	1.0	582		582	しない	600	する	60.0
※通過率：設計外気量のうち全熱交換器を通過する風量の率										

「室当たり」、「必要外気量」、「設計外気量」以外は、プログラムが自動的に直前の室の値を初期値として設定します。

項目	説明
人員による外気量 一人当たり [m³/(人・h)]	一人当たりの人員による外気量です。初期値は 30m³/(人・h)です。 0~9,999 の範囲が入力可能です。
人員による外気量 室当たり [m³/h]	室当たりの人員による外気量です。「人体負荷」の「人員」と「1 人当たりの外気量」から計算した値です。 表示のみで入力はできません。 0~999,999,999 の範囲が表示可能です。
換気回数による外気量 換気回数[回/h]	換気回数です。初期値は空です。 0.0~99.9 の範囲が入力可能です。
換気回数による外気量 室当たり[m³/h]	室当たりの換気回数による外気量です。「室容積」と「換気回数」から計算した値です。 表示のみで入力はできません。 0~999,999,999 の範囲が表示可能です。

項目	説明
必要外気量[m ³ /h]	必要外気量です。 「人員による外気量 室当たり」と「換気回数による外気量 室当たり」のうち、値が大きい方を表示します。 表示のみで入力はできません。
設計外気量 直接入力	設計外気量の入力条件です。 "しない"、"する"の 2 つから選択します。
設計外気量[m ³ /h]	設計外気量です。 「直接入力」を"しない"にした場合、入力不可となり、必要外気量を[設計条件]作業ページの「設計外気量丸め」の単位で丸めた値を表示します。 「直接入力」を"する"にした場合、入力可能となります。 0～999,999,999 の範囲が入力可能です。
全熱交換器 計算	全熱交換器の計算条件です。 "しない"、"する"の 2 つから選択します。
全熱交換器 熱交換効率 [%] 夏期	全熱交換器の夏期の熱交換効率です。「計算」を"する"にした場合に有効となります。初期値は 0% です。 0.0～999.9 の範囲が入力可能です。
全熱交換器 熱交換効率 [%] 冬期	全熱交換器の冬期の熱交換効率です。「計算」を"する"にした場合に有効となります。初期値は 0% です。 0.0～999.9 の範囲が入力可能です。
全熱交換器 通過率[%]	設計外気量のうち、全熱交換器を通過する風量の率を入力します。 「計算」を"する"にした場合に有効となります。初期値は 100% です。 0.0～100.0 の範囲が入力可能です。 計算例) 通過率を「60」とした場合 外気負荷 = 全熱交換器を計算する場合の外気負荷 ^{※1} + 全熱交換器を計算しない場合の外気負荷 ^{※2} ※ ¹ 外気量は設計外気量の 60% に相当する値を使用 ※ ² 外気量は設計外気量の 40% に相当する値を使用 ※計算式の詳細は[サポート]メニュー「熱負荷計算方法を確認」からご確認ください。

[窓サッシのすきま風量] ウィンドウ

「計算」で「する」を選択し、風量をダブルクリックまたは▼ボタンをクリックして開きます。

すきま風負荷	窓サッシ	
	計算	風量 [m³/h]
	する	夏期=11 冬期=5

窓サッシのすきま風量 - [001] 1階事務室

すきま風の風向と風速:

項目	夏期	冬期
最多風向	S	NW
最多風向の影響方位	E, ESE, SE, SSE, S, SSW, SW, WSW, W	SW, WSW, W, WNW, NW, NNW, N, NNE, NE
風速[m/s]	6	8

計算対象の方位

最多風向の影響方位
 すべての方位

方位	記号	サッシ面積 [m²]	サッシ種類	気密性	夏期			冬期			
					計算	面積当りの風量 [m³/(m²·h)]	風量 [m³/h]	計算	面積当りの風量 [m³/(m²·h)]	風量 [m³/h]	
S	OG-02	44.40	引違い	A(良好)	する	0.250	11	しない	する	0.350	5
N	OG-01	14.40	引違い	A(良好)	しない			する			5

OK キャンセル

窓サッシのすきま風量を計算するウィンドウです。「構造体」で入力した窓ガラスが計算の対象となります。

窓ガラスは、[ホーム]メニュー [室構造体並び替え]順に表示します。

[すきま風の風向と風速]

項目	説明
最多風向	[地区データ]作業ページの[設計用屋外条件]タブで設定した「最多風向」です。
最多風向の影響方位	上記の「最多風向」の影響ある方位(±90°の方位)です。
風速 [m/s]	建物に吹きつける風の風速です。2、4、6、8、10m/sの中から選択します。 初期値は夏期 6m/s、冬期 8m/s です。

[計算対象の方位]

項目	説明
最多風向の影響方位	「窓サッシのすきま風量」表の計算条件を「すきま風の風向と風速」表の「最多風向の影響方位」に従って自動的に設定します。
すべての方位	「窓サッシのすきま風量」表の計算条件をユーザーが自由に設定できます。

[窓サッシのすきま風量]

項目	説明
方位	[構造体]タブで入力した窓ガラスの方位です。
記号	[構造体]タブで入力した窓ガラスの記号です。
サッシ面積 [m²]	[構造体]タブで入力した窓ガラスの合計面積です。

項目	説明
サッシ種類	窓サッシの種類です。 "(直接入力)"、"引違い"、"片引き"、"内倒し"、"すべり出し"、"回転窓"、"引違い二重サッシ"、"住宅用引違い"、"住宅用 BL 形、防音"の 9 つから選択します。選択すると面積当たりの風量が確定します。
気密性	窓サッシの気密性です。 "A (良好)"、"B (中程度)"の 2 つから選択します。「サッシ種類」が"(直接入力)"の場合は選択できません。
夏期 計算	窓サッシの夏期の計算条件です。 "しない"、"する"の 2 つから選択します。
夏期 面積当たりの風量 [m ³ /(m ² ・h)]	窓サッシ面積当たりの風量です。「サッシ種類」、「気密性」、「すきま風の風向と風速」の「夏期 風速」で確定します。確定した後、「面積当たりの風量」を変更した場合、「サッシ種類」は"(直接入力)"となります。 0~99.999 の範囲が入力可能です。
夏期 風量 [m ³ /h]	「サッシ面積」と「夏期 面積当たりの風量」から計算した値です。「風量」を変更した場合、「夏期 面積当たりの風量」は空白となります。 0~999,999 の範囲が入力可能です。
冬期 計算	窓サッシの冬期の計算条件です。 "しない"、"する"の 2 つから選択します。
冬期 面積当たりの風量 [m ³ /(m ² ・h)]	窓サッシ面積当たりの風量です。「サッシ種類」、「気密性」、「すきま風の風向と風速」の「冬期 風速」で確定します。確定した後、「面積当たりの風量」を変更した場合、「サッシ種類」は"(直接入力)"となります。 0~99.999 の範囲が入力可能です。
冬期 風量 [m ³ /h]	「サッシ面積」と「冬期 面積当たりの風量」から計算した値です。「風量」を変更した場合、「冬期 面積当たりの風量」は空白となります。 0~999,999 の範囲が入力可能です。

[OK]

設定した内容を確定し、ウィンドウを閉じます。

[キャンセル]

何もせずウィンドウを閉じます。

[計算条件(全般)]タブ

構造体	室内条件	計算条件(全般)	計算条件(冬期)	系統・備考	
空調負荷区分	空調負荷区分				
	冷暖房負荷				
顕熱負荷補正係数	冷房負荷		暖房負荷		
	ダクト損失係数	間欠運転係数	送風機負荷係数	ダクト損失係数	間欠運転係数
	1.10	1.10	1.05	1.10	1.10
プラインド条件	9時の開閉条件		12時、14時、16時の開閉条件		開いている上限の日射熱取得量[W/m ²] (注)
	常に閉じる		日射熱取得量により開閉		116 117
(注)「建築設備設計計算書作成の手引 平成6年版」に記載されている値を初期値に設定しておりますが、必要に応じて変更してください。					※IGが 116 以下は開く、117 以上は閉じる
熱負荷値負数条件	冷房負荷		暖房負荷		
	ゼロ(0)にする		ゼロ(0)にする		

負荷計算に必要となる条件の全般的な設定を行います。

[空調負荷区分]

空調負荷区分	空調負荷区分	
	冷暖房負荷	▼

項目	説明
空調負荷区分	"冷暖房負荷"、"冷房負荷のみ"、"暖房負荷のみ"の3つから選択します。 "冷暖房負荷"は、冷房負荷、暖房負荷の両方の計算を行います。 "冷房負荷のみ"は、冷房負荷計算のみを行い、暖房負荷は0とします。 "暖房負荷のみ"は、暖房負荷計算のみを行い、冷房負荷は0とします。

[顕熱負荷補正係数]

顕熱負荷補正係数	冷房負荷		暖房負荷		
	ダクト損失係数	間欠運転係数	送風機負荷係数	ダクト損失係数	間欠運転係数
	1.10	1.10	1.05	1.10	1.10

項目	説明
冷房負荷 ダクト損失係数	ダクト表面からの負荷、空気漏洩による負荷等を考慮のための補正係数です。0~9.99の範囲が入力可能です。
冷房負荷 間欠運転係数	朝の予冷負荷を考慮して、9時に日射の影響を受けている構造体およびガラス面に対する補正係数です。0~9.99の範囲が入力可能です。
冷房負荷 送風機負荷係数	空調機やファンコイルユニットの送風機運転を考慮した補正係数です。0~9.99の範囲が入力可能です。
暖房負荷 ダクト損失係数	ダクト表面からの負荷、空気漏洩による負荷等を考慮のための補正係数です。0~9.99の範囲が入力可能です。
暖房負荷 間欠運転係数	朝の予熱負荷を考慮した補正係数です。0~9.99の範囲が入力可能です。

[ブラインド条件]

ブラインド条件	9時の開閉条件	12時、14時、16時の開閉条件	開いている上限の日射熱取得量 [W/m ²] (注)	※IGが 116 以下は閉く、117 以上は閉じる
	常に閉じる	日射熱取得量により開閉	116	

(注)「建築設備設計計算書作成の手引 平成6年版」に記載されている値を初期値に設定しておりますが、必要に応じて変更してください。

項目	説明
9時の開閉条件	<p>9時のブラインド開閉条件です。</p> <p>"常に閉じる"、"常に開く"、"日射熱取得量により開閉"の3つから選択します。</p> <p>"常に閉じる"は、[窓ガラス・構造体]作業ページで登録した「窓ガラス」の「遮へい係数SC」 - 「ブラインドを閉じた状態」のSC値で計算します。</p> <p>"常に開く"は、[窓ガラス・構造体]作業ページで登録した「窓ガラス」の「遮へい係数SC」 - 「ブラインドを開いた状態」のSC値で計算します。</p> <p>"日射熱取得量により開閉"は、[地区データ]作業ページの該当時刻の「ガラス面標準日射熱取得量 IG」が「開いている上限の日射熱取得量」以下の場合、「常に開く」と同じ計算となります。逆に「開いている上限の日射熱取得量」を超える場合、「常に閉じる」と同じ計算となります。</p>
12時、14時、16時の開閉条件	<p>9時以外のブラインド開閉条件です。</p> <p>条件内容は、上記の「9時の開閉条件」と同じです。</p>
開いている上限の日射熱取得量 [W/m ²]	<p>上記2つの開閉条件が"日射熱取得量により開閉"の場合、「ガラス面標準日射熱取得量 IG」と比較してブラインド開閉を決める値です。</p> <p>0~999の範囲が入力可能です。</p> <p>(注)「建築設備設計計算書作成の手引 平成6年版」に記載されている値を初期値に設定しておりますが、必要に応じて変更してください。</p>

[熱負荷値負数条件]

熱負荷値 負数条件	冷房負荷	暖房負荷
	ゼロ(0)にする	ゼロ(0)にする

項目	説明
「冷房負荷」、「暖房負荷」	<p>負荷計算した結果、値が負の数(マイナス)になった場合の条件を"ゼロ(0)にする"、"そのまま計算する"の2つから選択します。</p> <p>対象となる項目は以下となります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「構造体負荷・ガラス面通過熱負荷」の構造体・窓ガラス毎 ・「すきま風負荷」の窓サッシ ・外気負荷合計 ・室内負荷小計

[計算条件(冬期)]タブ

構造体	室内条件	計算条件(全般)	計算条件(冬期)	系統・備考														
天井高 暖房設計用 屋内温度補正	補正条件	補正係数 Kc																
	補正しない																	
24時間空調	計算																	
	しない																	
方位係数	日影	水平	N	NNE	NE	ENE	E	ESE	SE	SSE	S	SSW	SW	WSW	W	WNW	NW	NNW
	1.20	1.20	1.10	1.10	1.10	1.10	1.10	1.10	1.05	1.05	1.00	1.05	1.05	1.10	1.10	1.10	1.10	1.10
内部発熱	計算	照明負荷率 [%]	人体負荷率 [%]	その他の内部発熱負荷率														
	しない			機器[%]	その他[%]													
加湿量計算	計算	顯熱交換効率 [%]																
	する	70.0																

※顯熱交換効率は、全熱交換器の計算を行う場合のみ加湿量の計算に使用します。

負荷計算に必要となる冬期の条件や補正係数の設定を行います。

[天井用暖房設計用屋内温度補正]

天井高 暖房設計用 屋内温度補正	補正条件	補正係数 Kc
	温水暖房補正	1.00

項目	説明
補正条件	天井高が高い場合の暖房設計用屋内温度の補正条件です。 "補正しない"、"温水暖房補正"、"蒸気暖房補正"、"補正值直接入力"の4つから選択します。 "補正しない"は、温度補正を行いません。 "温水暖房補正"は、ファンコイルユニット方式(ダクト併用方式も含む)の場合です。 "蒸気暖房補正"は、温風暖房の場合です。 "補正值直接入力"は、補正值を直接入力する場合です。
補正係数 Kc	天井高が高い場合の暖房設計用屋内温度の補正係数です。 「補正条件」が"補正值直接入力"の場合、0~9.99の範囲が入力可能です。

[24 時間空調]

24時間空調	計算
	しない ▼

項目	説明
計算	<p>24 時間空調の計算条件です。</p> <p>"しない"、"する"の 2 つから選択します。</p> <p>24 時間空調を行う室の場合、"する"を選択します。</p> <p>"しない"を選択した場合、冬期の負荷計算に[地区データ]作業ページ-[設計用屋外条件]タブの冬期 9 時の温湿度条件を使用します。</p> <p>"する"を選択した場合、冬期の負荷計算に[地区データ]作業ページ-[設計用屋外条件]タブの冬期夜間温度の温湿度条件を使用します。</p> <p>該当する負荷計算は以下の通り。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・構造体負荷、ガラス面通過熱負荷 ・すきま風負荷 ・外気負荷 ・加湿量

[方位係数]

方位係数	日影	水平	N	NNE	NE	ENE	E	ESE	SE	SSE	S	SSW	SW	WSW	W	WNW	NW	NNW
	1.20	1.20	1.10	1.10	1.10	1.10	1.10	1.10	1.05	1.05	1.00	1.05	1.05	1.10	1.10	1.10	1.10	1.10

項目	説明
「日影」、「水平」、「N」、「NNE」、「NE」、「ENE」、「E」、「ESE」、「SE」、「SSE」、「S」、「SSW」、「SW」、「WSW」、「W」、「WNW」、「NW」、「NNW」	<p>ガラス面、外壁、屋根、ピロティ床の暖房負荷計算に使用する方位別係数です。</p> <p>24 時間空調を行う室の場合、計算には使用しません。</p> <p>0~9.99 の範囲が入力可能です。</p>

[内部発熱]

内部発熱	計算	照明負荷率 [%]	人体負荷率 [%]	その他の内部発熱負荷率	
				機器[%]	その他[%]
	する ▼	50	50	50	50

項目	説明
計算	<p>冬期の内部発熱負荷の計算条件です。</p> <p>"しない"、"する"の 2 つから選択します。</p> <p>"する"を選択した場合、夏期の内部発熱負荷値に次の各負荷率を掛け、さらに符号をマイナスにして冬期の内部発熱負荷とします。</p>
照明負荷率 [%]	<p>冬期の照明負荷率です。</p> <p>0~999 の範囲が入力可能です。</p>
人体負荷率 [%]	<p>冬期の人体負荷率です。</p> <p>0~999 の範囲が入力可能です。</p>

項目	説明
その他の内部発熱負荷率 機器 [%]	冬期の「その他内部発熱負荷」で「事務機器」と「大形事務機器等」の負荷率です。 0～999 の範囲が入力可能です。
その他の内部発熱負荷率 その他 [%]	冬期の「その他の内部発熱負荷」で「その他」の負荷率です。 0～999 の範囲が入力可能です。

[加湿量の計算]

加湿量計算	計算	顯熱交換効率 [%]
	する	70.0

※顯熱交換効率は、全熱交換器の計算を行う場合のみ加湿量の計算に使用します。

項目	説明
計算	加湿量の計算条件です。 "しない"、"する"の 2 つから選択します。 令和 3 年版で作成したデータをインポートした場合、"する"が選択されます。 "する"を選択した場合、帳票の「熱負荷計算書」に出力します。
顯熱交換効率 [%]	加湿量の計算に使用する顯熱交換効率です。 加湿量の計算を"する"場合かつ、[室内条件]タブにて全熱交換器の計算を"する"にした場合に入力可能となります。初期値は 0% です。 0.0～999.9 の範囲が入力可能です。 顯熱交換効率は、全熱交換器の計算を行う場合のみ加湿量の計算に使用します。

- ・ 令和 3 年版で作成したデータをインポートした場合、「計算」は「する」、「顯熱交換効率」は空欄となります。
 - ・ 加湿量を計算する場合：「計算」は「する」のまま、顯熱交換効率を必ず入力してください。
 - ・ 加湿量を計算しない場合：「計算」を「しない」に変更してください。（顯熱交換効率の入力は不要です。）

[系統・備考]タブ

構造体	室内条件	計算条件(全般)	計算条件(冬期)	系統・備考								
<table border="1"><tr><td>系統</td><td>系統名</td></tr><tr><td colspan="2">1階事務室系統</td></tr><tr><td>備考</td><td>備考</td></tr><tr><td colspan="2"></td></tr></table>					系統	系統名	1階事務室系統		備考	備考		
系統	系統名											
1階事務室系統												
備考	備考											

所属する系統と備考の設定を行います。

[系統]

系統	系統名
1階事務室系統	

項目	説明
系統名	室の所属する系統名です。 新しい系統名を入力した場合、系統を新規作成し所属系統とします。また、既存の系統をリストから選択することもできます。 全角 127(半角 255)文字まで入力可能です。

[備考]

備考	備考

項目	説明
備考	室の備考です。データの補足情報など自由に入力してください。 全角 127(半角 255)文字まで入力可能です。

[シート表示]モード

建物で計算対象となる室の登録を行います。

初期表示行は、100 行です。

最終行の室名を入力すると、下に行が追加され、最大 5000 行登録可能です。

「室登録」作業ページは、2 つの表示モードがあります。「シート表示」はそのうちの 1 つで室の詳細データを表示した 1 つのシートで作業を行います。

状況に応じて自由に表示モードを切り替えることができます。

「階」～「室名」は固定列でスクロールしません。

※「シート表示」での構造体の入力は行えません。



項目	説明
ページ表示	表示を[ページ表示]モードに切り替えます。
シート表示	表示を[シート表示]モードに切り替えます。
右方向	[室シート]にて Enter キー押下時、フォーカスを右方向へ移動するよう設定します。 ([室シート]にフォーカスが存在する場合、有効)
下方向	[室シート]にて Enter キー押下時、フォーカスを下方向へ移動するよう設定します。 ([室シート]にフォーカスが存在する場合、有効)

項目	説明
上移動	選択行を上へ移動します。 ([室シート]にフォーカスが存在し先頭行以外を選択している場合、有効)
下移動	選択行を下へ移動します。 ([室シート]にフォーカスが存在し最終行以外を選択している場合、有効)
(室並び替え)	[室シート]を「登録順」順に表示します。
登録順	※室並び替えの詳細については、「ソート機能」を参照。
(室並び替え)	[室シート]を「室番号順」順に表示します。
室番号順	
(室並び替え)	[室シート]を「階」、「室名」順に表示します。
階・室名	

[表示項目]

表示するシート列項目を選択することができます。

[室シート]

室の詳細データのシートです。室単位のコピー、貼り付け、削除やセル単位の編集が行えます。

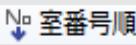
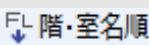
ソート機能

室のソート

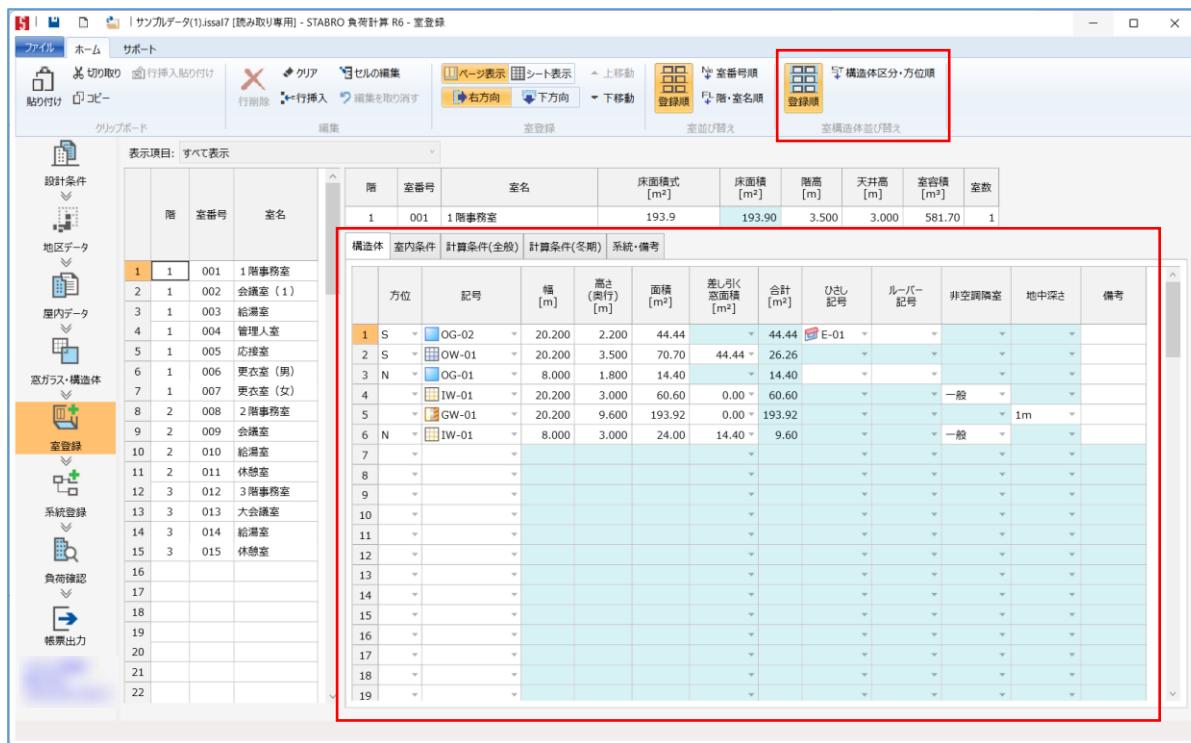
階	室番号	室名	床面積式 [m ²]	床面積 [m ²]	階高 [m]	天井高 [m]	床容積 [m ³]	室数
1	001	1階事務室	193.9	193.90	3.500	3.000	581.70	1
1	002	会議室（1）						
1	003	給湯室						
1	004	管理人室						
1	005	応接室						
6	006	更衣室（男）						
7	007	更衣室（女）						
8	008	2階事務室						
9	009	会議室						
10	010	給湯室						
11	011	休憩室						
12	012	3階事務室						
13	013	大会議室						
14	014	給湯室						
15	015	休憩室						
16								
17								
18								
19								
20								
21								
22								

[室リスト]、[室シート]の並べ替えができます。

「登録順」、「室番号順」、「階・室名順」ボタンで切り替えることができます。

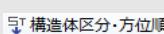
項目	説明
	[室リスト]、[室シート]の内容を登録順の昇順に並べ替えます。 この順番がデフォルト設定となります。
	[室リスト]、[室シート]の内容を室番号順の昇順に並べ替えます。 室番号順でソート中に行の挿入は行えません。
	[室リスト]、[室シート]の内容を①階、②室名の優先順位で昇順に並べ替えます。 階・室名順でソート中に行の挿入は行えません。

構造体のソート



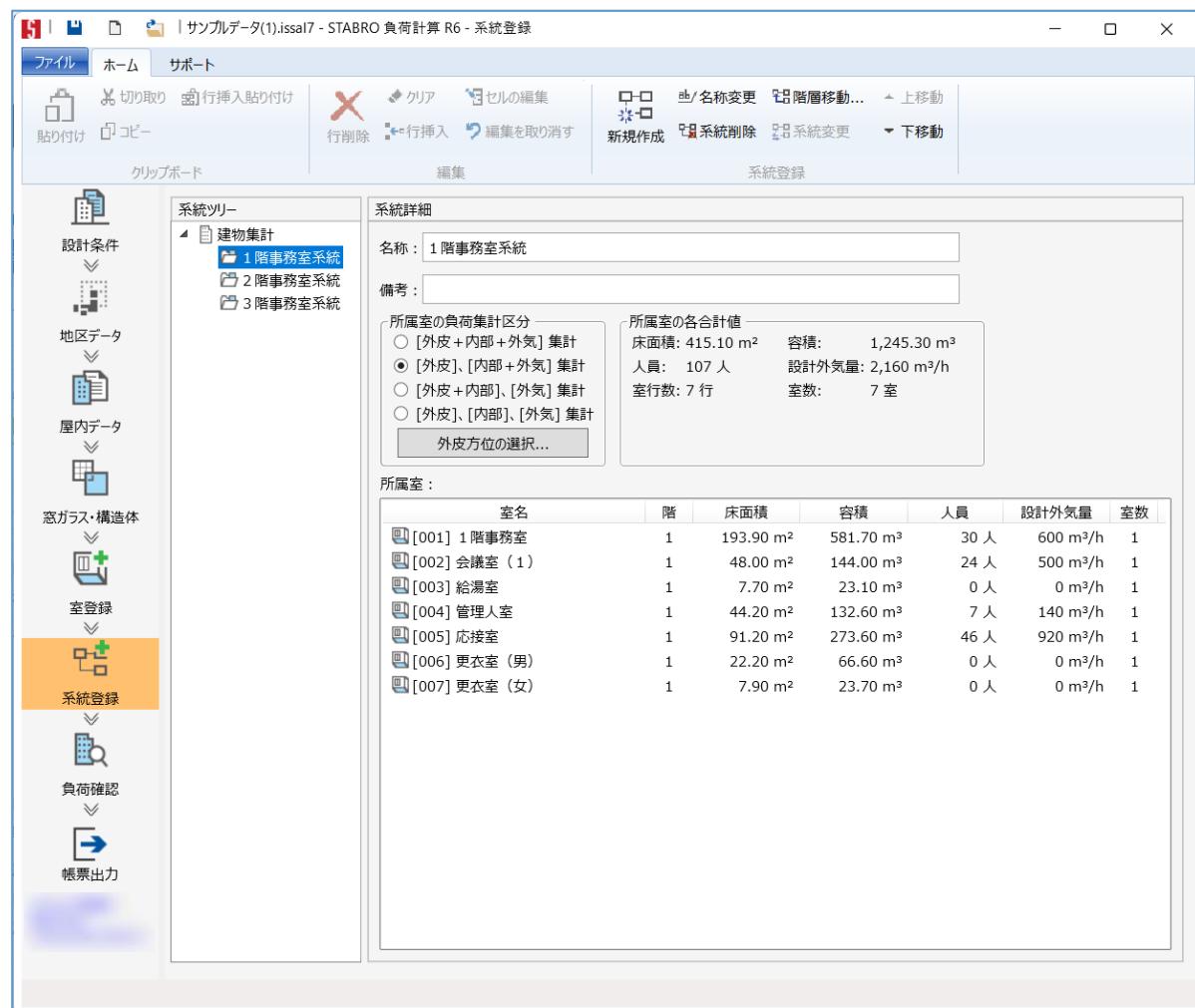
The screenshot shows the Stabro software interface with the 'Room List' tab selected. The top toolbar includes various buttons for file operations, search, and sorting. A red box highlights the '構造体区分・方位順' (Structural Body Category and Orientation Order) button. The main window displays a table of rooms with columns for floor, room number, room name, and dimensions. Below the table is a detailed structural body list table with columns for category, code, width, height, area, differential area, total area, and orientation.

[構造体]の並べ替えができます。
「登録順」、「構造体区分・方位順」ボタンで切り替えることができます。

項目	説明
	[構造体]の内容を登録順の昇順に並べ替えます。 この順番がデフォルト設定となります。
	[構造体]の内容を構造体区分・方位順の昇順に並べ替えます。 構造体区分・方位順でソート中に行の挿入は行えません。 優先順位①：構造体区分（窓ガラス→外壁→屋根→ピロティ床→内壁→天井・床→地中壁→土間床の順番） 優先順位②：方位（北から時計回り） 優先順位③：構造体記号名の昇順

[系統登録]作業ページ

[系統ツリー]、[系統詳細]



室負荷を集計する系統の登録を行います。



項目	説明
新規作成	[系統ツリー]で選択した系統の配下に系統を新規作成します。ただし、最上階層の系統を含めて3階層までです。 ([系統ツリー]にフォーカスが存在する場合、有効)
名称変更	選択した系統の名称を編集状態にします。 ([系統ツリー]にフォーカスが存在する場合、有効)
系統削除	選択した系統を削除します。 ([系統ツリー]の最上位系統以外にフォーカスが存在する場合、有効)

項目	説明
階層移動	[系統の階層移動] ウィンドウを表示し選択します。選択している系統を異なる親系統に移動することができます。 ([系統ツリー]の最上位系統以外にフォーカスが存在する場合、有効)
系統変更	[室の系統変更] ウィンドウを表示し選択します。選択している室の系統を変更することができます。 (選択している系統の配下に系統が存在しないかつ、[所属室]にフォーカスが存在する場合、有効)
上移動	選択した系統を同階層内で 1 つ上に移動します。 ([系統ツリー]にフォーカスが存在し、選択している系統が同階層で先頭(最上)以外の場合、有効)
下移動	選択した系統を同階層内で 1 つ下に移動します。 ([系統ツリー]にフォーカスが存在し、選択している系統が同階層で最後尾(最下)以外の場合、有効)

[系統ツリー]

画面左側の系統ツリーです。系統の新規作成、階層の移動、上下の移動、削除などの編集が行えます。文字編集は次の「名称」と同じ結果になります。

[名称]

系統の名称です。自由に編集できますが、空白や既に使用している名称には変更できません。

全角 127(半角 255)文字まで入力可能です。

[備考]

系統の備考です。データの補足情報など自由に入力してください。

全角 127(半角 255)文字まで入力可能です。

[所属室の負荷集計区分]

系統に所属している室負荷の集計区分を設定します。

"[外皮 + 内部 + 外気] 集計"、"[外皮]"、"[内部 + 外気] 集計"、"[外皮 + 内部]"、"[外気] 集計"、"[外皮]"、"[内部]"、"[外気] 集計"の 4 つから選択します。

"[外皮 + 内部 + 外気] 集計"は、外皮負荷、内部負荷、外気負荷を別にしないでまとめて集計します。

"[外皮]"、"[内部 + 外気] 集計"は、外皮負荷と内部負荷 + 外気負荷をそれぞれ別に集計します。

"[外皮 + 内部]"、"[外気] 集計"は、外皮負荷 + 内部負荷と外気負荷をそれぞれ別に集計します。

"[外皮]"、"[内部]"、"[外気] 集計"は、外皮負荷、内部負荷、外気負荷をそれぞれ別に集計します。

[系統ツリー]で選択している系統の配下に系統が存在しない場合、選択可能となります。

[外皮方位の選択...]

[外皮方位の選択] ウィンドウを表示し選択します。別集計する外皮方位を選択できます。

[系統ツリー]で選択している系統の配下に系統が存在しないかつ、「所属室の負荷集計区分」で "[外皮]"、"[内部 + 外気]" 集計"か "[外皮]"、"[内部]"、"[外気]" 集計"を選択した場合、押下可能となります。

[所属室の各合計値]

系統に所属している室の各種合計値です。

[所属室]

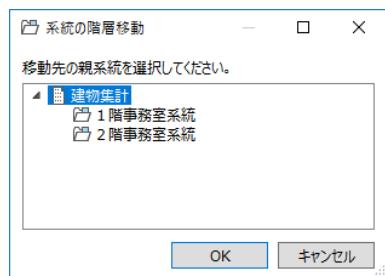
系統に所属している室のリストです。

[室登録]作業ページ-[ソート機能]-[室並び替え]順に表示します。

選択した室を画面左側の[系統ツリー]にマウスでドラッグ & ドロップすることにより系統を移動することができます。

[系統の階層移動]ウィンドウ

リボンメニューの[階層移動...]をクリックして開きます。



系統の親系統を移動します。

[OK]

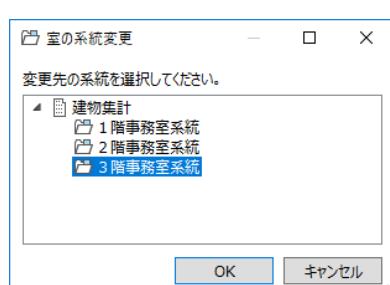
選択した系統を確定し、ウィンドウを閉じます。

[キャンセル]

何もせずにウィンドウを閉じます。

[室の系統変更]ウィンドウ

リボンメニューの[階層移動...]をクリックして開きます。



室が所属する系統を変更します。

[OK]

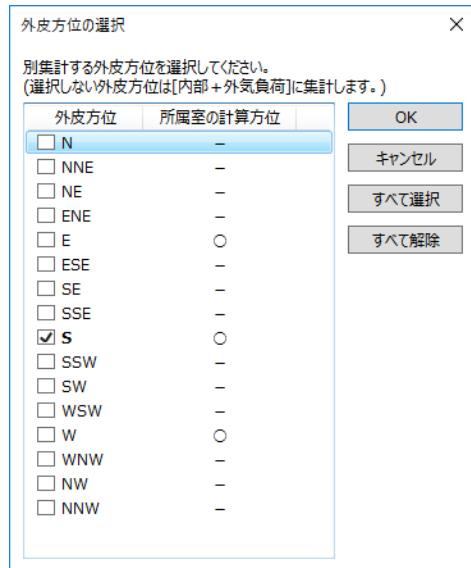
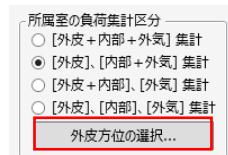
選択した系統を確定し、ウィンドウを閉じます。

[キャンセル]

何もせずにウインドウを閉じます。

[外皮方位の選択]ウインドウ

[外皮方位の選択...]をクリックして開きます。



別集計する外皮方位を選択します。

選択しない外皮方位は「内部+外気負荷」または「内部」に集計します。

※「所属室の計算方位」は、所属しているすべての室の窓ガラスと構造体の入力方位を検索し、計算対象となる方位は「○」、計算対象にならない方位は「-」を表示しています。

[OK]

外皮方位の選択状況を確定し、ウインドウを閉じます。

[キャンセル]

何もせずにウインドウを閉じます。

[すべて選択]

表示しているすべての外皮方位を選択します。

「外皮方位」が全てチェック ON 以外の場合、押下可能となります。

[すべて解除]

表示しているすべての外皮方位の選択を解除します。

「外皮方位」が全てチェック OFF 以外の場合、押下可能となります。

[負荷確認]作業ページ

[最大負荷一覧表]、[負荷詳細表]

名称	階	夏期								冬期																	
		外皮+内部 +外気	外皮			内部+外気			外皮+内部	内部			外気	外皮+内部 +外気			内部+外気			外皮+内部	内部			外気			
N	E	S	W																								
建物集計		251,036						10,711				46,182												16			
1階事務室系統		55,732							6,589				16,903												7		
[001] 1階事務室	1								1,596				6,643												1		
[002] 会議室 (1)	1												865													1	
[003] 給湯室	1												5,656													1	
[004] 管理人室	1								787				1,739												1		
[005] 応接室	1												16,225													1	

負荷項目	方位	記号	夏期								冬期							
			潜熱負荷 LH			顯熱負荷 SH			全熱負荷 TH			潜熱負荷 LH			顯熱負荷 SH			全熱負荷 TH
9時 [W]	12時 [W]	14時 [W]	16時 [W]	9時 [W]	12時 [W]	14時 [W]	16時 [W]	9時 [W]	12時 [W]	14時 [W]	16時 [W]	9時 [W]	12時 [W]	14時 [W]	16時 [W]	LH [W]	SH [W]	TH [W]
室内負荷			28,831	28,847	28,869	28,827	148,472	165,100	166,583	160,985	177,303	193,947	195,452	189,812	117	69,459	69,576	
単位負荷(室内) [W/m ²]											120	131	132	129			47	
外気負荷			39,986	40,544	42,026	39,863	9,421	13,111	13,558	11,860	49,407	53,655	55,584	51,723				49,083
負荷合計			68,817	69,391	70,895	68,690	157,893	178,211	180,141	172,845	226,710	247,602	251,036	241,535				118,659
単位負荷(合計) [W/m ²]											154	168	170	164				80

負荷計算の結果を確認する作業ページです。

画面上側は最大負荷一覧表、画面下側は最大負荷一覧表の選択セルに対する負荷詳細表を表示します。

[負荷項目]

表示する負荷項目の種類を切り替えます。

"負荷合計 [W]"、"単位負荷(室内) [W/m²]"、"単位負荷(合計) [W/m²]"の3つから選択します。

[期間]

最大負荷一覧表の表示する期間を切り替えます。

"夏期"、"冬期"の2つから選択します。

[最大負荷一覧表] (画面上側)

項目	説明
名称	系統名や室名を表示します。系統はツリー表示となり、[▶]記号をクリックすると展開し、[◀]記号をクリックすると縮小します。 室名は、[室登録]作業ページ -[ソート機能]-[室並び替え]順に表示します。
階	室の階を表示します。系統の場合は空白になります。
外皮 + 内部 + 外気	「負荷項目」で選択した項目の外皮負荷 + 内部負荷 + 外気負荷の値を表示します。各系統の場合は必ず表示しますが、各室の場合は[系統登録]作業ページの[系統ツリー]、[系統詳細] - [所属室の負荷集計区分]を"外皮 + 内部 + 外気"集計とした場合に表示します。
外皮 (各方位)	「負荷項目」で選択した項目の外皮負荷の方位別の値です。[系統登録]作業ページの[系統ツリー]、[系統詳細] - [所属室の負荷集計区分]を"外皮"、[内部 + 外気]集計または"外皮"、[内部]、[外気]集計とした場合に表示します。

項目	説明
内部+外気	「負荷項目」で選択した項目の内部負荷+外気負荷の値です。[系統登録]作業ページの[系統ツリー]、[系統詳細] - 「所属室の負荷集計区分」を "[外皮]"、"[内部+外気]" 集計"とした場合に表示します。
外皮+内部	「負荷項目」で選択した項目の外皮負荷+内部負荷の値です。[系統登録]作業ページの[系統ツリー]、[系統詳細] - 「所属室の負荷集計区分」を "[外皮+内部]"、"[外気]" 集計"とした場合に表示します。
内部	「負荷項目」で選択した項目の内部負荷の値です。[系統登録]作業ページの[系統ツリー]、[系統詳細] - 「所属室の負荷集計区分」を "[外皮]"、"[内部]"、"[外気]" 集計"とした場合に表示します。
外気	「負荷項目」で選択した項目の外気負荷の値です。[系統登録]作業ページの[系統ツリー]、[系統詳細] - 「所属室の負荷集計区分」を "[外皮+内部]"、"[外気]" 集計"または "[外皮]"、"[内部]"、"[外気]" 集計"とした場合に表示します。
室数	室の「室数」を表示します。系統の場合、所属室の室数を合計した値になります。

[負荷詳細表] (画面下側)

「最大負荷一覧表」で選択したセルに対する詳細な負荷を表示します。

「最大負荷一覧表」選択セルの列が「名称」、「階」、「室数」にある場合、集計リストを表示します。

選択セルが上記以外の場合、帳票の「熱負荷計算書」と同じような形式で表示します。

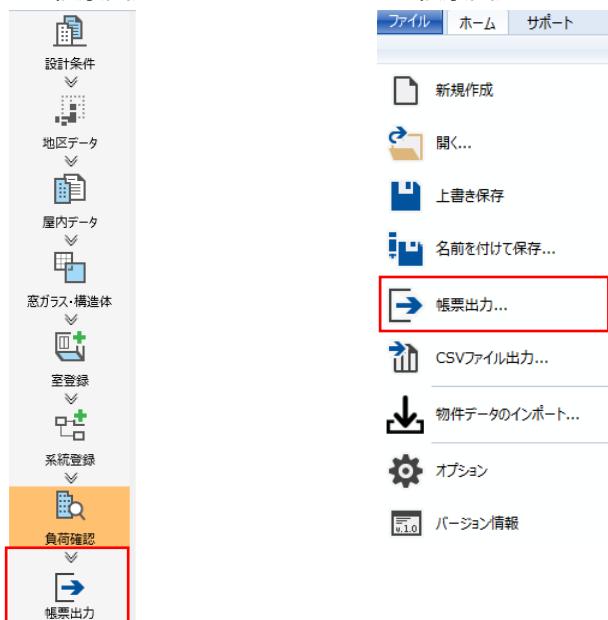
構造体負荷の詳細は、[室登録]作業ページ - [ソート機能]-[室構造体並び替え]順に表示します。

帳票出力

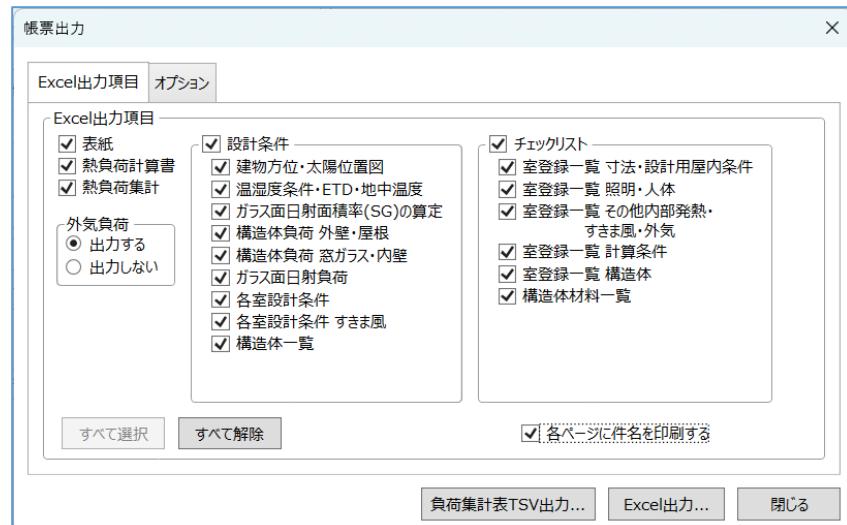
ナビゲーションボタン-[帳票出力]または[ファイル(F)]-[帳票出力(P)...]メニューから[帳票出力]ウィンドウを表示します。

ナビゲーションボタン または [ファイル]メニュー

- 帳票出力



[帳票出力]ウィンドウ



各種帳票の出力を行います。

[Excel 出力項目]タブの「Excel 出力項目」の内、いずれかチェック ON の場合、[Excel 出力…]ボタンが押下可能となります。

印刷する場合は、[Excel 出力…]ののち、Excel の機能にてご対応ください。

[Excel 出力項目]タブ

出力する帳票を選択します。([Excel 出力項目]タブ参照)

[オプション]タブ

出力する帳票に関する設定を行います。([オプション]タブ参照)

[負荷集計表 TSV 出力...]

[熱負荷集計表 TSV ファイルの保存]ダイアログを表示します。

熱負荷集計表の出力項目をタブ区切りテキスト（TSV）で出力します。

計算結果を汎用的にご活用いただくための機能です。

並び順は熱負荷集計表に準拠しています。[オプション]タブの系統範囲設定も有効です。

[室登録]作業ページ -[ソート機能]-[室並び替え]順に出力します。

- 弊社「SeACD2」への負荷計算結果は、STABRO 負荷計算ファイルを読み込むことで連携されます。
別途本機能から TSV ファイルを出し、インポートする作業は不要となりました。

[Excel 出力...]

帳票を Excel ファイルに出力します。

[Excel ファイルの保存]ダイアログを表示します。

[室登録]作業ページ -[ソート機能]-[室並び替え]順、[室構造体並び替え]順に出力します。

[閉じる]

ウィンドウを閉じます。

[熱負荷集計表 TSV ファイルの保存]ダイアログ

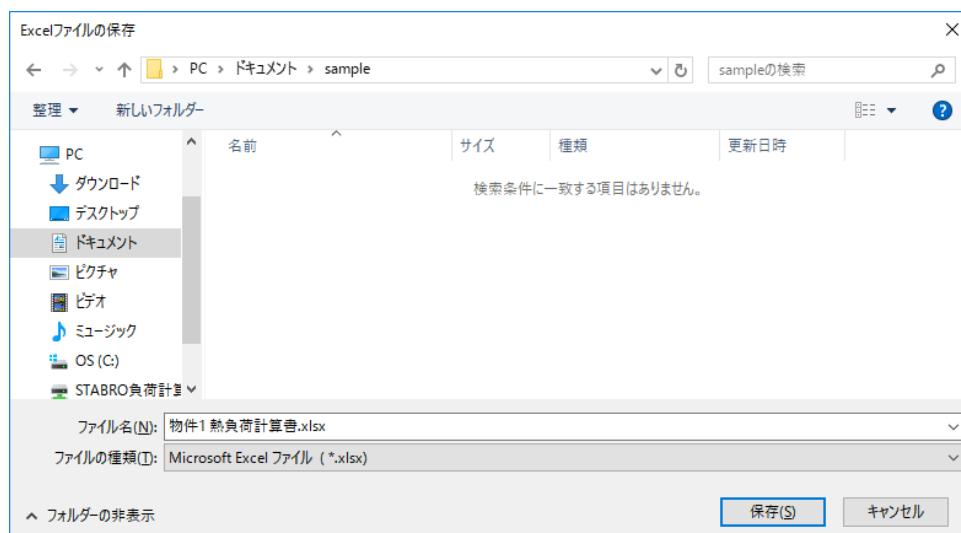


必要に応じてファイル名を変更し、[保存(S)]ボタンをクリックすると保存できます。

ファイル名に拡張子を指定しない場合や「.tsv」以外を指定した場合、自動的に「.tsv」が拡張子となります。

※最初に表示するフォルダを変更する場合、[オプション]ウィンドウー[全般]タブの[カレントフォルダ]で行います。

[Excel ファイルの保存]ダイアログ

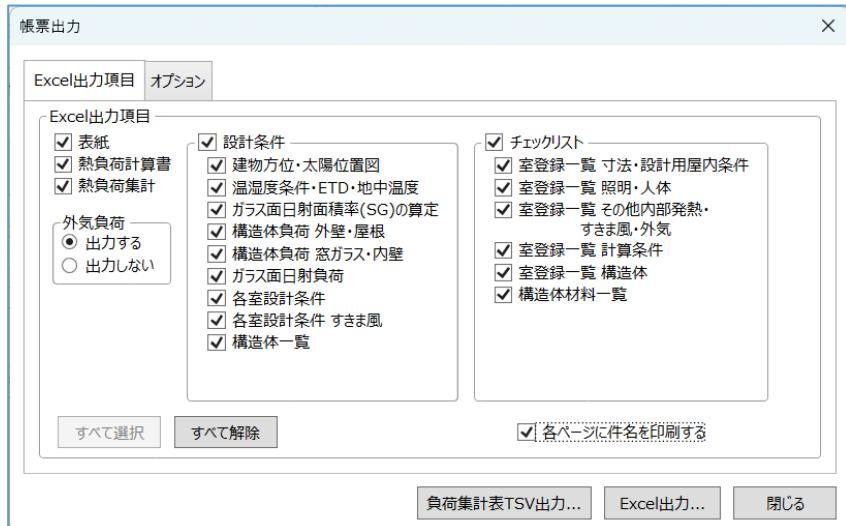


必要に応じてファイル名を変更し、[保存(S)]ボタンをクリックすると保存できます。

ファイル名に拡張子を指定しない場合や「.xlsx」以外を指定した場合、自動的に「.xlsx」が拡張子となります。

※最初に表示するフォルダを変更する場合、[オプション]ウィンドウー[全般]タブの[カレントフォルダ]で行います。

[Excel 出力項目]タブ



出力する帳票を選択します。

[Excel 出力項目]

出力する帳票を選択または非選択します。

[外気負荷]

「出力する」または「出力しない」を選択します。

「出力しない」を選択した場合、熱負荷計算書、熱負荷集計に外気負荷の出力をいません。

[設計条件]

「設計条件」枠内の帳票すべてを選択または非選択にします。

[チェックリスト]

「チェックリスト」枠内の帳票すべてを選択または非選択にします。

[すべて選択]

「出力項目」のすべての帳票を選択します。

[すべて解除]

「出力項目」のすべての帳票の選択を解除します。

[各ページに件名を印刷する]

チェックした場合、帳票の各ページ右上に件名を出力します。

[オプション]タブ



出力する帳票の範囲や余白等を設定します。

[出力範囲] – [室]

帳票内の出力対象となる室を設定します。

「すべて」は、すべての室を出力します。

「選択」は、[室の選択]ウィンドウで出力対象の室を選択できます。

[出力範囲] – [系統]

帳票内の出力対象となる系統を設定します。

「すべて」は、すべての系統を出力します。

「選択」は、[系統の選択]ウィンドウで出力対象の系統を選択できます。

[出力単位]

帳票の「構造体一覧」に出力する構造体の厚さの単位を設定します。

「m」は、単位を m で出力します。

「mm」は、単位を mm で出力します。

[表紙印刷日付]

帳票の「表紙」に出力する日付です。

「システム日付」は、コンピュータに設定されている現在の日付になります。

「直接入力」は、年、月、日を編集できるようになります。

「印刷しない」は、日付を出力しません。

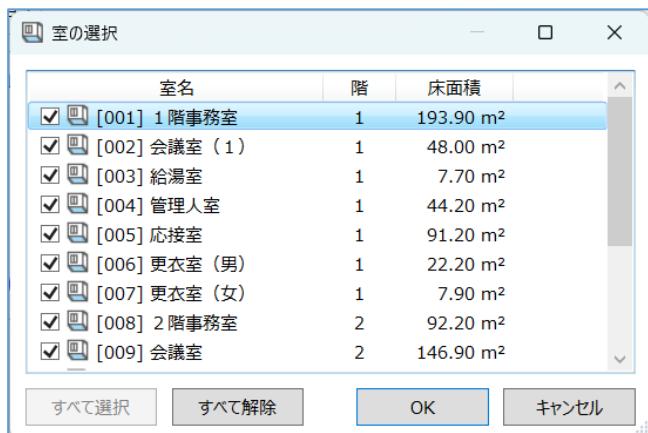
[余白[mm]]

すべての帳票に影響するページ端からの余白です。0~99 の範囲が入力可能です。

項目	初期値	印刷用紙が縦置きの場合	印刷用紙が横置きの場合
上	12mm	ページ上端の余白	ページ右端の余白
下	12mm	ページ下端の余白	ページ左端の余白
左	21mm	ページ左端の余白	ページ上端の余白

項目	初期値	印刷用紙が縦置の場合	印刷用紙が横置きの場合
右	9mm	ページ右端の余白	ページ下端の余白
ヘッダー	13mm	ページ上端からヘッダー文字列までの距離	ページ上端からヘッダー文字列までの距離 を求めるのに使用します。 距離 = 「ヘッダー」 + (「左」 - 「上」)
フッター	12mm	ページ下端からフッター文字列までの距離	ページ下端からフッター文字列までの距離 を求めるのに使用します。 距離 = 「フッター」 + (「右」 - 「下」)

[室の選択] ウィンドウ



出力範囲の室を選択します。

[すべて選択]

表示しているすべての室を選択します。

「室名」が全てチェック ON 以外の場合、押下可能となります。

[すべて解除]

表示しているすべての室の選択を解除します。

「室名」が全てチェック OFF 以外の場合、押下可能となります。

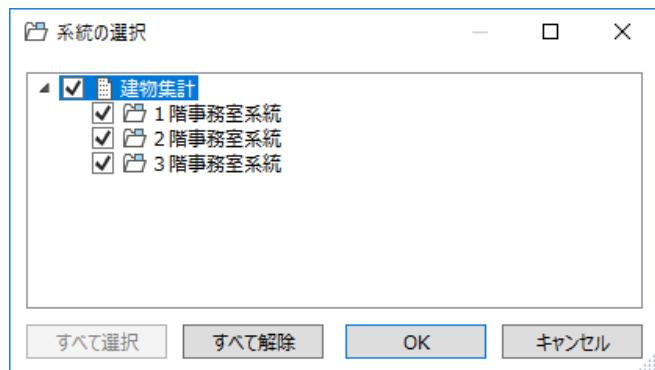
[OK]

選択した室を確定し、ウィンドウを閉じます。

[キャンセル]

何もせずウィンドウを閉じます。

[系統の選択] ウィンドウ



出力範囲の系統を選択します。

[すべて選択]

表示しているすべての系統を選択します。

「系統」が全てチェック ON 以外の場合、押下可能となります。

[すべて解除]

表示しているすべての系統の選択を解除します。

「系統」が全てチェック OFF 以外の場合、押下可能となります。

[OK]

選択した系統を確定し、ウィンドウを閉じます。

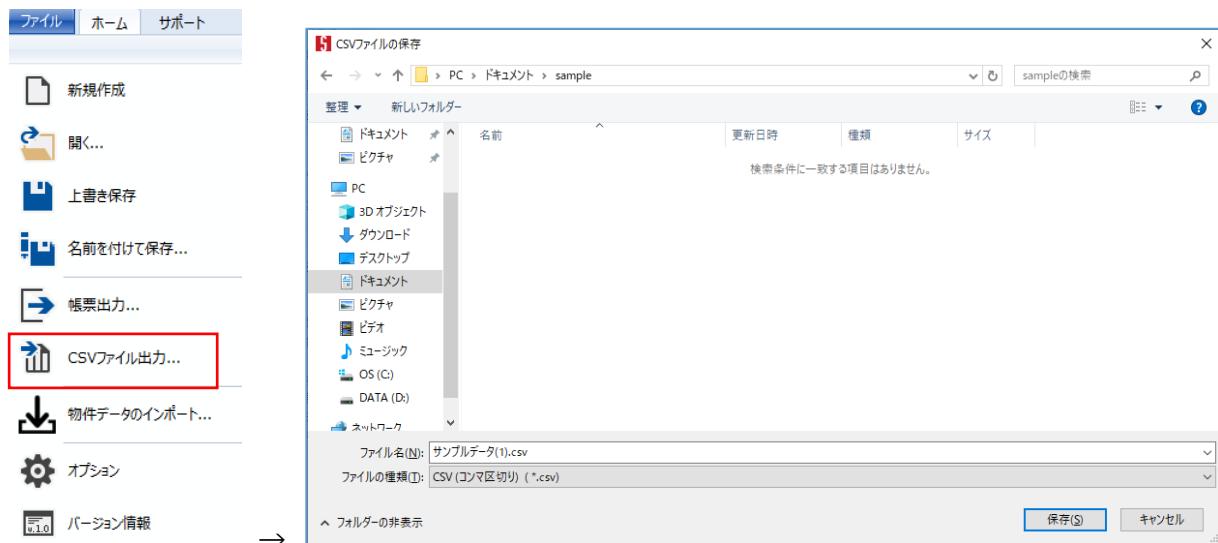
[キャンセル]

何もせずにウィンドウを閉じます。

CSV ファイル出力

[CSV ファイルの保存]ダイアログ

[ファイル(F)]-[CSV ファイル出力...]メニューから[CSV ファイルの保存]ダイアログを表示します。



必要に応じてファイル名を変更し、[保存(S)]ボタンをクリックすると保存できます。

ファイル名に拡張子を指定しない場合や「.csv」以外を指定した場合、自動的に「.csv」が拡張子となります。

※最初に表示するフォルダを変更する場合、[オプション]ウィンドウ-[全般]タブの[カレントフォルダ]で行います。

CSV ファイルの構成、及び詳細

バージョンレコード、物件レコード、系統レコード、項目名レコード、単位レコード、室データレコードの構成で出力します。

また、系統が複数ある場合、2つ目以降の系統は、系統レコードと室データレコードのみ出力します。

バージョンレコード

アプリの情報を出力します。

項目	説明
出力プログラム名	STABRO 負荷計算のアプリ名 "StabroAL" を出力します。
バージョン番号	STABRO 負荷計算のアプリバージョンを出力します。 例 : 7.0.1.0

物件レコード

物件に関する情報を出力します。

項目	説明
建物名称	[建物概要]の[建物名称]を出力します。

項目	説明
所在地	[建物概要]の[所在地]を出力します。
建物用途	[建物概要]の[建物用途]を出力します。
建物構造	[建物概要]の[建物構造]を出力します。 建物構造に複数チェックが入っている場合は「、」で区切って出力します。

系統レコード

系統毎の所属室数を出力します。

項目	説明
系統名称	[系統登録]の[系統名称]を出力します。 尚、下の階層を登録した場合、下層の系統名称と一緒に出力されます。 例：1階事務室系統 系統1
所属室数	[系統登録]の系統の室数を出力します。

項目名レコード

項目の名称を出力します。

出力する項目名については、室データレコードの項目名列を参照してください。

単位レコード

項目の単位を出力します。

出力する項目の単位については、室データレコードの単位列を参照してください。

室データレコード

室に関する情報を出力します。

室数が2以上の室の場合、室数分同じ室データレコードを室数分出力します。

[室登録]作業ページ-[ソート機能]-[室並び替え]順に出力します。

項目名	単位	説明
階		[室登録]の[階]を出力します。
室記号		[室登録]の[室記号]を出力します。 室数が2以上の室の場合、2番目以降の室番号の後ろにハイフン連番を付与して出力します。 例：009-2
室名		[室登録]の[室名]を出力します。
面積	m ²	[室登録]の[床面積]を出力します。
天井高	m	[室登録]の[天井高]を出力します。
室容積	m ³	[室登録]の[室容積]を出力します。
夏期 DB	°C	[室登録]の[室内条件]タブの[設計用屋内条件]の[夏期乾球温度]を出力します。

項目名	単位	説明
夏期 x	kg/kg(DA)	[室登録]の[室内条件]タブの[設計用屋内条件]の[夏期絶対湿度]を出力します。
冬期 DB	°C	[室登録]の[室内条件]タブの[設計用屋内条件]の[冬期乾球温度]を出力します。
冬期 x	kg/kg(DA)	[室登録]の[室内条件]タブの[設計用屋内条件]の[冬期絶対湿度]を出力します。
計算区分		[室登録]の[計算条件]タブの[空調負荷区分]を出力します。 冷暖房負荷⇒1 を出力 冷房負荷のみ⇒2 を出力 暖房負荷のみ⇒3 を出力
人員密度		[室登録]の[室内条件]タブの[人体負荷]の[人体密度]を出力します。
人員	人	[室登録]の[室内条件]タブの[人体負荷]の[人員]を出力します。
単位外気量	m3/(h・人)	[室登録]の[室内条件]タブの[外気負荷]の[人員による外気量]-[一人当たり]を出力します。
空調機外気量	m3/h	[室登録]の[室内条件]タブの[外気負荷]の[人員による外気量]-[室当たり]を出力します。
夏期全熱交換効率	%	[室登録]の[室内条件]タブの[外気負荷]の[全熱交換効率夏期]を出力します。
冬期全熱交換効率	%	[室登録]の[室内条件]タブの[外気負荷]の[全熱交換効率冬期]を出力します。
冬期隙間風	m3/h	[室登録]の[室内条件]タブの[すきま風負荷]の[窓サッシ風量（冬季）]を出力します。
冬期換気扇	m3/h	0を出力します。
全熱交換効率		0を出力します。
空調機外気 0		0を出力します。
換気扇外気条件変更		0を出力します。
冬期換気扇 x	kg/kg(DA)	0を出力します。
9 時	w	内部負荷+4 方位（※ 1）に含まれない外皮負荷を、 冷房顕熱負荷(9 時、12 時、14 時、16 時)(※ 4)、 冷房潜熱負荷(9 時、12 時、14 時、16 時)、 暖房顕熱負荷(※ 4)、暖房潜熱負荷の順に出力します。
12 時	w	
14 時	w	
16 時	w	
9 時	w	・内部負荷 構造体負荷（内壁／天井、床／地中壁／土間床） + 照明負荷 + 人体負荷 + その他負荷 + 窓サッシのすきま風負荷（※ 2）
12 時	w	
14 時	w	
16 時	w	
顕熱	w	・4 方位（※ 1）に含まれない外皮負荷 構造体負荷（窓ガラス／外壁／屋根／ピロティ床） + ガラス面日射負荷 + 窓サッシのすきま風負荷（※ 3）
潜熱	w	

項目名	単位	説明
外皮方位 1		1つ目の方位（※1）の外皮負荷を、 外皮方位、 冷房顕熱負荷(9時、12時、14時、16時)、 冷房潜熱負荷(9時、12時、14時、16時)(※4)、 暖房顕熱負荷(※4)、暖房潜熱負荷の順に出力します。
9時		
12時		
14時		
16時		
9時		・外皮負荷 構造体負荷（窓ガラス／外壁／屋根／ピロティ床）+ ガラス面日射負荷+窓サッシのすきま風負荷（※2）
12時		
14時		
16時		ただし、外皮構造体がない場合、空を出力します。
顕熱		
潜熱		
外皮方位 2		2つ目の方位（※1）の外皮負荷を、 外皮方位、 冷房顕熱負荷(9時、12時、14時、16時)(※4)、 冷房潜熱負荷(9時、12時、14時、16時)、 暖房顕熱負荷(※4)、暖房潜熱負荷の順に出力します。
9時		
12時		
14時		
16時		
9時		・外皮負荷 構造体負荷（窓ガラス／外壁／屋根／ピロティ床）+ ガラス面日射負荷+窓サッシのすきま風負荷（※2）
12時		
14時		
16時		ただし、外皮構造体の方位が2つ未満の場合、空を出力します。
顕熱		
潜熱		
外皮方位 3		3つ目の方位（※1）の外皮負荷を、 外皮方位、 冷房顕熱負荷(9時、12時、14時、16時)(※4)、 冷房潜熱負荷(9時、12時、14時、16時)、 暖房顕熱負荷(※4)、暖房潜熱負荷の順に出力します。
9時		
12時		
14時		
16時		
9時		・外皮負荷 構造体負荷（窓ガラス／外壁／屋根／ピロティ床）+ ガラス面日射負荷+窓サッシのすきま風負荷（※2）
12時		
14時		
16時		ただし、外皮構造体の方位が3つ未満の場合、空を出力します。
顕熱		
潜熱		
外皮方位 4		4つ目の方位（※1）の外皮負荷を、 外皮方位、
9時		

項目名	単位	説明
12 時		冷房顕熱負荷(9 時、12 時、14 時、16 時)(※ 4)、 冷房潜熱負荷(9 時、12 時、14 時、16 時)、 暖房顕熱負荷(※ 4)、暖房潜熱負荷の順に出力します。
14 時		
16 時		
9 時		・外皮負荷 構造体負荷（窓ガラス／外壁／屋根／ピロティ床） + ガラス面日射負荷 + 窓サッシのすきま風負荷（※ 2）
12 時		
14 時		
16 時		ただし、外皮構造体の方位が 4 つ未満の場合、空を出力します。
顕熱		
潜熱		

※ 1. 外皮の 4 方位は以下の通りに決定します。

3 - 1. [系統登録]作業ページの「所属室の負荷集計区分」で、外皮方位として指定された方位が対象です。

3 - 2. 上記 3 - 1 が 4 方位以上ある場合、系統毎の外皮負荷が大きい 4 方位が対象となります。

3 - 3. 上記 3 - 2 で系統毎の外皮負荷の値が同じ方位の場合、N 方位から時計回りに優先となります。

上記で決まる 4 方位以外は、内部負荷として出力します。

※ 2. 窓サッシのすきま風負荷の内部負荷、外皮負荷の内訳は次の通りです。

夏期顕熱負荷（SH）は、外皮負荷として出力します。

夏期潜熱負荷（LH）は、外皮負荷として出力します。

冬期顕熱負荷（SH）は、外皮負荷として出力します。

冬期潜熱負荷（LH）は、内部負荷として出力します。

※ 3. 4 方位に含まれない方位の窓サッシのすきま風負荷は、

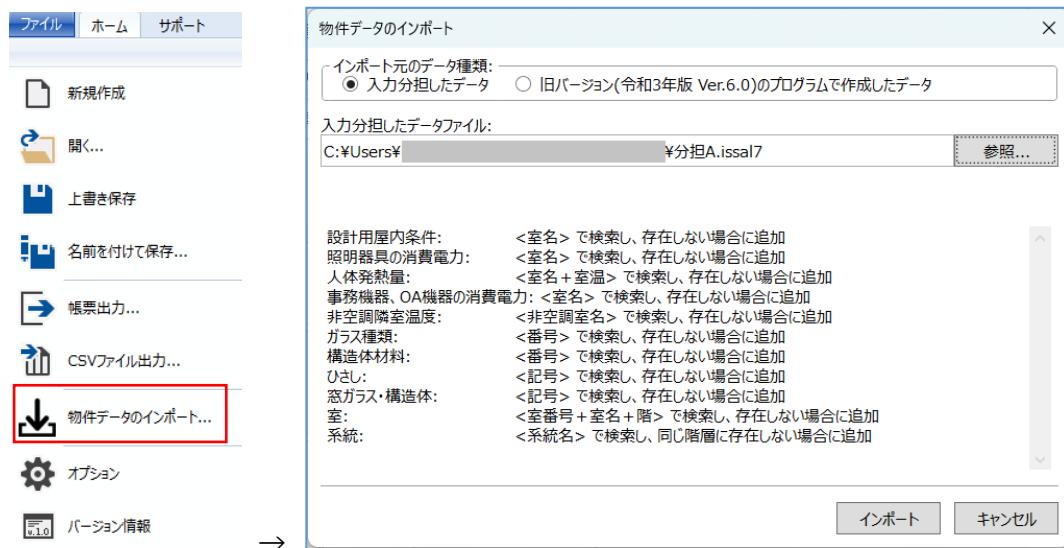
夏期／冬期の顕熱／潜熱いずれも内部負荷として出力します。

※ 4. 冷房及び暖房の顕熱負荷（SH）は、計算し集計した値に補正係数を乗じた値を出力します。

物件データのインポート

[物件データのインポート] ウィンドウ

[ファイル(F)]-[物件データのインポート(I)...]から[物件データのインポート]ウィンドウを表示します。



物件データのインポートでは、他の物件データをプログラムに取り込むことができます。

[インポート元のデータ種類]

インポート元のデータ種類を選択します。

- "入力分担したデータ"

同じプログラムを使用し、複数の人が分担して作成したデータを現在開いている物件データに追加することができます。

- "旧バージョン(令和3年版 Ver.6.0)のプログラムで作成したデータ"

旧バージョン（令和3年版）のプログラムで作成したデータを新規物件データとして取り込みます。

ただし、旧バージョンのプログラム仕様と一致していない部分については、最新のプログラム仕様に置き換わりますので、計算結果は一致しないことがあります。

[インポート元のデータタイトル]

インポート元のデータ種類を表示します。

[インポート元のデータ]

インポート元のデータファイルのパスを表示します。

[参照...]

ファイル選択ダイアログを表示し、インポート元ファイルを選択します。

[インポートメモ]

インポートに関するメモ情報を表示します。

[インポート]

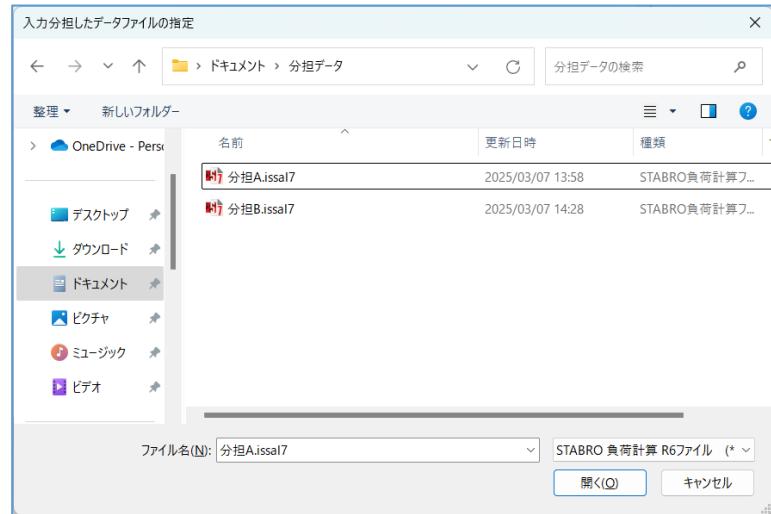
入力した内容でインポートを実行します。

[キャンセル]

何もせずにウインドウを閉じます。

入力分担したデータのインポート

[入力分担したデータファイルの指定]ダイアログが表示されます。



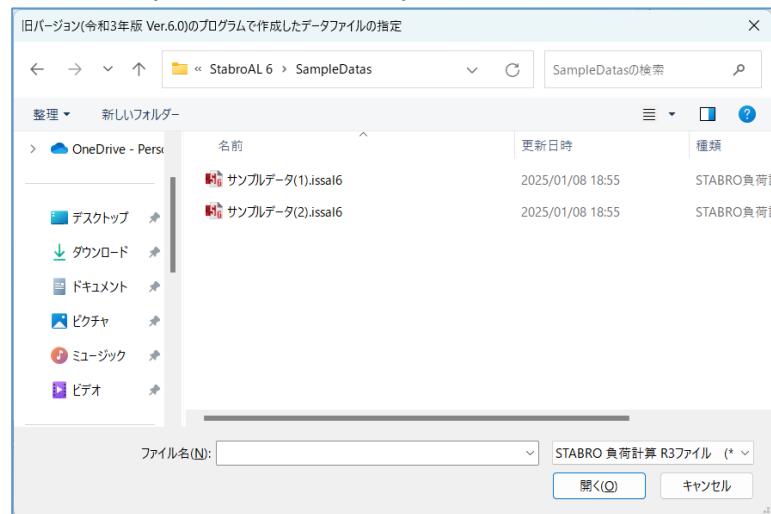
ファイルの種類の初期値は「STABRO 負荷計算 R6 ファイル (*.issal7)」です。拡張子が「.issal7」のファイルを表示します。フォルダの初期値は"ドキュメント"です。

開きたいファイルを指定して[開く(O)]ボタンをクリックしてください。

- 最初に表示するフォルダを変更する場合、[オプション]ウインドウ-[全般]タブの[カレントフォルダ]で行います。

旧バージョン(令和3年版 Ver.6.0)のプログラムで作成したデータのインポート

[旧バージョン(令和3年版 Ver.6.0)のプログラムで作成したデータファイルの指定]ダイアログが表示されます。



ファイルの種類の初期値は「STABRO 負荷計算 R3 ファイル (*.issal6)」です。拡張子が「.issal6」のファイルを表示します。フォルダの初期値は"ドキュメント"です。

開きたいファイルを指定して[開く(O)]ボタンをクリックしてください。

- 最初に表示するフォルダを変更する場合、[オプション]ウィンドウ-[全般]タブの[カレントフォルダ]で行います。

※注意事項※

- 令和3年版より前のバージョンで作成したデータのインポートはサポートしておりません。

- インポート時に以下のデータは令和6年版のデータに更新されます。

- 設計用屋外条件
- ガラス面標準日射熱取得 IG
- 太陽高度、太陽方位
- 見掛けの太陽高度と方位角
- 実行温度差 ETD
- 暖房設計用地中温度
- 窓ガラス・構造体（ガラス番号、壁タイプ）

インポート後の変更点詳細

画面	項目名	説明										
地区 データ	設計用屋外条件	気象データが令和 6 年版に更新されます。										
	ガラス面標準日射熱取得 IG	気象データが令和 6 年版に更新されます。 6 地区から 10 地区に増えます。										
	太陽高度、太陽方位	気象データが令和 6 年版に更新されます。 6 地区から 10 地区に増えます。										
	見掛けの太陽高度と方 位角	気象データが令和 6 年版に更新されます。 6 地区から 10 地区に増えます。										
	実行温度差 ETD	気象データが令和 6 年版に更新されます。 6 地区から 10 地区に増えます。										
	暖房設計用地中温度	気象データが令和 6 年版に更新されます。 23 地区から 80 地区に増えます。										
窓 ガラス・ 構造体	窓ガラス（令和 6 年版 準拠）	ガラス番号、各数値が令和 6 年版に更新されます。										
		ガラス種類	Ver	ガラス番号	遮へい係数 SC、 熱通過率 K							
		透明ガラス 3mm	R3	1	令和 6 年版に 更新されます							
			R6	16								
		透明ガラス 8mm + 透明ガラス 8mm	R3	19	令和 6 年版に 更新されます							
			R6	1								
	窓ガラス（省エネ基準 H28）	その他 建築設備 設計基準のガラス	R3	1,19 以外	令和 3 年版の値を そのまま引き継ぎます							
			R6	0(直接入力)								
	ガラス番号(末尾)、建具名が以下の通りに変更されます。											
	<table border="1"> <tr> <td>令和 3 年版</td> <td>令和 6 年版</td> </tr> <tr> <td>_PL : 樹脂</td> <td>_WP : 木製・樹脂製</td> </tr> <tr> <td>_AP : アルミ樹脂複合</td> <td>_MP : 金属木複合製・金属樹脂複合製</td> </tr> <tr> <td>_AL : アルミ</td> <td>_ME : 金属製</td> </tr> </table>					令和 3 年版	令和 6 年版	_PL : 樹脂	_WP : 木製・樹脂製	_AP : アルミ樹脂複合	_MP : 金属木複合製・金属樹脂複合製	_AL : アルミ
令和 3 年版	令和 6 年版											
_PL : 樹脂	_WP : 木製・樹脂製											
_AP : アルミ樹脂複合	_MP : 金属木複合製・金属樹脂複合製											
_AL : アルミ	_ME : 金属製											
ガラス種類名が以下の通りに変更されます。 $\text{Low}\varepsilon \rightarrow \text{Low-E}$												
外壁、屋根、ピロティ床	壁タイプ I が設定されている場合は、壁タイプ II に置き換えられます。											

旧バージョンインポート時の注意点

・建物構造

令和 3 年版にて入力した建物構造は、令和 6 年版では「その他」にチェックかつ元の入力内容がテキストボックスに表示されます。（建物構造のチェックボックスと同じ名称が令和 3 年版で入力されている場合であっても、「その他」欄に表示されます。）

※本プログラムで非対応の「木造」についてもチェックボックスが用意されておりますが、弊社空調・換気機器選定プログラム SeACD、設備 BIM クラウドサービス B-LOOP との整合性を保つうえでの仕様です。建築設備設計基準における木造建築物の計算方法を適用するものではないこと、あらかじめご了承ください。

・参照組合せ地区

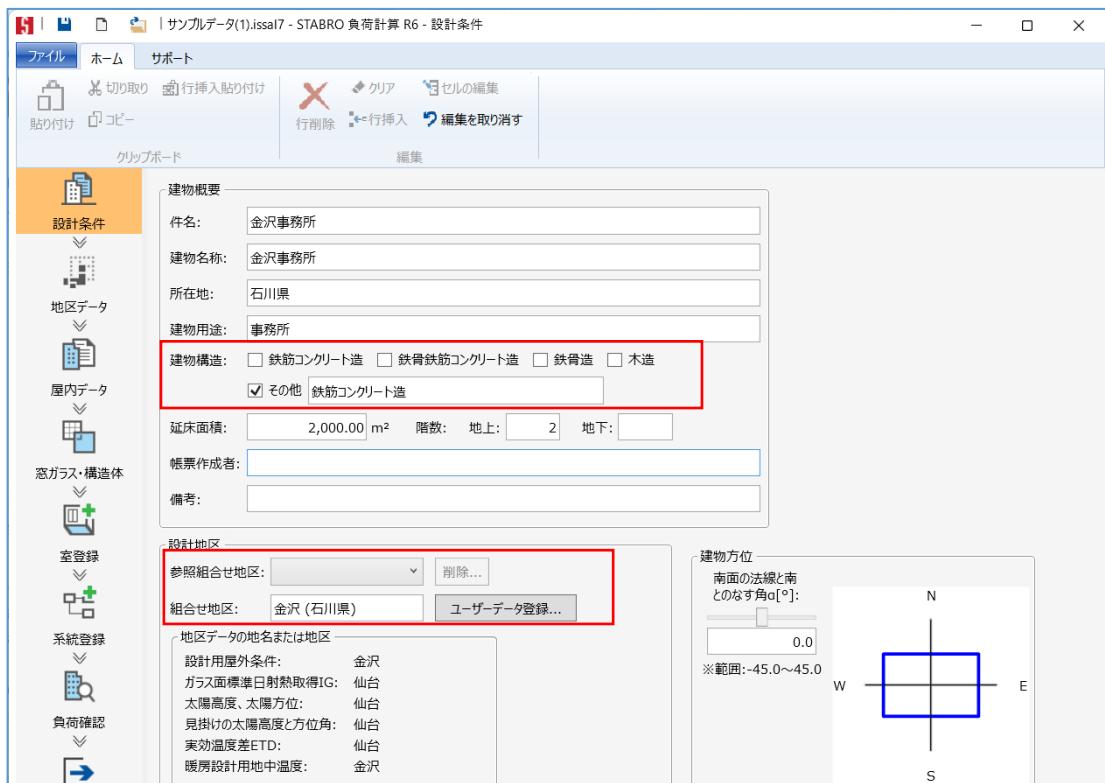
地区データの追加に伴い、組合せ地区を見直しました。令和 3 年版で作成したデータをインポートした際、令和 6 年版で組合せが変わっている場合、参照組合せ地区が空欄に、組合せ地区が編集状態になります。（参照組合せ地区を選択後、手動で地区データを変更した場合と同様）

これについて、

A) 令和 3 年版の組合せのまま令和 6 年版データを保存する場合は、そのまま保存してください。

※令和 6 年版の他の案件でも同じ組合せを使用する場合は、次ページの「ユーザーデータの移行方法」を参照

B) 令和 6 年版の組合せに変更する場合は、参照組合せ地区を選択し直してください。

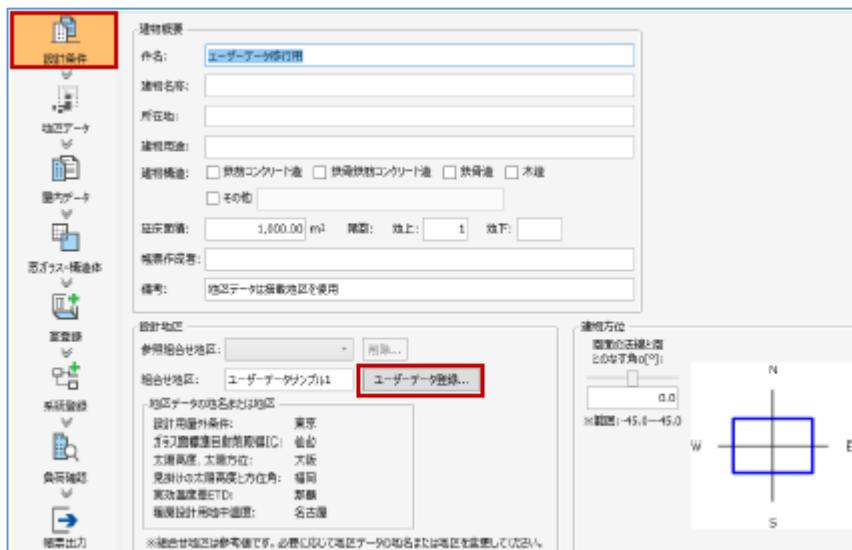


ユーザーデータの移行方法

令和 3 年版以前で作成したユーザーデータを令和 6 年版で使用する場合は、『STABRO 負荷計算 令和 6 年版 利用開始方法と変更・追加点』の「ユーザーデータの移行方法」の手順に従って再登録してください。

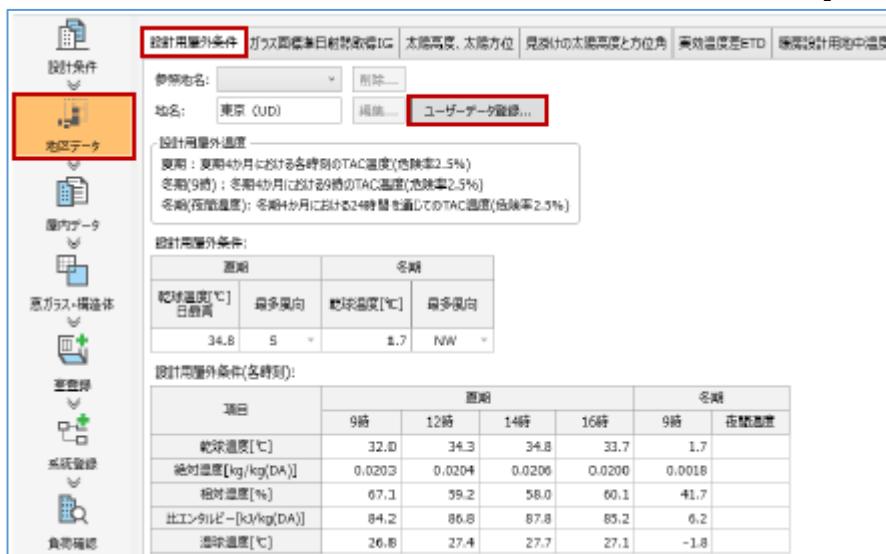
・[設計条件]-[参照組合せ地区]

参照組合せ地区ユーザーデータを使用した令和3年版データをインポート後、設計条件で[ユーザーデータ登録...]をクリック



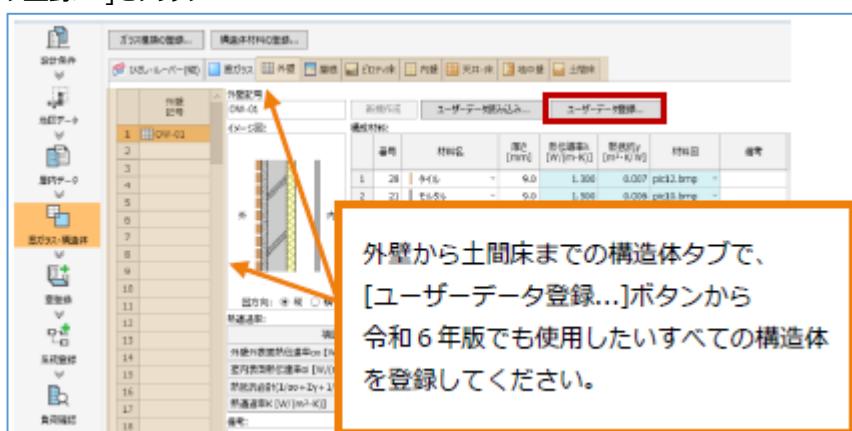
・[地区データ]-[(対象のタブ)]

地区ユーザーデータを使用した令和3年版データをインポート後、対象のタブで[ユーザーデータ登録...]をクリック



・[窓ガラス・構造体]-[(対象のタブ)]

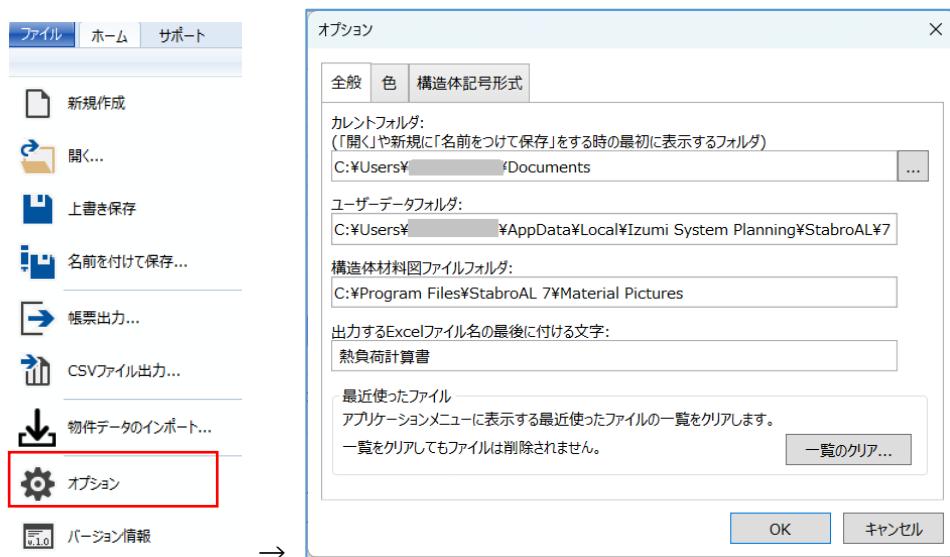
外壁～土間床までのタブでユーザーデータを使用した令和3年版データをインポート後、対象のタブで[ユーザーデータ登録...]をクリック



その他の画面

[オプション]ウィンドウ

[ファイル(F)]-[オプション(T)]から[オプション]ウィンドウを表示します。



プログラム全般で使用する初期値の設定を行います。

[全般]タブ

フォルダ等を設定します。([全般]タブ参照)

[色]タブ

各画面で表示する色を設定します。([色]タブ参照)

[構造体記号形式]タブ

[窓ガラス・構造体]作業ページで登録する窓ガラスや構造体の記号形式を設定します。([構造体記号形式]タブ参照)

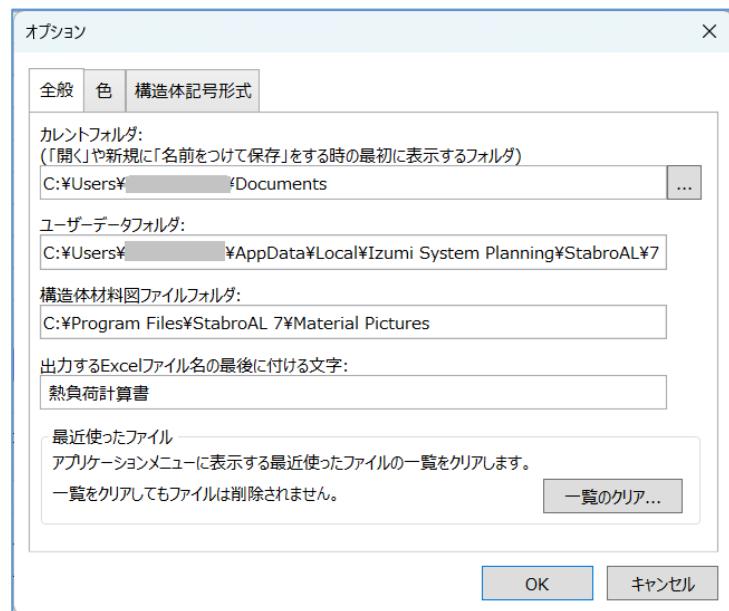
[OK]

設定した内容を確定し、ウィンドウを閉じます。

[キャンセル]

何もせずにウィンドウを閉じます。

[全般]タブ



フォルダ等を設定します。

[カレントフォルダ]

[ファイル(F)]リボンタブの「開く(O)...」や新規に「名前をつけて保存(A)...」をする際の最初に表示するフォルダを設定します。

全角 127(半角 255)文字まで入力可能です。

[カレントフォルダ]-[...]

フォルダを参照する[フォルダの参照]ウィンドウを表示します。

[ユーザーデータフォルダ]

ユーザーデータファイルがあるフォルダです。

ファイルをコピーする場合などに参照してください。

[構造体材料図ファイルフォルダ]

構造体の材料の画像ファイルがあるフォルダです。

独自の画像ファイルを追加する場合、このフォルダに作成します。

[出力する Excel ファイル名の最後に付ける文字]

帳票を Excel ファイルに出力する時のファイル名の最後に付ける文字列を設定します。

初期値は" 熱負荷計算書"です。

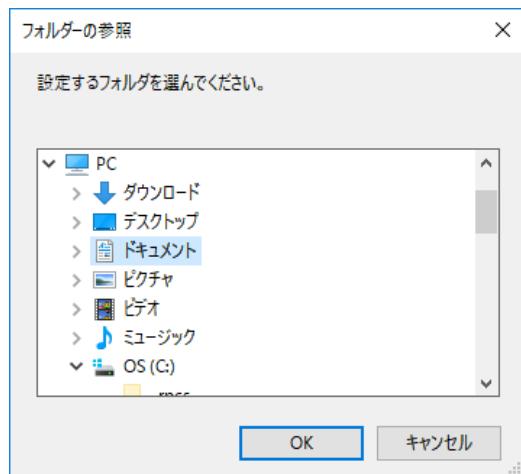
(例) 物件データ名が"物件 1.issal7"の場合、"物件 1 熱負荷計算書.xlsx"となります。

[最近使ったファイル]-[一覧のクリア...]

[ファイル(F)]リボンタブに表示される最近使ったファイルの一覧をクリアします。

一覧をクリアしてもファイルは削除されません。

[フォルダの参照]ウィンドウ



ツリー表示したフォルダの中から選択することができます。

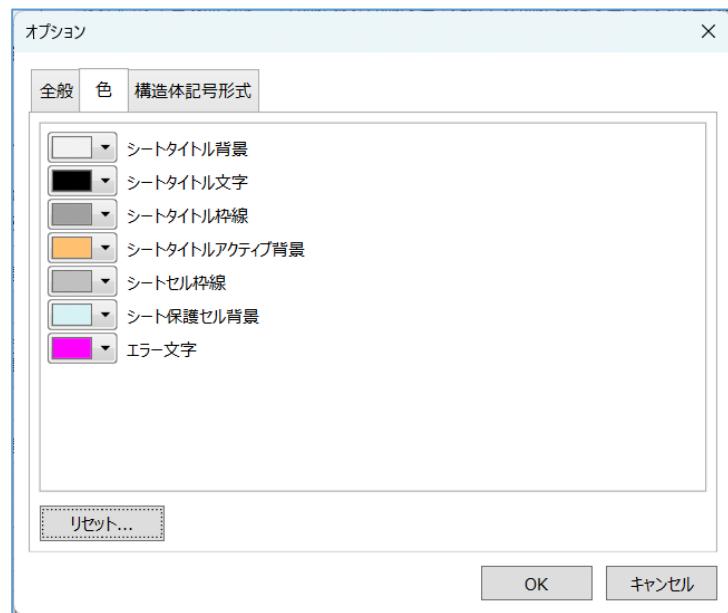
[OK]

選択したフォルダを確定し、ウィンドウを閉じます。

[キャンセル]

何もせずにウィンドウを閉じます。

[色]タブ



各画面で表示する色を設定します。

[表示色]

色の項目です。項目の色をクリックまたは[Enter]キー押下で[色の選択]ダイアログを表示します。

[リセット...]

すべての色を初期値に戻します。

[色の選択]ダイアログ



各種色の設定を行います。

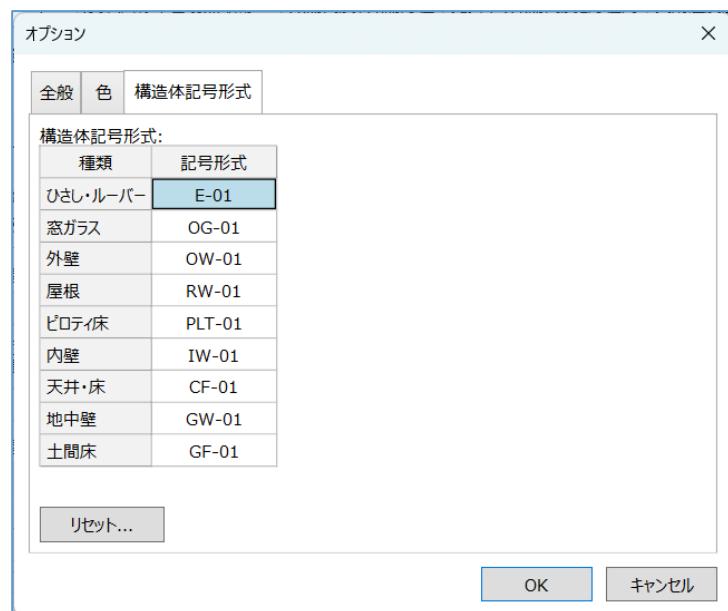
[OK]

選択した色を確定し、ダイアログを閉じます。

[Esc]キー押下またはダイアログ外をクリック

何もせずにダイアログを閉じます。

[構造体記号形式]タブ



[構造体記号形式]

[窓ガラス・構造体]作業ページで登録する窓ガラスや構造体の記号形式を設定します。

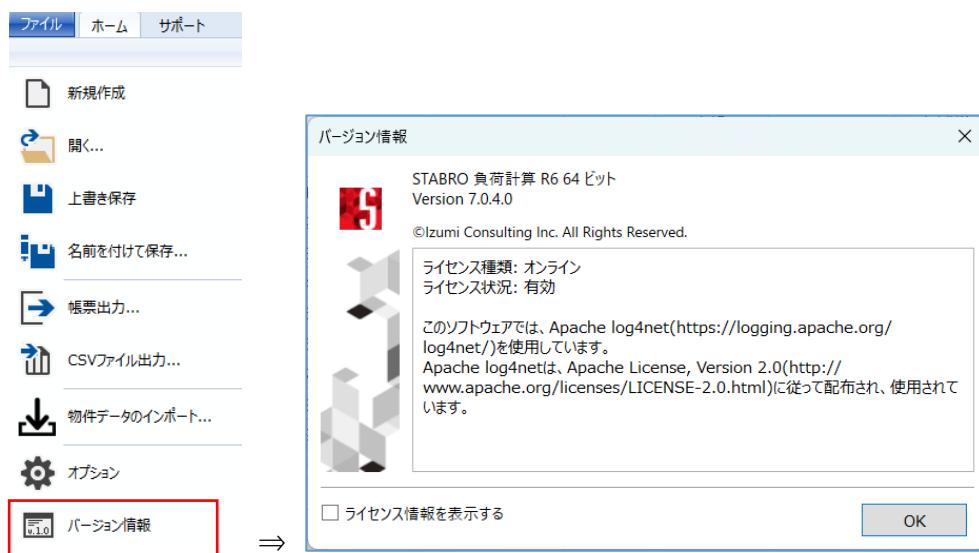
設定した記号形式は、自動で作成する最初の記号となり、以降、数字部分がカウントアップします。

[リセット...]

すべての構造体記号形式を初期値に戻します。

[バージョン情報]ウィンドウ

[ファイル(F)]-[バージョン情報]から[バージョン情報]ウィンドウを表示します。



バージョン番号、ライセンス情報の確認ができます。

[Version]

プログラムの Version バージョン番号です。

プログラムのサポートを受ける場合、この番号の確認が必要になることがあります。

[ライセンス情報]

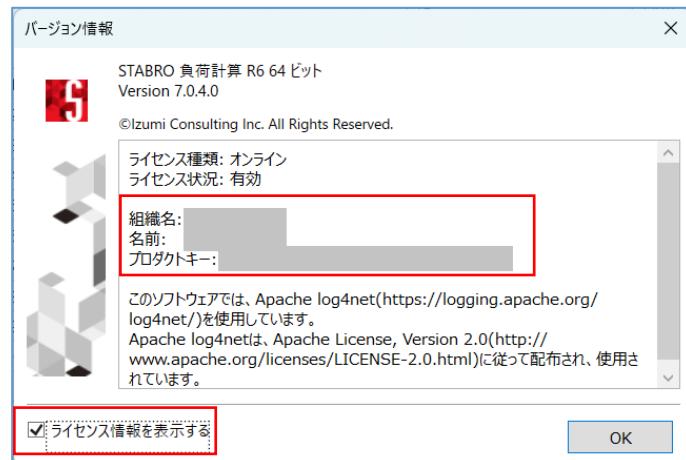
ライセンスの状態を表す情報です。

「ライセンス種別」は通常はオンラインライセンスとなります。

「ライセンス状況」は、ライセンスが有効かどうかの状況です。

[ライセンス情報を表示する]

チェックを入れるとセットアップ時に入力したライセンス情報が表示されます。



[組織名]

セットアップ時に入力した組織名が表示されます。

[名前]

セットアップ時に入力した名前が表示されます。

[プロダクトキー]

セットアップ時に入力したプロダクトキーが表示されます。

[OK]

ウィンドウを閉じます。

オンラインサポート

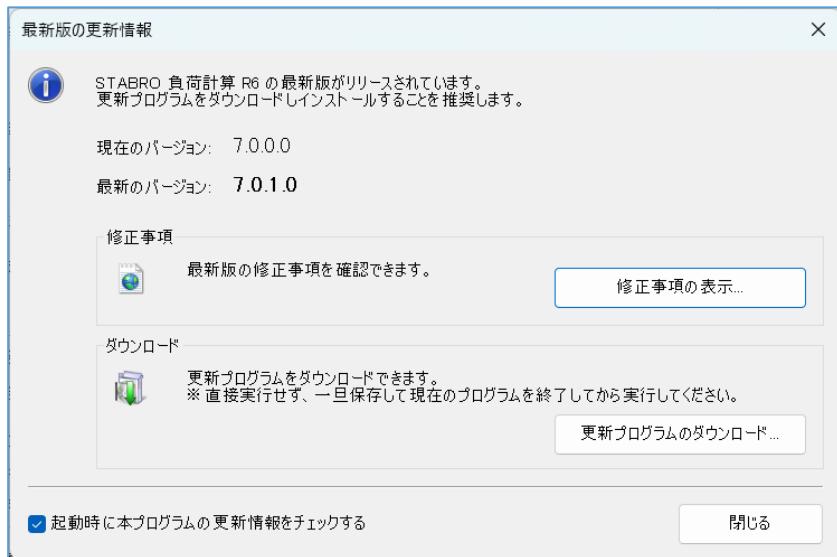
リボンメニューの[サポート(S)]-[オンラインサポート(O)]をクリックして表示します。



A screenshot of a web browser displaying the 'Customer Menu | Online Support' page. The URL is izumi-system-software.com/support/UserMenu.cgi. The page title is 'STABRO 負荷計算 オンラインサポート'. It shows a summary of the support system and a list of past inquiries. A blue button at the bottom left says 'New inquiry / Frequently asked questions'. The footer features the Izumi Consulting logo and the text '©2023 IZUMI CONSULTING'.

専用 Web サイトにてよくある質問の閲覧や問い合わせをすることができます。

最新版のチェック



デフォルトでは起動時に最新版プログラムの更新情報をチェックします。

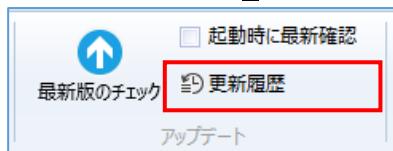
[サポート(S)]-[最新版のチェック(U)]メニューを選択し手動でチェックも可能です。

最新版プログラムがある場合は上記画面が表示され、修正内容の確認や更新プログラムをダウンロードすることができます。
※更新プログラムを適用する際は、必ずソフトを終了してから行ってください。

起動時に最新版プログラムの更新情報をチェックしない場合、[サポート(S)]-[起動時に最新確認(C)]チェックボックスを外してください。次回起動時より最新版のチェックは行いません。



更新履歴は[サポート(S)]-[更新履歴(H)]メニューをクリックすると表示されます。



STABRO 負荷計算 令和 6 年版

操作マニュアル

2025 年 6 月作成

制作者 株式会社イズミコンサルティング

〒162-0822

東京都新宿区下宮比町 2-1 第一勧銀飯田橋稻垣ビル 6 階

ホームページ URL <https://izmc.co.jp/>

お問い合わせフォーム :

<https://izmc.co.jp/it/software/>

└ [操作サポート・不具合] 027-384-2356

└ [ご契約・購入] 03-3868-3126

©Izumi Consulting Inc. All Rights Reserved.

- (1) 本書に記載されている事柄は、将来予告なしに変更することがあります。
- (2) このソフトウェアの仕様は、将来予告なしに変更することがあります。
- (3) 製品の内容については万全を期していますが、ご不審な点や誤り、マニュアルの記載もれなどお気づきの点がありましたら、弊社までご連絡ください。

STABRO は、(株)イズミコンサルティングの登録商標です。

Microsoft および Windows は、米国 Microsoft 社の登録商標です。

Adobe Reader、Acrobat は、Adobe Systems Incorporated(アドビシステムズ社)の商標です。

その他、会社名、製品名は、一般に各社の登録商標、商標です。